香川県警察本部機動隊舎建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告

# 汲仏遺跡

2018.3

香 川 県 教 育 委 員 会

# 序文

本書には、香川県警察本部機動隊舎建設工事に伴い発掘調査を実施した、香川県高松市多肥下町（たひしもまち）の汲仏遺跡（こんぼとけいせき）の報告を収録しています。

汲仏遺跡では、弥生時代前期の二重環濠に囲まれた環濠集落を検出しました。高松平野での環濠集落の調査例は少なく、高松平野での人々の生活の歴史を知るうえで貴重な成果をあげました。また、弥生時代後期の溝からは土器が大量に投棄された状態で見つかり、他県からの搬入品も含め製作地が複数想定されることがわかり、この地域の集落の土器の搬入状況を知る資料を得ることができました。

汲仏遺跡の調査成果が、本県の歴史研究の資料として広く活用されますとともに、埋蔵文化財に対する理解と関心が一層深められる一助となれば幸いです。

最後になりましたが、発掘調査から出土品の整理・報告に至るまでの間、関係機関ならびに地元関係者各位には多大なご協力とご指導をいただきました。ここに深く感謝申し上げるとともに、今後ともご支援賜りますようお願い申し上げます。

平成 30 年 3 月

香川県埋蔵文化財センター
所長　　増田　宏

# 例 言

1　本報告書は、香川県警察本部機動隊舎建設工事に伴い発掘調査を実施した、香川県高松市多肥下町に所在する汲仏遺跡（こんぼとけいせき）の報告書である。

2　発掘調査は、香川県教育委員会を調査主体、財団法人香川県埋蔵文化財調査センターを調査担当者として実施した。

3　発掘調査期間と担当者は次のとおりである。

平成 10 年度

期間　平成 10 年 10 月 1 日～平成 11 年 3 月 31 日

担当　文化財専門員　岡本　利　　文化財専門員　山元　素子

平成 12 年度

期間　平成 12 年 6 月 1 日～平成 12 年 7 月 31 日

担当　文化財専門員　蔵本　晋司　　文化財専門員　増井　泰弘

4　調査に当たっては建設省中国地方建設局営繕課、香川県警察本部の協力を得た。また、報告書作成に当たり、平成 9 年度に高松市教育委員会が実施した隣接地の立会調査との成果の照合について、高松市創造都市推進局文化財課の協力を得た。記して謝意を表したい。

5　報告書の作成は香川県埋蔵文化財センターが実施した。執筆担当は以下のとおり、編集は山元素子が担当した。

第 3 章第 3 節　SD205( 遺物部分）　SD301　　蔵本晋司

第 4 章第 1 節　渡辺正巳 ( 文化財調査コンサルタント株式会社）

第 4 章第 2 節　パリノ・サーヴェイ株式会社

その他　　山元素子

6　本報告書で用いる座標系は国土座標第Ⅳ系 ( 世界測地系 ) で、標高は東京湾平均海水面を基準とした。

7　遺構は次の略号により表示した。

SA　柵列　　SB　掘立柱建物　　SH　竪穴建物　　SP　柱穴・小穴　　SK　土坑　　ST　墓

SD　溝　　SX　性格不明遺構　　SZ　耕作痕

8　遺構断面図の水平線上の数値は水平線の標高線 ( 単位ｍ ) である。

9　遺構断面図中の注記の色調は小山正忠・竹原秀雄編『新版標準土色帖 32 版』を参照した。

10　土器観察表の色調は小山正忠・竹原秀雄編『新版標準土色帖 32 版』を参照した。また、残存率は遺物の図化部分に占める割合であり、完形品に対する割合ではない。

11　遺物の時期等については主に次の文献を参照し、本文中の時期・様式の表記をこれに拠った。

弥生時代前期

信里芳紀 2002「讃岐地方における弥生時代前期から中期前半の様相－集落の検討を中心にして－」『第 16 回古代学協会四国支部研究大会発表要旨集　弥生時代前期末～中期初頭の動態』

古代

佐藤竜馬 2016「9 世紀後葉～11 世紀前葉の供膳器種　讃岐における古代～中世土器編年をめぐって」『香川県埋蔵文化財センター年報　平成 26 年度』

中世

佐藤竜馬 2000「高松平野と周辺地域における中世土器の編年」『空港跡地整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告第 4 冊　空港跡地遺跡Ⅳ』香川県教育委員会･(財)香川県埋蔵文化財調査センター

# 本文目次

第１章　調査の経緯と経過
第１節　調査に至る経緯と経過 …… 1
第２節　調査の経過 …… 1

第２章　立地と環境
第１節　地理的環境 …… 3
第２節　歴史的環境 …… 3

第３章　調査の成果
第１節　調査の方法 …… 7
第２節　土層序 …… 7
第３節　遺構・遺物 …… 18

第４章　自然科学分析
第１節　汲仏遺跡出土サヌカイト製遺物の産地同定 …… 115
第２節　汲仏遺跡の花粉分析 …… 118

第５章　まとめ …… 121
第１節　遺構の変遷 …… 121
第２節　高松平野の環濠集落について …… 127

# 挿図目次


第 1 図　遺跡位置図 ……1
第 2 図　周辺遺跡位置図 ……5
第 3 図　調査区割図 ……6
第 4 図　Ⅰ区東壁断面図 ……8
第 5 図　Ⅰ区南壁断面図 ……9
第 6 図　Ⅱ区東壁断面図 ……10
第 7 図　Ⅱ区北・南壁断面図 ……11
第 8 図　Ⅲ区東壁断面図 ……12
第 9 図　Ⅲ区南・西壁断面図 ……13
第 10 図　Ⅳ区東壁断面図 ……14
第 11 図　遺構配置図 ……15 ～ 16
第 12 図　Ⅳ区北・南壁断面図 ……17
第 13 図　弥生時代前期ピット　平・断面図、出土遺物 ‥18
第 14 図　SK101　平・断面図、出土遺物……19
第 15 図　SK104　平・断面図、出土遺物……19
第 16 図　SK107　平・断面図、出土遺物……20
第 17 図　SK109　平・断面図、出土遺物……21
第 18 図　SK120　平・断面図、出土遺物……22
第 19 図　SK121　平・断面図、出土遺物……23
第 20 図　SK201　平・断面図……24
第 21 図　SK203　平・断面図……24
第 22 図　SK204　平・断面図、出土遺物……24
第 23 図　SK205　平・断面図、出土遺物……25
第 24 図　SK206　平・断面図、出土遺物……25
第 25 図　SK213　平・断面図、出土遺物……26
第 26 図　SK214　平・断面図、出土遺物……26
第 27 図　SK215　平・断面図、出土遺物……27
第 28 図　SK311　平・断面図、出土遺物……27
第 29 図　SX211・SX212　平・断面図、出土遺物 ‥29 ～ 30
第 30 図　SX211　遺物出土状況……31
第 31 図　SX211　出土遺物 (1) ……32
第 32 図　SX211　出土遺物 (2)……33 ～ 34
第 33 図　SX211　出土遺物 (3)……35 ～ 36
第 34 図　SX212　出土遺物……37
第 35 図　SX215　平・断面図……38
第 36 図　SX215　出土遺物 (1) ……39
第 37 図　SX215　出土遺物 (2) ……40
第 38 図　SX216　平・断面図……42
第 39 図　SX216　出土遺物……43
第 40 図　SD204　平・断面図、出土遺物……44
第 41 図　SD208　平・断面図、出土遺物……45
第 42 図　SD101　平・断面図、出土遺物……46
第 43 図　SD302　平・断面図……47
第 44 図　SD302　出土遺物 (1) ……48
第 45 図　SD302　遺物出土状況……49 ～ 50
第 46 図　SD302　出土遺物 (2) ……51
第 47 図　SD302　出土遺物 (3) ……52
第 48 図　SD103　平・断面図、出土遺物……53
第 49 図　SD308　平・断面図……54
第 50 図　SD308　出土遺物……55
第 51 図　SH401　平・断面図……56
第 52 図　SB102　平・断面図……57
第 53 図　弥生時代後期ピット　平・断面図、出土遺物 ‥57
第 54 図　SK103　平・断面図、出土遺物……58
第 55 図　SK108　平・断面図、出土遺物……59
第 56 図　SK110　平・断面図、出土遺物……60
第 57 図　SK111　平・断面図……60
第 58 図　SK113　平・断面図……60
第 59 図　ST001　平・断面図、出土遺物……61
第 60 図　ST002　平・断面図、出土遺物……62
第 61 図　ST003　平・断面図、出土遺物……63
第 62 図　SX101　平・断面図、出土遺物……64
第 63 図　SD102　平・断面図、出土遺物……65
第 64 図　SD205　平・断面図……66
第 65 図　SD205　遺物出土状況……67 ～ 68
第 66 図　SD205　出土遺物 (1) ……69
第 67 図　SD205　出土遺物 (2) ……70
第 68 図　SD205　出土遺物 (3) ……71
第 69 図　SD207　平・断面図……71
第 70 図　SD301　平・断面図……74
第 71 図　SD301　遺物出土状況……75 ～ 76
第 72 図　SD301　出土遺物 (1) ……77
第 73 図　SD301　出土遺物 (2) ……78
第 74 図　SD301　出土遺物 (3) ……79
第 75 図　SD301　出土遺物 (4) ……80
第 76 図　SD301　出土遺物 (5) ……81
第 77 図　SD301　出土遺物 (6) ……82
第 78 図　SD301　出土遺物 (7) ……83
第 79 図　SD301　出土遺物 (8) ……84
第 80 図　SD301　出土遺物 (9) ……85
第 81 図　SD301　出土遺物 (10) ……86
第 82 図　SB101　平・断面図 (1) ……87
第 83 図　SB101　断面図 (2)・出土遺物 (1) ……88
第 84 図　SB201　出土遺物……88
第 85 図　SB201　平・断面図 ……89 ～ 90
第 86 図　SB202　平・断面図、出土遺物 ……91 ～ 92
第 87 図　SB203　平・断面図、出土遺物……93
第 88 図　SB204　平・断面図、出土遺物……95
第 89 図　SB301　平・断面図、出土遺物……97 ～ 98
第 90 図　SB302　平・断面図、出土遺物……99
第 91 図　SA201　平・断面図 ……100
第 92 図　SA202　平・断面図、出土遺物 ……101
第 93 図　SA301　平・断面図、出土遺物 ……101
第 94 図　SA404　平・断面図 ……102
第 95 図　古代ピット　平・断面図、出土遺物 (1)……103
第 96 図　古代ピット　平・断面図、出土遺物 (2)……104
第 97 図　SK301　平・断面図、出土遺物……105
第 98 図　SD201・SD202・SD203・SD206
平・断面図、出土遺物……106
第 99 図　SD311・SD312・SD313
平・断面図、出土遺物……107
第 100 図　SD314 ～ SD322　平・断面図、出土遺物 ‥‥108
第 101 図　SK105　平・断面図、出土遺物……109
第 102 図　SK302　平・断面図……109
第 103 図　SK401　平・断面図……109
第 104 図　SD401　断面図……110
第 105 図　SA401　平・断面図 ……110
第 106 図　SA402　平・断面図 ……110
第 107 図　SA403　平・断面図 ……111
第 108 図　SK312　平・断面図……112
第 109 図　SK402　平・断面図……112
第 110 図　SK403　平・断面図……113
第 111 図　SD104　平・断面図……113
第 112 図　遺構外　出土遺物 ……114

第 113 図　花粉分析プレパラート内の状況写真 ･････････120
第 114 図　遺構変遷図 _ 弥生時代前期 ･････････････････123
第 115 図　遺構変遷図 _ 弥生時代後期 ･････････････････124
第 116 図　遺構変遷図 _ 平安時代 ･････････････････････125
第 117 図　遺構変遷図 _ 中近世 ･････････････････････････126

# 表目次

第 1 表　試料一覧及び同定結果･････････････････････････115
第 2 表　新たな原石群と遺物群･････････････････････････117
第 3 表　分析結果（元素比で示す）･････････････････････117
第 4 表　分析試料一覧 ･････････････････････････････････ 118
第 5 表　花粉分析結果 ･････････････････････････････････ 118
第 6 表　SD205,、SD301 出土弥生土器　器種別生産地の
　　割合 ･････････････････････････････････････････121
第 7 表　香川県内の環濠集落 ･･････････････････････････128
第 8 表　土器観察表（1）･･････････････････････････････129
第 9 表　土器観察表（2）･･････････････････････････････130
第 10 表　土器観察表（3）･････････････････････････････131
第 11 表　土器観察表（4）･････････････････････････････132
第 12 表　土器観察表（5）･････････････････････････････133
第 13 表　土器観察表（6）･････････････････････････････134
第 14 表　土器観察表（7）･････････････････････････････135
第 15 表　土器観察表（8）･････････････････････････････136
第 16 表　土器観察表（9）･････････････････････････････137
第 17 表　土器観察表（10）･････････････････････････････138
第 18 表　土器観察表（11）･････････････････････････････139
第 19 表　土器観察表（12）･････････････････････････････140
第 20 表　土器観察表（13）･････････････････････････････141
第 21 表　土器観察表（14）･････････････････････････････142
第 22 表　土器観察表（15）･････････････････････････････143
第 23 表　土器観察表（16）･････････････････････････････144
第 24 表　土器観察表（17）･････････････････････････････145
第 25 表　土器観察表（18）･････････････････････････････146
第 26 表　土器観察表（19）･････････････････････････････147
第 27 表　土器観察表（20）･････････････････････････････148
第 28 表　土器観察表（21）･････････････････････････････149
第 29 表　土器観察表（22）･････････････････････････････150
第 30 表　土器観察表（23）･････････････････････････････151
第 31 表　石器観察表 ･･････････････････････････････････ ･･152
第 32 表　金属器観察表 ･･････････････････････････････････ 152

# 図版目次

図版 1　汲仏遺跡　遠景 ( 南から )
図版 2　Ⅰ区　全景 ( 南西から )
　　Ⅱ区　全景 ( 北から )
図版 3　Ⅲ区　全景 ( 東から )
　　Ⅰ区　全景 ( 北から )
図版 4　Ⅱ区　西半全景 ( 南から )
　　Ⅱ区　全景 ( 西から )
図版 5　Ⅲ区　全景 ( 東南から )
　　Ⅲ区　全景 ( 西から )
図版 6　Ⅲ区　全景 ( 東から )
　　Ⅳ区　全景 ( 西から )
図版 7　Ⅰ区　南壁土層　東から 4 m付近　(SK121 付近 )
　　( 北から )
　　Ⅱ区　北壁土層　( 南から )
　　Ⅲ区　南壁土層　西から 2 m付近 (SB202 柱穴付近 )
　　( 北から )
図版 8　Ⅳ区　北壁土層 ( 南から )
　　Ⅳ区　東壁土層 ( 北西から )
図版 9　Ⅰ区　SK101　土層断面 ( 東から )
　　Ⅰ区　SK101　遺物出土状況 ( 南から )
　　Ⅰ区　SK104　土層断面 ( 南から )
　　Ⅰ区　SK107　土層断面 ( 北から )
　　Ⅰ区　SK107　遺物出土状況 ( 南から )
図版 10　Ⅰ区　SK109　土層断面 ( 東から )
　　Ⅰ区　SK109　遺物出土状況 ( 北東から )
　　Ⅰ区　SK109　遺物出土状況 ( 南西から )
図版 11　Ⅰ区　SK120 土層断面 ( 東から )
　　Ⅰ区　SK121 土層断面 ( 北から )
　　Ⅰ区　SK121 遺物出土状況 ( 北から )
図版 12　Ⅰ区　SK121 遺物出土状況 ( 北から )
　　Ⅱ区　SK204 土層断面 ( 北から )
　　Ⅱ区　SK204 遺物出土状況 ( 南から )
図版 13　Ⅱ区　SK205 土層断面 ( 西から )
　　Ⅱ区　SK205 遺物出土状況 ( 西から )
　　Ⅱ区　SK206 土層断面 ( 東から )
　　Ⅱ区　SK213 土層断面 ( 南から )
図版 14　Ⅱ区　SX212　土層断面 ( 北から )
　　Ⅱ区　SX211　土層断面 ( 東から )
　　Ⅱ区　SX211　遺物出土状況 ( 北から )
図版 15　Ⅱ区　SX215　土層断面 ( 北から )
　　Ⅱ区　SX215　土層断面 ( 北から )
　　Ⅱ区　SX215　土層断面 ( 西から )
　　Ⅱ区　SX215　土層断面 ( 西から )
　　Ⅱ区　SX215　完掘 ( 西から )
図版 16　Ⅱ区　SX216　遺物出土状況 ( 東から )
　　Ⅱ区　SX216　土層断面 ( 西から )
図版 17　Ⅱ区　SD208　土層断面 ( 北から )
　　Ⅱ区　SD208　遺物出土状況 ( 北西から )
　　Ⅰ区　SD101　土層断面 ( 西から )
　　Ⅲ区　SD302　土層断面 ( 西から )
　　Ⅲ区　SD302　土層断面 ( 北から)
図版 18　Ⅲ区　SD302　遺物出土状況 ( 北東から )
　　Ⅲ区　SD302　遺物出土状況 ( 北西から )
　　Ⅲ区　SD302　完掘 ( 南西から )
図版 19　Ⅰ区　SD103　土層断面 ( 東から )
　　Ⅰ区　SD103　遺物出土状況 ( 南東から )
　　Ⅲ区　SD308　土層断面 (b-b ´ )( 南から )
　　Ⅲ区　SD308　遺物出土状況 ( 南から )
図版 20　Ⅲ区　SD302･308　全景 ( 南東から )
　　Ⅲ区　SD302･308　全景 ( 南から )
図版 21　Ⅰ区　SB102　全景 ( 東から )
　　Ⅰ区　SB102(SP1057)　土層断面 ( 東から )

# 図版目次


Ⅰ区　SB102(SP1056)　土層断面 ( 東から )
Ⅰ区　SB102(SP1061)　土層断面 ( 南から )
Ⅰ区　SB102(SP1058)　土層断面 ( 南から )
図版 22　Ⅳ区　SH401　全景　( 西から )
Ⅰ区　SK103　土層断面 ( 南西から )
Ⅰ区　SK108　土層断面 ( 東から )
Ⅰ区　SK110　土層断面 ( 西から )
Ⅰ区　SK108　遺物出土状況 ( 東から )
図版 23　Ⅰ区　SK110　礫出土状況 ( 東から )
Ⅰ区　ST001　土層断面 ( 西から )
Ⅰ区　ST001　遺物出土状況 ( 東から )
図版 24　Ⅰ区　ST001　遺物出土状況 ( 北西から )
Ⅰ区　ST002　遺物出土状況 ( 南から )
Ⅰ区　ST002　遺物出土状況 ( 西から )
図版 25　Ⅲ区　ST003　遺物出土状況 ( 東から )
Ⅱ区　SD205　遺物出土状況南半 ( 北から )
Ⅱ区　SD205　遺物出土状況北半 ( 南から )
図版 26　Ⅱ区　SD205　遺物出土状況 ( 北から )
Ⅱ区　SD205　遺物出土状況 ( 南から )
Ⅲ区　SD301　東壁 ( 西から )
図版 27　Ⅲ区　SD301　土層断面 (a-a ´ )( 北東から )
Ⅳ区　SD301　北壁 ( 南から )
Ⅳ区　SD301　土層断面 (d-d ´ )( 北から )
Ⅳ区　SD301　遺物出土状況 ( 北から )
図版 28　Ⅲ区　SD301　遺物出土状況 ( 南西から )
Ⅲ区　SD301　完掘 ( 北東から )
Ⅳ区　SD301　完掘 ( 南西から )
図版 29　Ⅳ区　SD301　遺物出土状況 ( 東から )
Ⅳ区　SD301　遺物出土状況 ( 東から )
Ⅳ区　SD301　遺物出土状況 ( 東から )
Ⅳ区　SD301　北壁部分 ( 南から )
Ⅲ区　SD301　遺物出土状況 ( 東から )
Ⅲ区　SD301　遺物出土状況 ( 東から )
図版 30　Ⅰ区　SB101　全景 ( 北東から )
Ⅰ区　SB101　全景 ( 東から )
Ⅰ区　SB101(SP1072) 土層断面 ( 北から )
Ⅰ区　SB101(SP1095)　土層断面 ( 南から )
図版 31　Ⅲ区　SA201･SB201･202　全景 ( 南から )
Ⅱ区　SB201(SP2041)　土層断面 ( 西から )
Ⅱ区　SB201(SP2046)　土層断面 ( 北から )
Ⅱ区　SB201(SP2048)　土層断面 ( 西から )
Ⅱ区　SB201(SP2024)　土層断面 ( 西から )
図版 32　Ⅱ区　SB201(SP2025)　土層断面 ( 西から )
Ⅱ区　SB201(SP2028)　土層断面 ( 南から )
Ⅱ区　SB201(SP2028) 遺物出土状況 ( 南から )
Ⅱ区　SB201(SP3023)　土層断面 ( 北から )
Ⅱ区　SB201(SP3011)　土層断面 ( 南東から )
Ⅱ区　SB202(SP2011) 遺物出土状況 ( 南西から )
Ⅱ区　SB202(SP3002)　土層断面 ( 北から )
Ⅱ区　SA201(SP2069)　土層断面 ( 南から )
図版 33　Ⅲ区　SB301　全景 ( 南から )
Ⅲ区　SB301(SP3087)　土層断面 ( 西から )
Ⅲ区　SB301(SP6002)　土層断面 ( 東から )
Ⅲ区　SB301(SP6009)　土層断面 ( 西から )
Ⅳ区　SA4041(SP4017･4027) 半裁状況 ( 南西から )
Ⅳ区　SA404(SP4017)　土層断面 ( 東から )
Ⅳ区　SA404(SP4027)　土層断面 ( 東から )
図版 34　Ⅳ区　SA401･402　全景 ( 南から )
Ⅳ区　SA403　全景 ( 北から )
Ⅳ区　SK401　土層断面 ( 南から )
Ⅳ区　SZ401　耕作痕　( 南から )
図版 35　出土土器 (1)
図版 36　出土土器 (2)
図版 37　出土土器 (3)
図版 38　出土土器 (4)
図版 39　出土土器 (5)
図版 40　出土土器 (6)
図版 41　出土土器 (7)
図版 42　出土土器 (8)
図版 43　出土土器 (9)
図版 44　出土土器 (10)
図版 45　出土土器 (11)
図版 46　出土石器 (1)
図版 47　出土石器 (2)
図版 48　出土石器 (3)
図版 49　出土石器 (4)


# 付図目次


付図 1　汲仏遺跡遺構平面図

# 第１章　調査の経緯と経過

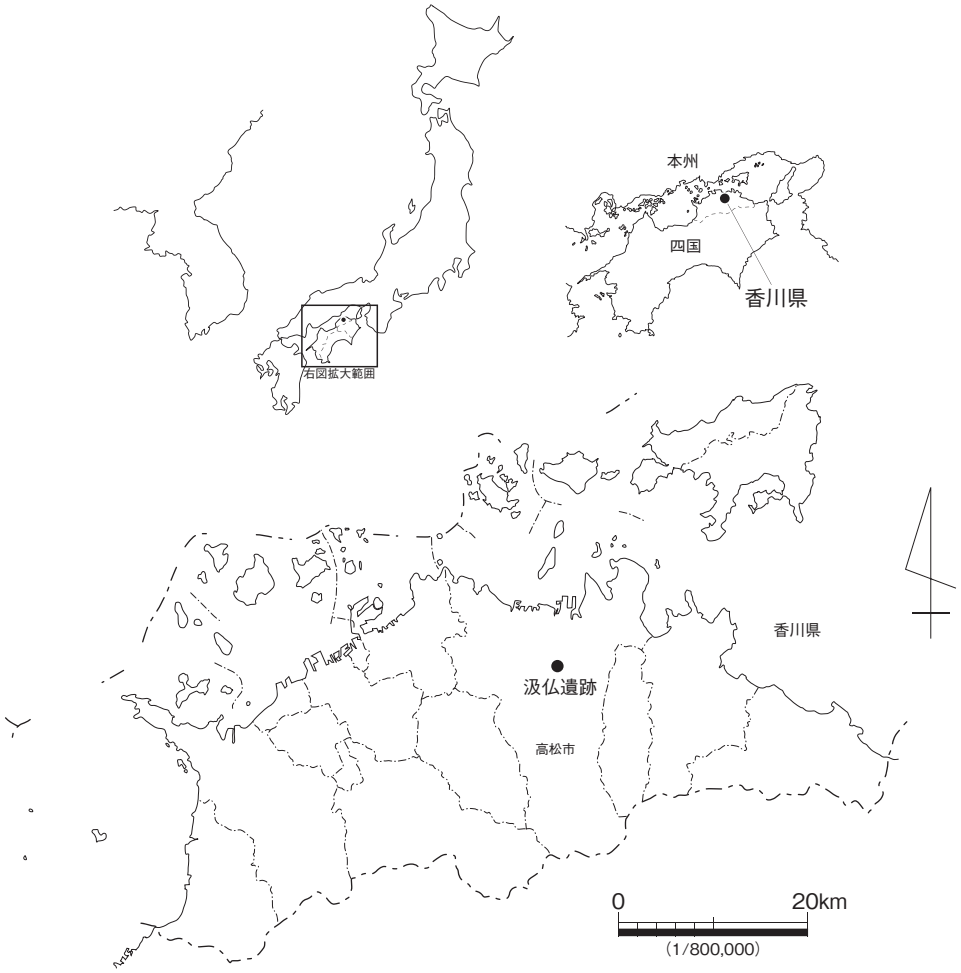
## 第１節　調査に至る経緯と経過

香川県警察本部の機動隊舎を高松市多肥下町の四国管区警察局用地へ移転することに伴い、香川県教育委員会事務局文化行政課では事業用地内の埋蔵文化財の包蔵状況を確認し、適切な保護措置を講じるため、平成９年９月に試掘調査を実施した。その結果、事業地内全域に遺跡が広がるものと判断された。

事業用地内の埋蔵文化財の取り扱いについて、香川県教育委員会と建設省中国地方建設局営繕部及び香川県警察本部会計課の間で協議を行った結果、事業の実施に先立ち、文化財保護法に基づく保護措置を講じる必要があるため、発掘調査を行うこととなった。

## 第２節　調査の経過

平成10年４月１日付けで香川県教育委員会と財団法人香川県埋蔵文化財調査センターで締結された「埋蔵文化財調査契約」に基づき、建築物建設予定地2,470㎡について、平成10年10月１日～平成11年１月31日まで発掘調査を実施した。




第１図　遺跡位置図

その後、事業地南東部に潜水訓練槽及びレンジャー塔を建設することになったため、平成 12 年 4 月 12 日付けで香川県教育委員会と財団法人香川県埋蔵文化財調査センターの間で締結した「埋蔵文化財調査契約」に基づき、当該地 360㎡について平成 12 年 6 月 1 日～平成 12 年 7 月 31 日まで発掘調査を実施した。

整理作業は平成 28 年 12 月 1 日～平成 29 年 3 月 31 日まで実施した。遺物の実測・浄書の一部については株式会社イビソクに委託した。

発掘調査及び整理作業の体制は以下のとおりである。

| 平成 10 年度発掘調査体制一覧表 | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 香川県教育委員会文化行政課 | | | 財団法人香川県埋蔵文化財調査センター | | |
| 総括 | 課長 | 小原　克己 | 総括 | 所長 | 菅原　良弘 |
| | 課長補佐 | 北原　和利 | | 次長 | 小野　善範 |
| 総務 | 係長 | 中村　禎伸 | 総務 | 参事 | 別枝　義昭 |
| | 主査 | 三宅　陽子 | | 副主幹兼係長 | 田中　秀文 |
| | 主査 | 松村　崇史 | | 主査 | 長尾　寿江子 |
| | | | | 主査 | 新　一郎 |
| | | | | 主査 | 林　照代 |
| | | | | 主事 | 細川　信哉 |
| 埋蔵文化財 | 副主幹 | 渡部　明夫 | 調査 | 参事 | 長尾　重盛 |
| | 係長 | 西村　尋文 | | 主任文化財専門員 | 大山　真充 |
| | 主任技師 | 塩崎　誠司 | | 主任文化財専門員 | 藤好　史郎 |
| | | | | 文化財専門員 | 岡本　利 |
| | | | | 文化財専門員 | 山元　素子 |
| | | | | 調査技術員 | 滝井　理加 |

| 平成 12 年度発掘調査体制一覧表 | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 香川県教育委員会文化行政課 | | | 財団法人香川県埋蔵文化財調査センター | | |
| 総括 | 課長 | 小原　克己 | 総括 | 所長 | 菅原　良弘 |
| | 課長補佐 | 小国　史郎 | | 次長 | 川原　裕章 |
| 総務 | 係長 | 中村　禎伸 | 総務 | 副主幹 | 大西　誠治 |
| | 主査 | 三宅　陽子 | | 副主幹兼係長 | 六車　正憲 |
| | 主事 | 亀田　幸一 | | 係長 | 新　一郎 |
| | | | | 主査 | 長尾　寿江子 |
| | | | | 主査 | 山本　和代 |
| | | | | 主任主事 | 高木　康晴 |
| | | | 調査 | 参事 | 長尾　重盛 |
| 埋蔵文化財 | 副主幹 | 廣瀬　常雄 | | 主任文化財専門員 | 藤好　史郎 |
| | 係長 | 西岡　達哉 | | 文化財専門員 | 西村　尋文 |
| | 文化財専門員 | 森　格也 | | 文化財専門員 | 蔵本　晋司 |
| | 文化財専門員 | 宮崎　哲治 | | 文化財専門員 | 増井　泰弘 |
| | | | | 調査技術員 | 豊岡　多恵 |

| 平成 28 年度整理作業体制一覧表 | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 香川県教育委員会生涯学習・文化財課 | | | 香川県埋蔵文化財センター | | |
| 総括 | 課長 | 小柳　和代 | 総括 | 所長 | 増田　宏 |
| | 副課長 | 片桐　孝浩 | | 次長 | 森　格也 |
| 総務・生涯学習推進グループ | 課長補佐 | 愛染　伊知朗 | 総務課 | 課長（兼） | 森　格也 |
| | 副主幹 | 松下　由美子 | | 副主幹 | 斎藤　政好 |
| | 主事 | 和木　麻佳 | | 主任 | 寺岡　仁美 |
| 文化財グループ | 課長補佐（兼） | 片桐　孝浩 | | 主任 | 丸尾　真知子 |
| | 主任文化財専門員 | 山下　平重 | | 主任 | 岩崎　昌平 |
| | 主任文化財専門員 | 乗松　真也 | 資料普及課 | 課長 | 古野　徳久 |
| | | | | 文化財専門員 | 山元　素子 |
| | | | | 嘱託 | 青屋　真理 |
| | | | | 嘱託 | 甲斐　美智子 |
| | | | | 嘱託 | 高橋　千恵 |
| | | | | 嘱託 | 正本　由紀子 |
| | | | | 嘱託 | 森　后代 |

# 第２章　立地と環境

## 第１節　地理的環境

汲仏遺跡は、東を春日川、西を御坊川（旧香東川）に挟まれた高松平野の中央部付近に位置し、旧香東川によって形成された扇状地帯の中央部に立地する。周辺には条里型地割が広く展開するが、一部に帯状に地割の乱れるところがみられる。条里型地割に乱れがある部分は地表面の微妙な高低差を反映していると考えられ、旧河道や氾濫原、低地部であったと考えられる。汲仏遺跡が立地する周辺地域は高橋学（1992）などにより微地形分析が行われ、遺跡周辺には埋没した旧河道が網の目のように分布することが明らかとなっている。

本遺跡は、居石遺跡から多肥松林遺跡へと続く流路と居石遺跡から北西へ蛇行しながら流れる流路の間の埋没中洲・自然堤防上に位置する。

## 第２節　歴史的環境

汲仏遺跡ではおもに弥生時代前期、弥生時代後期、古代の遺構を検出したので、これらの時代について記述する。

１．弥生時代前期

汲仏遺跡では弥生時代前期Ⅰｃ～Ⅱａ期 ( 信里　2002）の環濠集落を検出したが、高松平野の環濠集落としては天満宮西遺跡、鬼無藤井遺跡などがあげられる。

天満宮西遺跡は汲仏遺跡から約 2㎞北側の微高地上に位置する。弥生時代前期Ⅰｃ～Ⅱａ期の集落で、汲仏遺跡と存続時期が重なる。一重環濠で長軸 80m、短軸 65m を測る。後世の削平により確認された遺構は少ないが、環濠内で土坑を３基確認した。天満宮西遺跡の南東約 100m の地点では弥生時代前期Ⅱａ～Ⅱｂ期に相当する溝があり、天満宮西遺跡に続く集落の可能性が指摘されている。

同じく高松平野の環濠集落である鬼無藤井遺跡は、汲仏遺跡からは約 7㎞北西に離れた微高地上にある、二重環濠を持つ集落である。存続時期は弥生時代Ⅱａ期、規模は長軸 80m、短軸 60m である。環濠内からは竪穴建物４棟、掘立柱建物１棟、土坑数基が検出されている。鬼無藤井遺跡の前段階である弥生時代Ⅰｃ期には、600m ほど離れた西打遺跡に集落が確認されており、集落が移動した可能性も指摘されている。

汲仏遺跡の周辺では、前述の天満宮西遺跡の他は集落は見つかっていない。弥生時代前期Ⅰｂ期では多肥宮尻遺跡で旧流路、弥生時代前期Ⅰｃ～Ⅱｂ期では空港跡地遺跡で旧流路、突帯文期～前期Ⅱａ期にかけて林・坊城遺跡では旧流路、溝などが検出されている。集落ではやや時期が下る弥生時代Ⅱｃ期～中期初頭の宮西一角遺跡や空港跡地遺跡がある。

生産遺跡としては、長池から大池へ至る旧河道が想定される周辺で、さこ・長池遺跡、上西原遺跡、弘福寺領田図北地区Ｃ区で弥生時代前期の水田遺構が検出されている。この３遺跡は近接しており、同一集団による生産遺跡とされている。これらはいずれも弥生時代前期後葉の洪水砂により埋没している。おそらく周辺の旧河道の洪水により一度に水田が埋没し、この時期の集落は生産基盤を失い消

滅したとされている（高松市教育委員会　2002.12『太田第２土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財調査報告　第６冊　天満宮西遺跡』）。

２．弥生時代後期

汲仏遺跡の約 750m南側に位置する多肥松林遺跡を中心とした多肥遺跡群では弥生時代中期中葉以降広範囲に集落が形成される。中期中葉には多肥宮尻遺跡を主水源とする、基幹水路となる灌漑用水路が開削され、古墳時代後期まで維持管理される。中期後半には一度集落は途絶えるが、後期中葉頃から再び集落が形成され、後期後半頃には多肥松林遺跡、日暮松林遺跡を中心に小規模な集落が点在する状況がみられる。

約 800m北側に位置する太田下・須川遺跡では、弥生時代後期から竪穴建物などの集落が営まれ、灌漑用水路の掘削も行われる。また、散在した状態で土器棺墓が２基検出された。

３．古代

汲仏遺跡は古代の行政区画では香川郡多肥郷に位置する。多肥地域は古代の遺跡が多くみられる地域である。

約 700m東側には山田郡と香川郡の郡界線、約 2km南側には推定南海道がある。また、山田郡と香川郡の郡界付近の山田郡側は弘福寺領山田郡田図の範囲に想定されており、弘福寺領が付近にあったことが考えられる。本遺跡の東・北を通る道路は条里型地割の坪界線に復元できる。

空港跡地遺跡 ( 県立図書館・文書館建設事業 ) では、8 世紀後半を中心とした条里型地割と同方向の基幹水路と掘立柱建物群からなる集落を検出している。当該地は弘福寺領山田郡田図の南地区の一部とする復元案もある。

多肥松林遺跡は８世紀中頃～ 10 世紀前半の遺跡である。木製祭祀具である斎串・木製模造品や墨書土器などが旧流路から多数出土し、水路維持に関する祭祀を行う場であった可能性が指摘されている。周辺では、居石遺跡、太田下・須川遺跡などで同様の木製祭祀具と墨書土器をセットとした祭祀を行ったことが知られている。掘立柱建物群は規則的な配置をしておらず官衙施設とは考え難いが、帯金具や硯など官衙施設で出土例が多い、官衙的色彩の強い遺物が出土している。

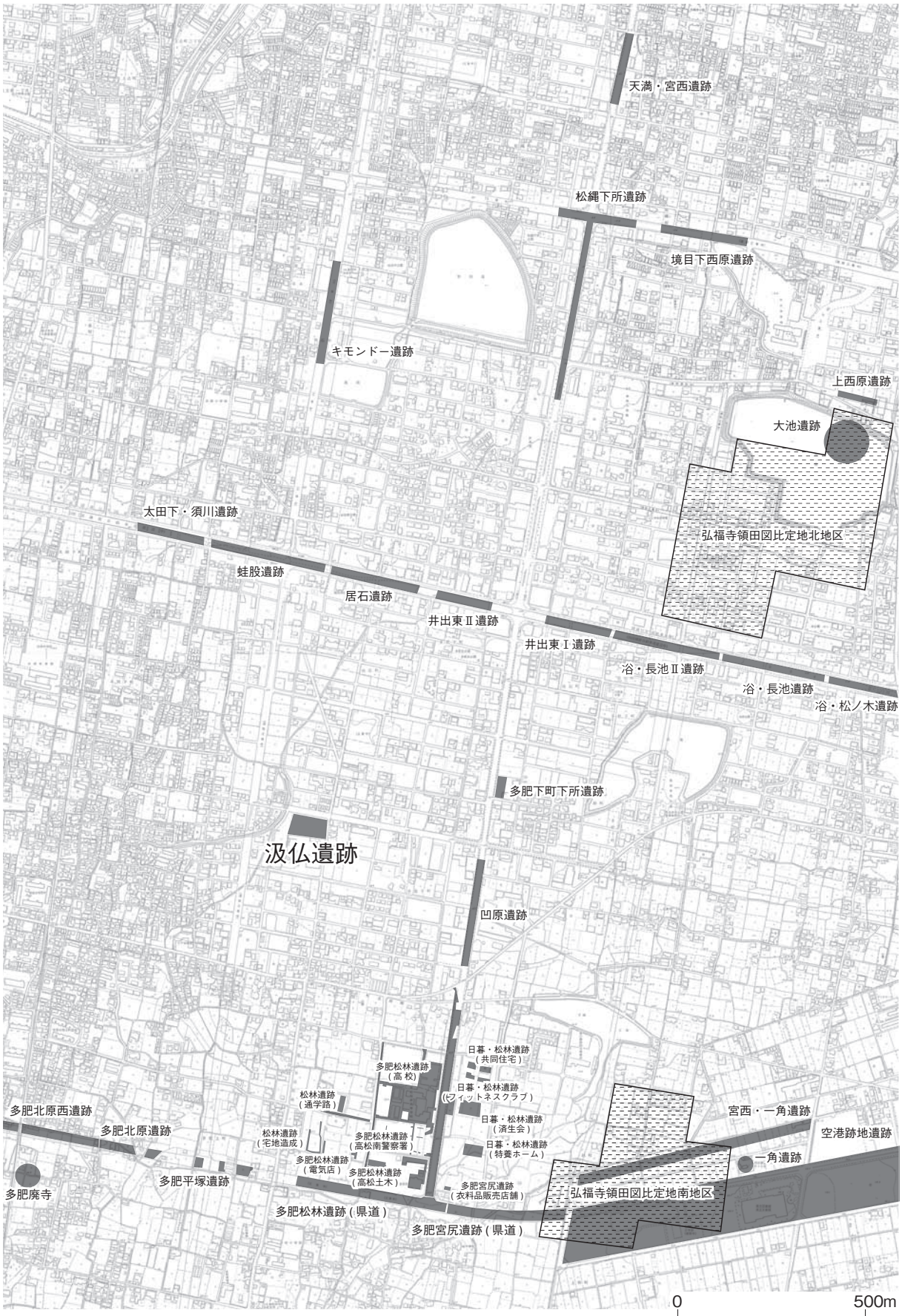
多肥北原西遺跡では、8 ～ 10 世紀の道路状遺構と大型建物が検出された。道路の交差点となる部分を中心に、交差点から西向き、東向きの交通上の目的地や南海道から分岐する北向きの道路の役割について考察されている。また、10 世紀代の道路側溝からは鉄滓が多数出土している。

多肥北原西遺跡から 100mほど南側では、多肥廃寺とされる古代瓦の散布地がある。現在は寺域も定かではないが、出土した瓦から平安期の寺院とみられている。

〈参考文献〉

高橋学　1992.3「高松平野の地形環境―弘福寺領山田郡田図比定地付近の微地形環境を中心に―」『讃岐国弘福寺領の調査　弘福寺領讃岐国山田郡田図調査報告書』高松市教育委員会

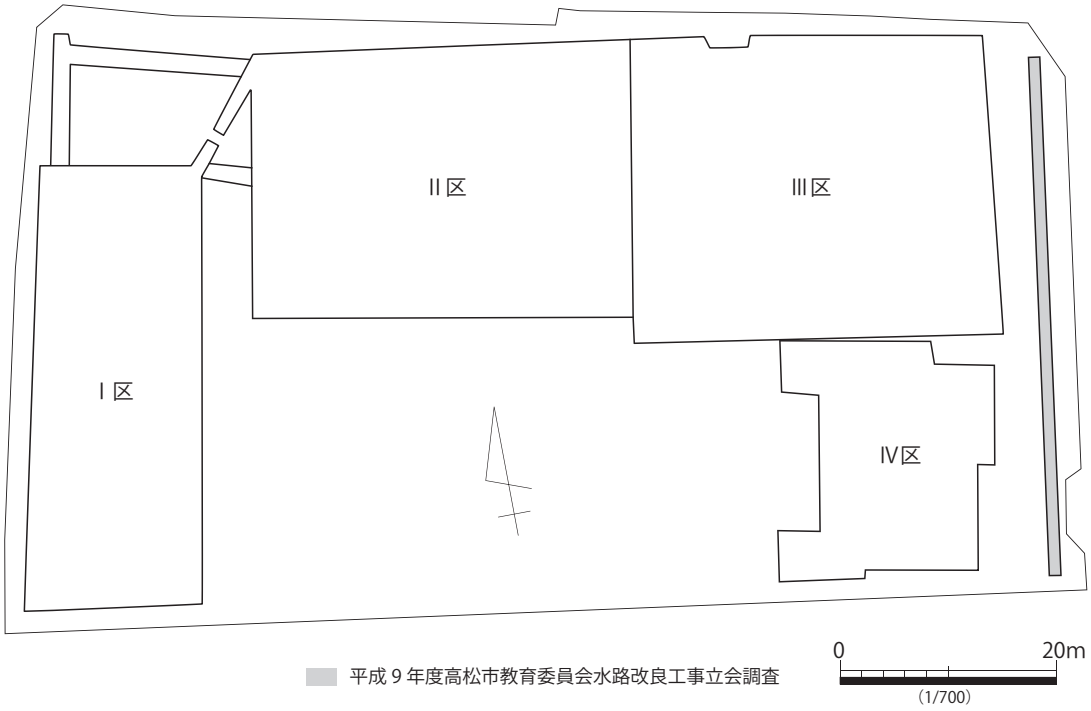
香川県教育委員会ほか　1995.3『高松東道路建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告　第４冊　太田下・須




※高松市都市計画図 (1/5,000) を一部加筆して使用

第２図　周辺遺跡位置図

川遺跡』
高松市教育委員会　1997.3『都市計画道路福岡多肥上町線建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告　日暮松林遺跡』
財団法人香川県埋蔵文化財調査センター　1999.3『高校新設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告　第1冊　多肥松林遺跡』　香川県教育委員会
高松市教育委員会　2001.3『高松港頭地区再開発関連事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告　鬼無藤井遺跡』
信里芳紀「讃岐地域における弥生時代前期から中期前半の様相」『第16回古代学協会四国支部研究大会　弥生時代前期末・中期初頭の動態―研究発表要旨―』　2002.12　古代学協会四国支部
高松市教育委員会　2002.12『太田第2土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財調査報告　第6冊　天満宮西遺跡』
香川県教育委員会　2007.3『空港跡地整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告　第9冊（県立図書館・文書館建設事業）　空港跡地遺跡Ⅸ』
香川県教育委員会　2015.3『県道多肥上町志度線道路改築事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告　多肥北原西遺跡』
香川県教育委員会　2016.2『高松土木事務所建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告　多肥松林遺跡』




第３図　調査区割図

# 第３章　調査の成果

## 第１節　調査の方法

平成 10 年度の調査対象地は車庫予定地と機動隊舎建設予定地であった。作業ヤードの確保および調査面積を勘案し、車庫予定地をⅠ区、機動隊舎予定地を２分割してⅡ・Ⅲ区とし、全体を３分割して調査を行った。また車庫と機動隊舎をつなぐ配管部分についても併せて調査を実施した。平成 12 年度はレンジャー棟建設予定地をⅣ区として調査を実施した。

遺構検出面までは重機を用いて掘削し、遺構検出面以下は人力により掘り下げた。

遺構名は、調査時は各調査区ごとに付したが、本報告書では全調査区を通した新たに遺構名を付した。本文中の調査区の記載は発掘調査時のものを踏襲する。

なお第３図に示した網掛け部分は、平成９年度に高松市教育委員会が実施した水路改良工事に伴う立会調査の位置である。

## 第２節　土層序

Ⅰ区（第４・５図）

東壁と南壁で土層図を作成した。概ね上面は厚さ 20㎝程度の造成土が覆うが、その下部は北部では耕作土・床土直下で灰色砂礫のベース、中央～南部では耕作土・床土の下部で厚さ５～ 10㎝程度の褐灰色シルト層を挟む明黄褐色シルト・黄灰色粘質土などのベースである。遺構面のレベルは 17.90 ～ 18.00 m程度であるが、第３節で記述するように遺構面はかなり削平されていると考えられる。

Ⅱ区（第６・７図）

Ⅱ区では東南部で２面の遺構面が確認された。北端付近で造成土・耕作土・床土直下に砂礫のベースが認められ遺構はベース直上で検出したが、東・南側ほど第１遺構面である遺物包含層の堆積が厚く見られ、東南部で最も厚く堆積する。

東壁、北壁の一部、南壁の一部の土層図を作成した。

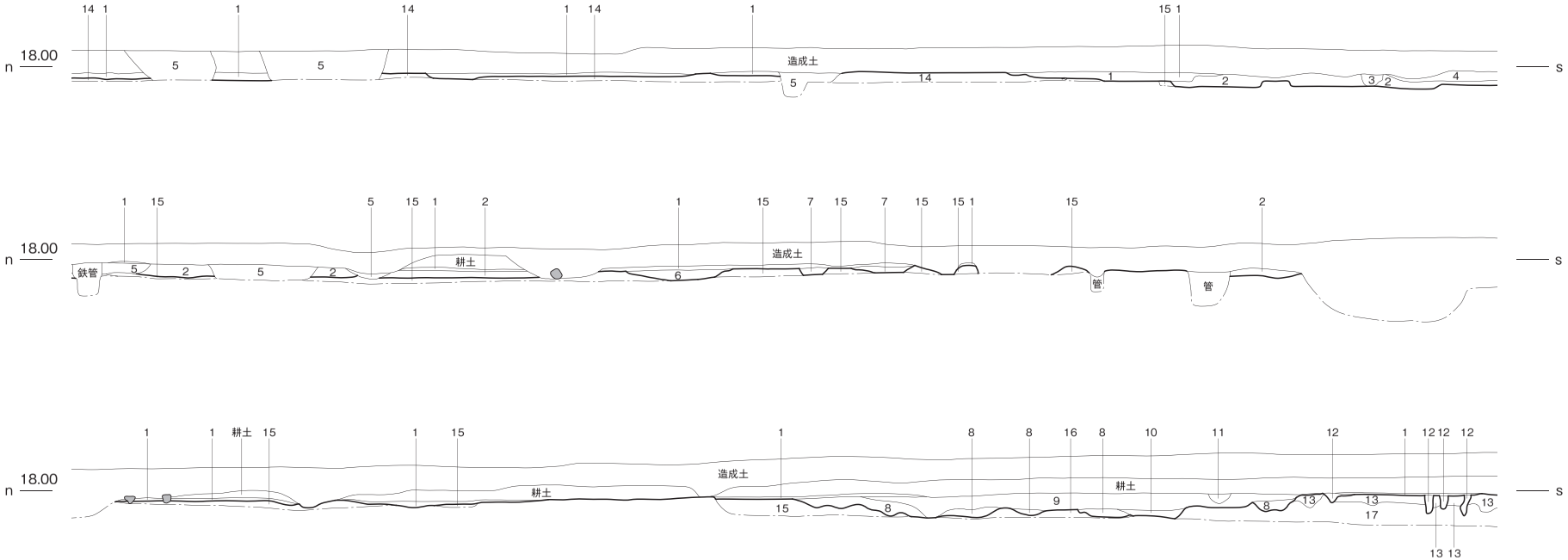
東壁では、造成土、耕作土、床土の下部に厚さ５㎝程度の褐灰色粘質土層の遺物包含層が堆積する。この上面が古代の遺構面（第１遺構面）である。包含層の下部は浅黄色砂質土のベースで、弥生時代の遺構面（第２遺構面）である。ベースのレベルは 17.65 m程度である。

北壁では旧耕土・床土の下部に灰色砂礫のベースがある。遺構面のレベルは 17.90m程度である。

南壁の西側では耕作土の下部で厚さ 15㎝の黄灰色シルト層、その下部が黄色シルトのベースである。東側では厚さ 10㎝の黒褐色細砂質土の包含層が堆積し、その下部に灰色シルトのベースがある。遺構面のレベルは 17.65m である。

Ⅲ区（第８・９図）

造成土・耕作土・床土直下で厚さ２～ 8㎝の黒褐色細砂質土（非常に良く締まる）の遺物包含層、その下部に明黄褐色シルトなどのベースがある。東側ほど遺物包含層は厚く堆積する。南北方向については遺物包含層の厚さはそれほど変化はないが、北側ほどよく締まる。遺物包含層の上面が古代の遺構面（第１遺構面）、ベース直上が弥生時代の遺構面（第２遺構面）である。第１遺構面のレベルは 17.5m、第２遺構面のレベルは 17.4 mである。

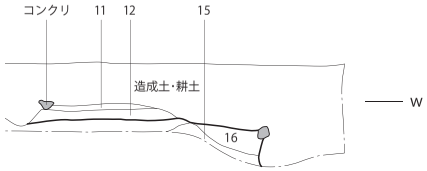


1　7.5YR6/8 橙色粘質土（床土）
2　10YR5/1 褐灰色シルト（Mn･ベースが混じる）
3　10YR5/1 褐灰色シルト
4　旧耕土
5　撹乱土
6　10YR4/1 褐灰色シルト
7　10YR5/1 褐灰色シルト
8　5Y5/1 灰色シルト
9　10YR4/1 褐灰色シルト（黄色土が斑状に少し混じる）
10　9 で黄色土がやや多い
11　10BG6/1 青灰色砂質土（旧耕土）
12　7.5Y4/1 灰色シルト（黄色土が斑状に混じる）
13　10YR4/1 褐灰色シルトに 2.5Y7/8 黄色シルトが斑に混じる
14　N5/ 灰色砂礫
15　10YR7/6 明黄褐色シルト
16　2.5Y7/6 明黄褐シルト
17　10GY6/1 緑灰色シルト
（8 ～ 10：SD103、13 ～ 17：ベース）

土器
石

0　2m
(1/60)

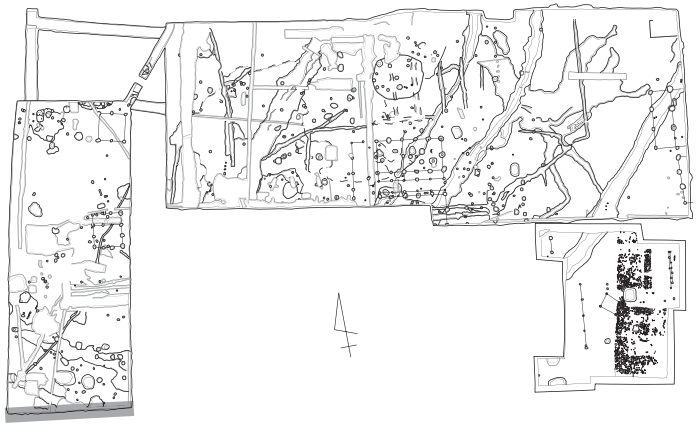
第４図　Ⅰ区東壁断面図




10YR6/8 明黄褐色細砂質土（床土）
5Y5/1 灰色砂混粘土
7.5YR4/1 褐灰色シルトで黄色土が斑状に少し混じる
7.5Y4/1 灰色シルト
６で黄色土が６よりやや多い
黄色土で茶褐色シルトが少し混じる
7.5Y4/1 灰色シルト（ベースブロックが少し混じる）
10YR4/1 褐灰色砂質土
10YR5/2 灰黄褐色粘質土
灰色砂質土（旧耕土）に黄色土ブロックが混じる
7.5YR6/8 橙色砂質土（床土）
10YR5/1 褐灰色砂質土
10YR4/1 褐灰色シルトに 2.5Y7/8 黄色シルトが斑に混じる
２で 10YR4/1 褐灰色シルトが少し混じる
7.5YR5/1 褐灰色砂質土
7.5YR5/1 褐灰色砂質土（砂・礫が混じる）
10GY6/1 緑灰色シルト
10YR6/8 明黄褐色粘質土
2.5Y5/1 黄灰色粘質土（固い）
・5・7：SK121、12：SD104、13～19：ベース）

土器
石

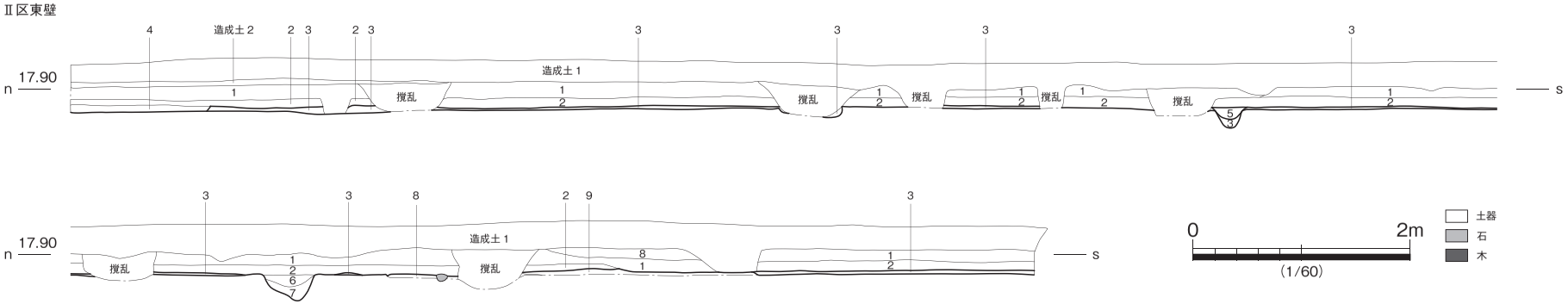
0　2m
（1/60）



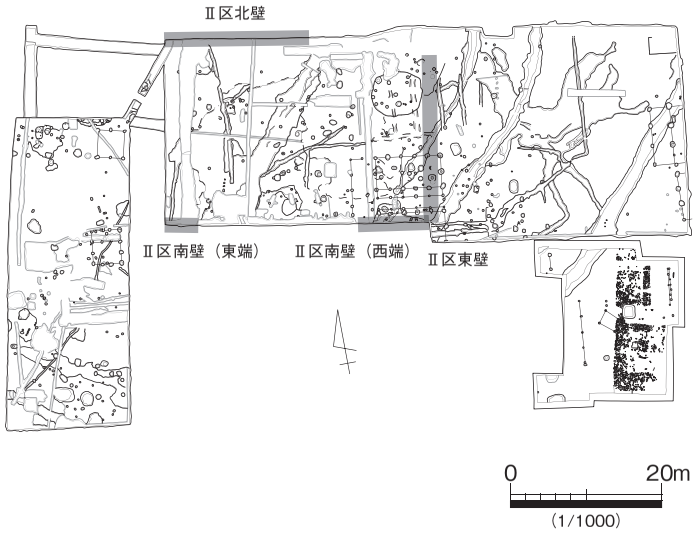
Ⅰ区南壁

0　20m
（1/1000）

第５図　Ⅰ区南壁断面図

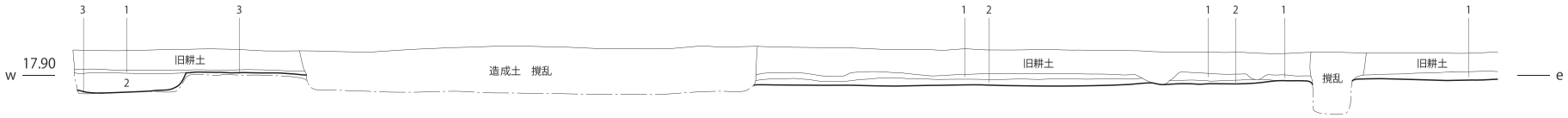


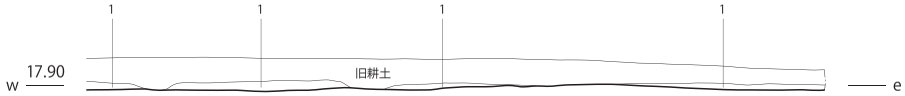

1　10Y6/1 灰色砂質土（旧耕土）
2　7.5Y7/1 灰白色砂質土（上面に Fe、旧耕土、下端に床土）
3　10YR4/1 褐灰色粘質土（Mn が混じる、第１遺構面、包含層）
4　10YR6/1 褐灰色粘質土
5　5Y3/1 オリーブ黒色粘質土
6　7.5YR4/1 褐灰色シルト（黄色土（ベース）ブロックが混じる）
7　10YR4/1 褐灰色シルト
8　5Y5/1 灰色砂質土（旧耕土）
9　2.5Y7/4 浅黄色砂質土（第２遺構面　ベース）
（6・7：SP2040）




第６図　Ⅱ区東壁断面図

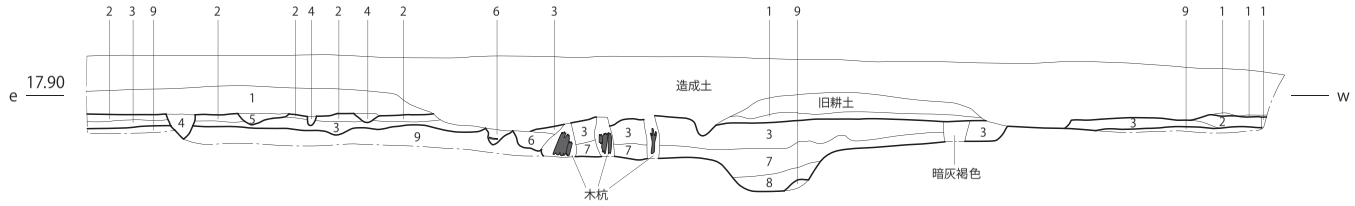
Ⅱ区北壁



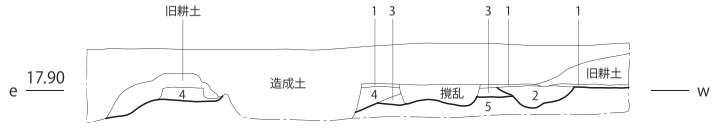

1　5YR6/8 橙色粘質土（床土）
2　2.5Y5/1 黄灰色シルト（包含層）
3　灰色砂礫（第２遺構面　ベース）

Ⅱ区南壁（東端）




1　床土
2　10YR3/1 黒褐色細砂質土（包含層）
3　2.5Y3/1 黒褐色細砂質土（第１遺構面　包含層）
4　ベースに旧耕土が混じった土
5　2.5Y5/2 暗灰黄色シルト
6　３でやや色が薄い
7　SX216
8　SX216
9　5Y6/1 灰色シルト（第２遺構面　ベース）

Ⅱ区南壁（西端）

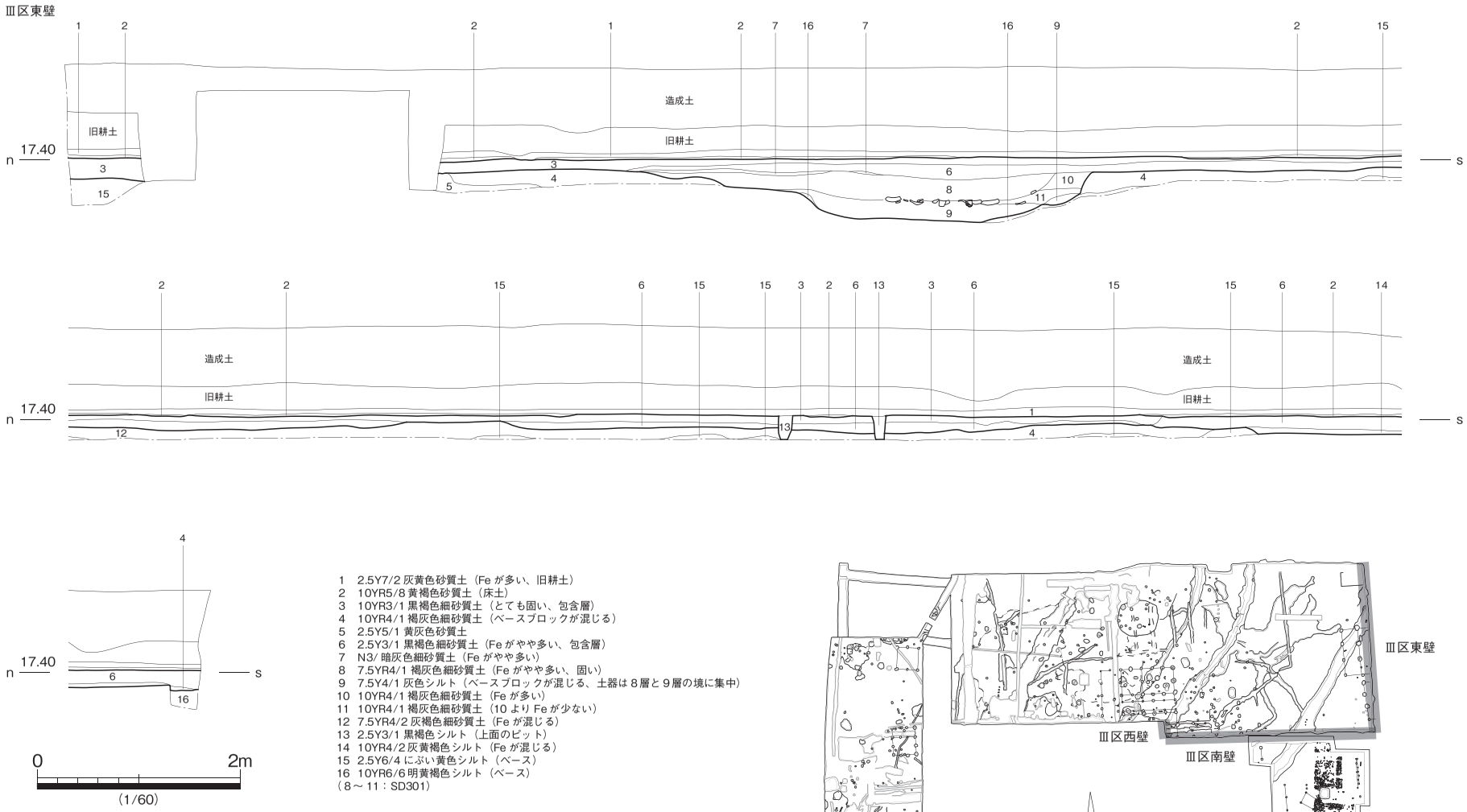



1　5YR6/8 橙色粘質土（床土）
2　2.5Y5/2 暗灰黄色シルト（SD204）
3　４でやや褐色っぽい
4　2.5Y5/1 黄灰色シルト（包含層）
5　2.5Y7/8 黄色シルト（第２遺構面　ベース）

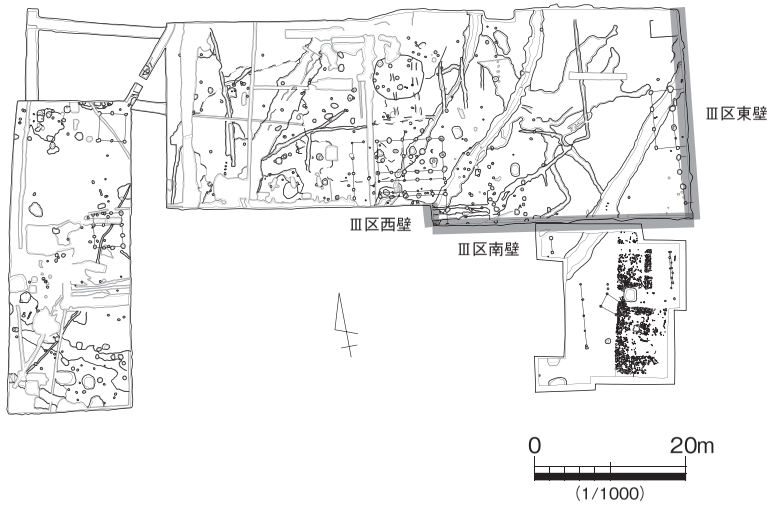
土器
石
木

0　2m
（1/60）

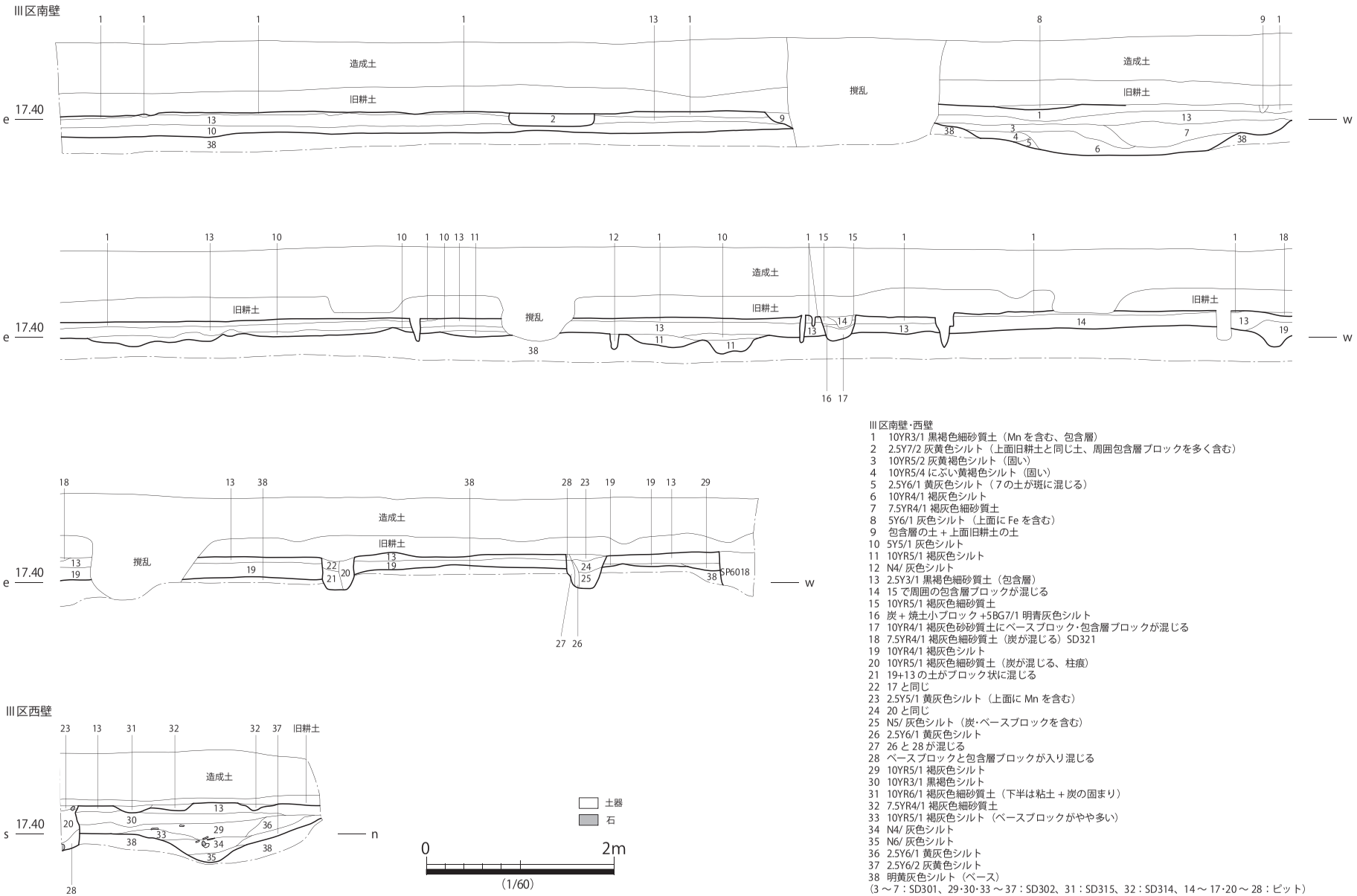
第７図　Ⅱ区北・南壁断面図




1　2.5Y7/2 灰黄色砂質土（Fe が多い、旧耕土）
2　10YR5/8 黄褐色砂質土（床土）
3　10YR3/1 黒褐色細砂質土（とても固い、包含層）
4　10YR4/1 褐灰色細砂質土（ベースブロックが混じる）
5　2.5Y5/1 黄灰色砂質土
6　2.5Y3/1 黒褐色細砂質土（Fe がやや多い、包含層）
7　N3/ 暗灰色細砂質土（Fe がやや多い）
8　7.5YR4/1 褐灰色細砂質土（Fe がやや多い、固い）
9　7.5Y4/1 灰色シルト（ベースブロックが混じる、土器は８層と９層の境に集中）
10　10YR4/1 褐灰色細砂質土（Fe が多い）
11　10YR4/1 褐灰色細砂質土（10 より Fe が少ない）
12　7.5YR4/2 灰褐色細砂質土（Fe が混じる）
13　2.5Y3/1 黒褐色シルト（上面のピット）
14　10YR4/2 灰黄褐色シルト（Fe が混じる）
15　2.5Y6/4 にぶい黄色シルト（ベース）
16　10YR6/6 明黄褐色シルト（ベース）
（８～ 11：SD301）

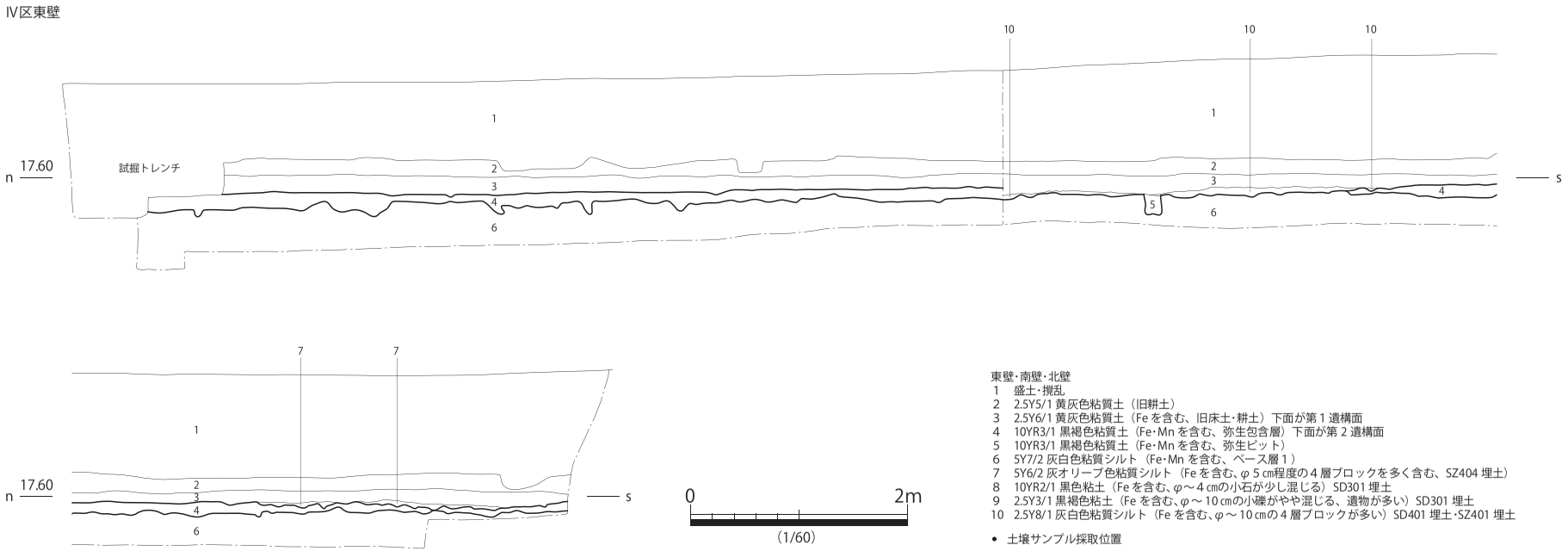



第８図　Ⅲ区東壁断面図



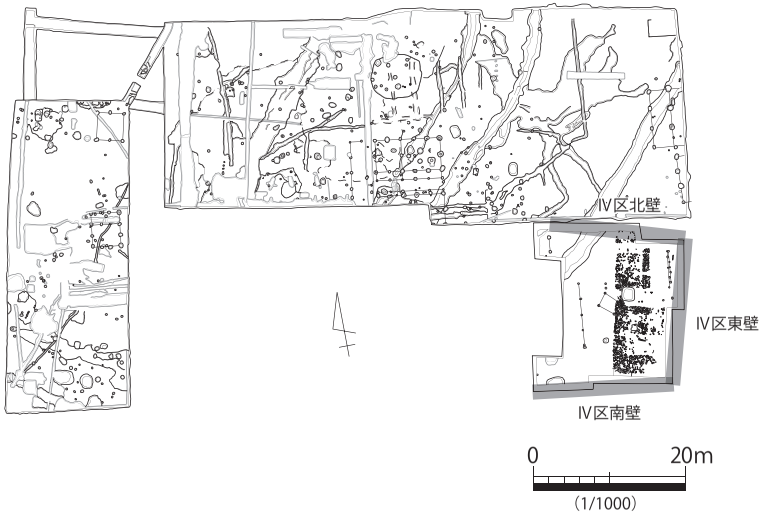

Ⅲ区南壁･西壁
1　10YR3/1 黒褐色細砂質土（Mn を含む、包含層）
2　2.5Y7/2 灰黄色シルト（上面旧耕土と同じ土、周囲包含層ブロックを多く含む）
3　10YR5/2 灰黄褐色シルト（固い）
4　10YR5/4 にぶい黄褐色シルト（固い）
5　2.5Y6/1 黄灰色シルト（７の土が斑に混じる）
6　10YR4/1 褐灰色シルト
7　7.5YR4/1 褐灰色細砂質土
8　5Y6/1 灰色シルト（上面に Fe を含む）
9　包含層の土＋上面旧耕土の土
10　5Y5/1 灰色シルト
11　10YR5/1 褐灰色シルト
12　N4/ 灰色シルト
13　2.5Y3/1 黒褐色細砂質土（包含層）
14　15 で周囲の包含層ブロックが混じる
15　10YR5/1 褐灰色細砂質土
16　炭＋焼土小ブロック +5BG7/1 明青灰色シルト
17　10YR4/1 褐灰色砂砂質土にベースブロック･包含層ブロックが混じる
18　7.5YR4/1 褐灰色細砂質土（炭が混じる）SD321
19　10YR4/1 褐灰色シルト
20　10YR5/1 褐灰色細砂質土（炭が混じる、柱痕）
21　19+13 の土がブロック状に混じる
22　17 と同じ
23　2.5Y5/1 黄灰色シルト（上面に Mn を含む）
24　20 と同じ
25　N5/ 灰色シルト（炭･ベースブロックを含む）
26　2.5Y6/1 黄灰色シルト
27　26 と 28 が混じる
28　ベースブロックと包含層ブロックが入り混じる
29　10YR5/1 褐灰色シルト
30　10YR3/1 黒褐色シルト
31　10YR6/1 褐灰色細砂質土（下半は粘土＋炭の固まり）
32　7.5YR4/1 褐灰色細砂質土
33　10YR5/1 褐灰色シルト（ベースブロックがやや多い）
34　N4/ 灰色シルト
35　N6/ 灰色シルト
36　2.5Y6/1 黄灰色シルト
37　2.5Y6/2 灰黄色シルト
38　明黄灰色シルト（ベース）
（3 ～ 7：SD301、29･30･33 ～ 37：SD302、31：SD315、32：SD314、14 ～ 17･20 ～ 28：ピット）

第９図　Ⅲ区南・西壁断面図




東壁・南壁・北壁
1　盛土・撹乱
2　2.5Y5/1 黄灰色粘質土（旧耕土）
3　2.5Y6/1 黄灰色粘質土（Fe を含む、旧床土・耕土）下面が第 1 遺構面
4　10YR3/1 黒褐色粘質土（Fe・Mn を含む、弥生包含層）下面が第 2 遺構面
5　10YR3/1 黒褐色粘質土（Fe・Mn を含む、弥生ピット）
6　5Y7/2 灰白色粘質シルト（Fe・Mn を含む、ベース層 1 ）
7　5Y6/2 灰オリーブ色粘質シルト（Fe を含む、φ 5 ㎝程度の 4 層ブロックを多く含む、SZ404 埋土）
8　10YR2/1 黒色粘土（Fe を含む、φ～4 ㎝の小石が少し混じる）SD301 埋土
9　2.5Y3/1 黒褐色粘土（Fe を含む、φ～10 ㎝の小礫がやや混じる、遺物が多い）SD301 埋土
10　2.5Y8/1 灰白色粘質シルト（Fe を含む、φ～10 ㎝の 4 層ブロックが多い）SD401 埋土・SZ401 埋土

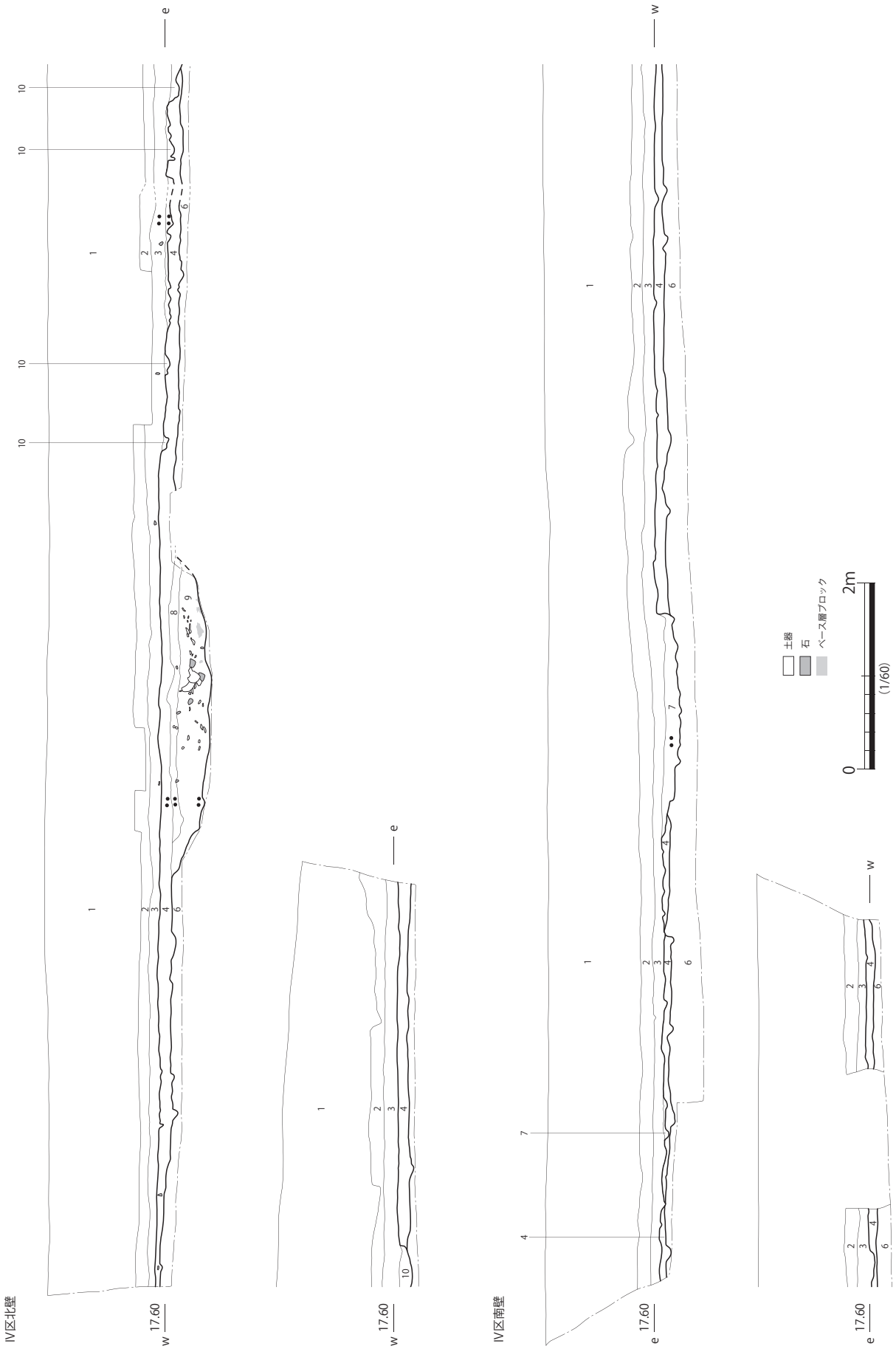
• 土壌サンプル採取位置




第 10 図　Ⅳ区東壁断面図

Y=50,920
Y=50,940
Y=50,960
Y=50,980
Y=51,000
X=144,600
X=144,580
X=144,560
X=144,540
Ⅰ区
Ⅱ区
Ⅲ区
Ⅳ区
ST001
SX106
SK109
SX101
SB102
SX107
SK110
SK111
SK113
SD102
SP1068
SB101
SP1039
SK108
SK107
SK104
SD102
SK105
SD103
SP1002
SK103
SK101
SP1010
SK120
SD101
SP1011
ST002
SD104
SK121
SD208
SP2120
SK214
SD207
SP5007
SK204
SK203
SK205
SD204
SD205
SD203
SK215
SD206
SP5004
SA201
SK213
SX212
SX211
SK206
SK201
SD202
SX215
SP3037
SD311
SD201
SD308
SP2038
SP2033
SK311
SP2045
SA202
SB201
SP2032
SP2036
SX216
SD314
SD315
SD318
SD316
SB204
SP3095
SP3085
SK312
SD312
ST003
SD313
SD302
SD319
SD320
SK301
SK302
SB203
SD321
SD322
SD317
SA301
SB301
SD301
SB302
SA404
SZ402
SD401
SD301
SA402
SA401
SZ402
SK402
SH401
SK401
SA403
SZ403
SK402
SK403
SZ404
0
10m
(1/400)

第 11 図　遺構配置図




第１２図　IV区北・南壁断面図

Ⅳ区（第10･12図）

土層堆積状況はⅢ区と概ね同じである。造成土・耕作土・床土の下部で黒褐色粘質土の遺物包含層が堆積し、その下部は灰白色粘質シルトのベースである。遺物包含層の上面が第１遺構面である古代以降の遺構面、ベースが第２遺構面である弥生時代の遺構面である。第１遺構面のレベルは17.45 m、第２遺構面のレベルは17.40 mで、東・北側ほど低い。

## 第３節　遺構・遺物

### １．弥生時代前期の遺構・遺物

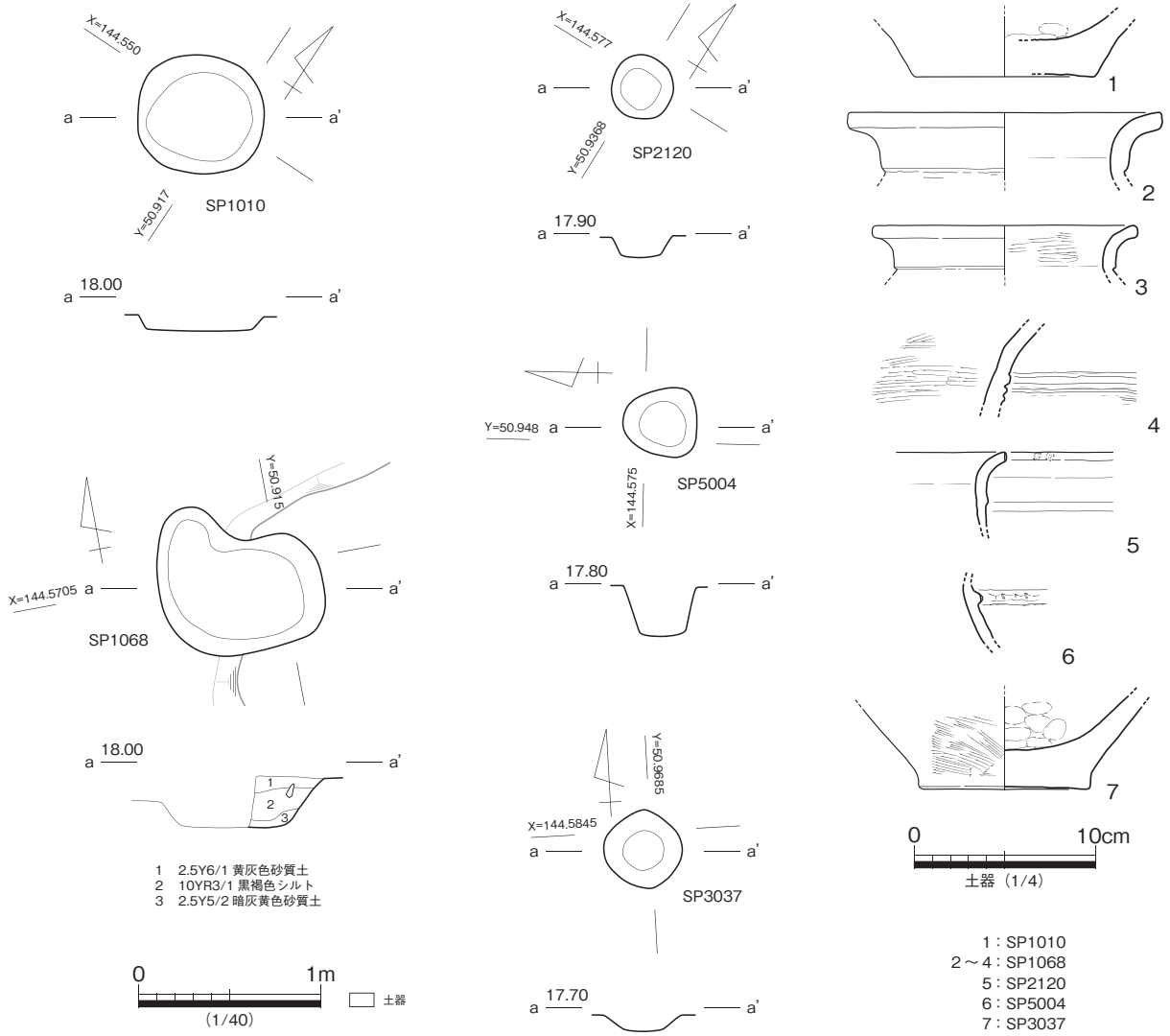
①ピット

**SP1010( 第 13 図 )**

Ⅰ区東南部で検出した。円形で直径67.5㎝、深さ9㎝、埋土は褐色粘質土である。埋土中からは弥生土器が出土した。

１は弥生土器壺底部。弥生時代前期Ⅰｃ期。

遺構の時期は出土遺物により弥生時代前期Ⅰｃ期と考えられる。




第 13 図　弥生時代前期ピット　平・断面図、出土遺物

**SP1068( 第 13 図 )**

Ⅰ区中央付近で検出した。隅丸方形で東北隅が凹む形状である。長軸 90㎝、短軸 60㎝、深さ 24㎝である。埋土はおもに黄灰色砂質土、黒褐色シルトである。埋土中からは弥生土器片が出土した。

2 ～ 4 は弥生土器壺。2･3 は頸部に段を有する。4 は大型壺体部片。削出突帯を 3 条巡らせる。2･3 は弥生時代前期Ⅰｃ期、4 は弥生時代前期Ⅱａ期。

遺構の時期は出土遺物により弥生時代前期Ⅰｃ～Ⅱａ期と考えられる。

**SP2120( 第 13 図 )**

Ⅱ区南西部で検出した。円形で直径 35㎝、深さ 11㎝、埋土は褐色粘質土である。埋土中からは弥生土器片が出土した。

5 は弥生土器甕小片。口縁端部に刻み目を施し、体部に段を持つ。弥生時代前期Ⅰｃ期。

遺構の時期は出土遺物により弥生時代前期Ⅰｃ期と考えられる。

**SP5004( 第 13 図 )**

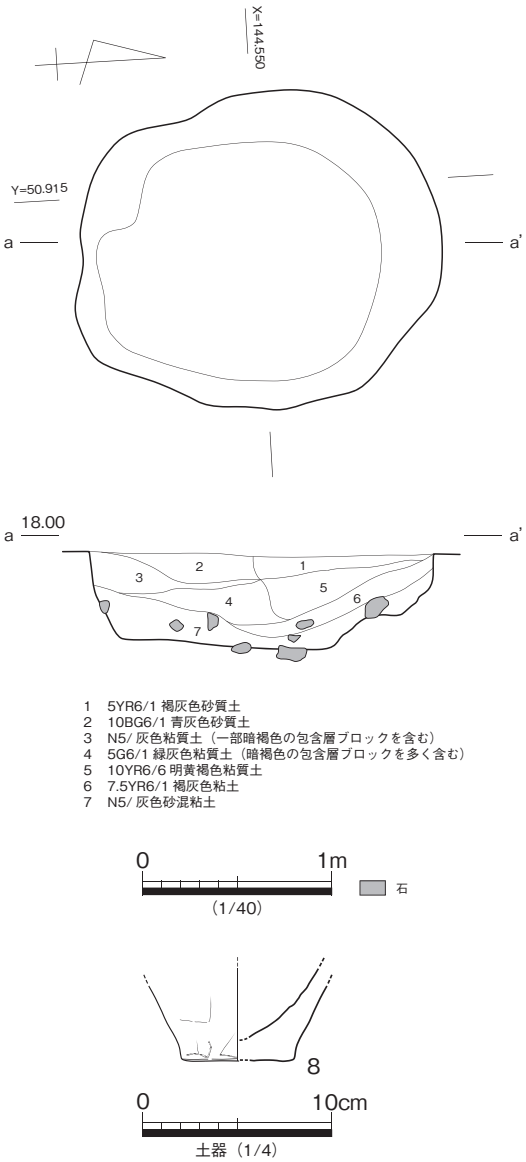
Ⅱ区南部で検出した。円形で直径 40㎝、深さ 32㎝である。埋土中からは弥生土器小片が出土した。

6 は弥生土器壺小片。頸部に削出突帯を巡らせ、突帯には刻み目を施す。弥生時代前期Ⅰｃ期。

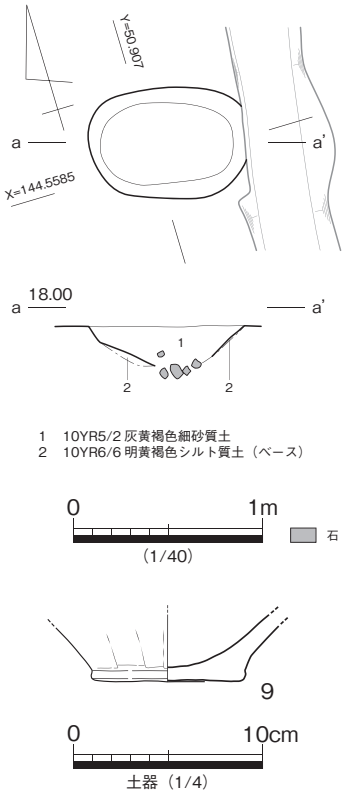
遺構の時期は出土遺物により弥生時代前期Ⅰｃ期と考えられる。

**SP3037( 第 13 図 )**

Ⅲ区北西部で検出した。円形で直径 45㎝、深さ 12㎝である。埋土中からは弥生土器小片が出土し




第 14 図　SK101　平・断面図、出土遺物




第 15 図　SK104　平・断面図、出土遺物

た。

7 は弥生土器壺底部。体部と底部の境の屈曲が強い。弥生時代前期Ⅰｃ期。

遺構の時期は出土遺物により弥生時代前期Ⅰｃ期と考えられる。

②土坑

**SK101( 第 14 図 )**

Ⅰ区南端付近で検出した土坑である。SD101( 外環濠 ) と SD103( 内環濠 ) の間に位置する。おおむね円形で、長軸 1.98m、短軸 1.62m、深さ 49.3cmである。埋土中からは弥生土器小片が出土した。

8 は弥生土器甕底部。底部と体部の境の屈曲が強い。弥生時代前期Ⅰｃ期。

遺構の時期は出土遺物により弥生時代前期Ⅰｃ期と考えられる。

**SK104( 第 15 図 )**

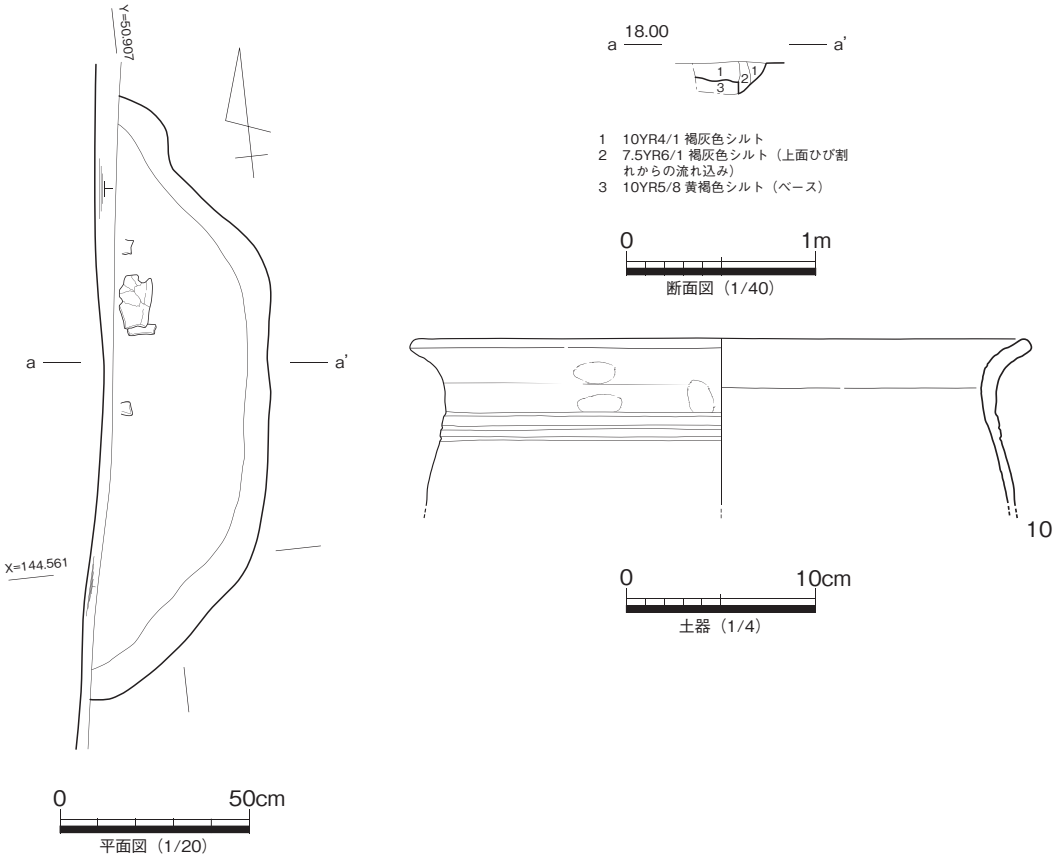
Ⅰ区南西部で検出した土坑である。楕円形で長軸 0.83m、短軸 0.59m、深さ 23.5cm、埋土は灰黄褐色細砂質土である。攪乱を挟んで SD103( 内環濠 ) の延長部に位置し、遺構の時期もおおむね同じである。遺構の形状から別遺構としたが、SD103（内環濠）の延長部または、SD103 に関わる遺構の可能性もある。埋土中からは弥生土器片が出土した。

9 は弥生土器壺底部。底部と体部の境の屈曲は強い。弥生時代前期Ⅰｃ期。

遺構の時期は出土遺物により弥生時代前期Ⅰｃ期と考えられる。

**SK107( 第 16 図 )**

Ⅰ区南部西端で検出した土坑である。西側の大半は調査区外へ延びる。長軸 1.63m以上、幅 0.41m以




第 16 図 SK107　平・断面図、出土遺物

上、深さは 16.8㎝、埋土は褐灰色シルトである。SD103（内環濠）は調査区西部で二股に分流するが、その内側（北側）の延長部の位置に相当し、SD103 に関わる遺構の可能性もある。埋土中からは弥生土器片が出土した。

10 は弥生土器甕。如意状口縁に３条のヘラ描き沈線を巡らせる。摩滅が著しい。弥生時代前期Ⅰｃ期。

遺構の時期は出土遺物により弥生時代前期Ⅰｃ期と考えられる。

**SK109( 第 17 図 )**

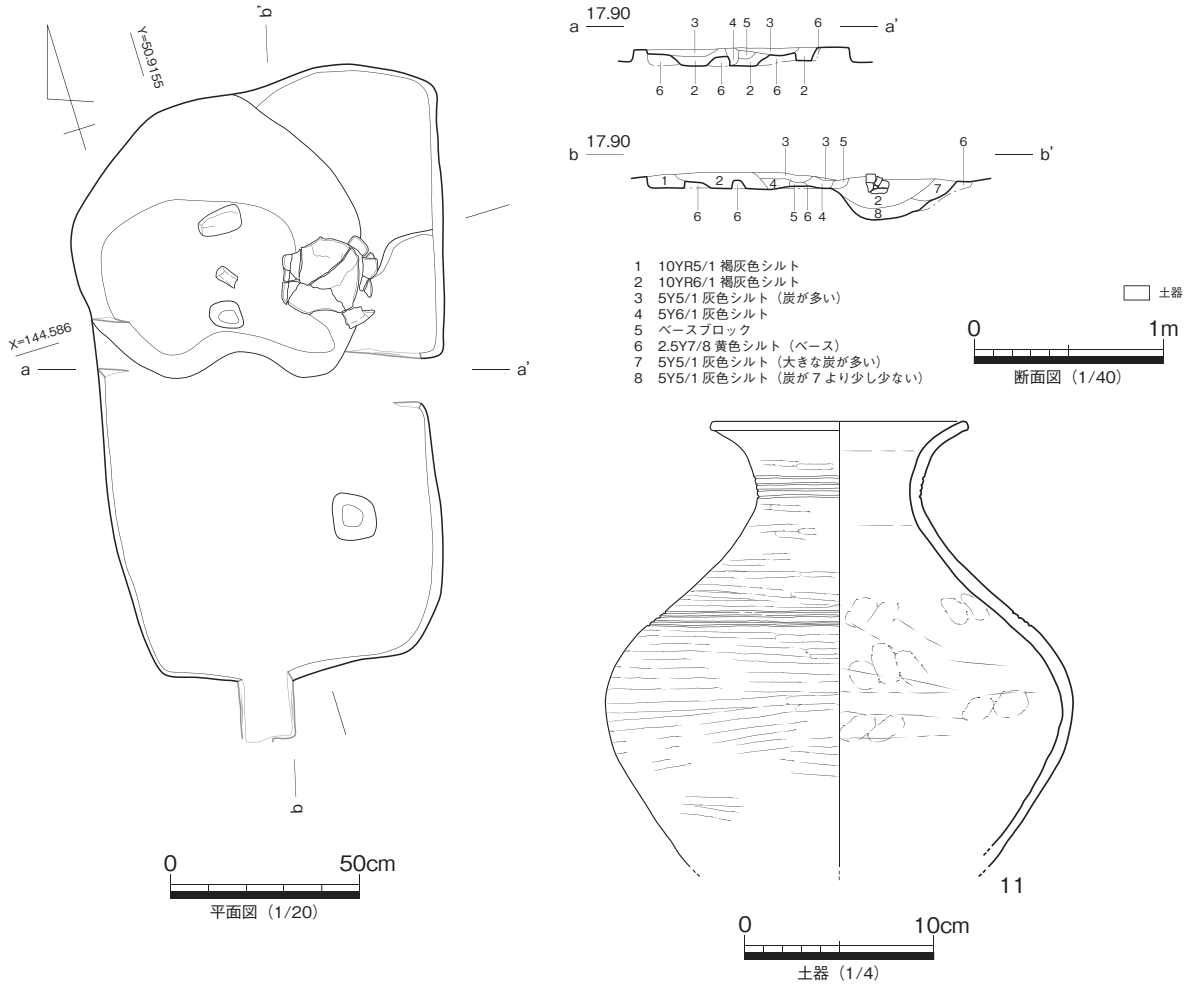
Ⅰ区北端部で検出した土坑である。当初、長方形の遺構として検出したが、北側の不整円形の部分が深く、土坑の本体はこの部分であろう。全体の規模は長軸 1.57m、短軸 0.87 m、深さ 8.6㎝、不整円形部分は長軸 0.77m、短軸 0.67m、深さ 20.1㎝である。土坑の上部付近から、口縁部を南へ向けた状態で壺が出土した。上面の削平が著しく壺は 1/ ２程度しか残されていない。埋土は褐灰色シルトで土坑の底部には炭混りの灰色シルトが堆積する。

11 は弥生土器壺。頸部に４条、体部上半に２条のヘラ描き沈線を施す。外面はほぼ全面をヘラミガキで調整する。弥生時代前期Ⅱａ期。

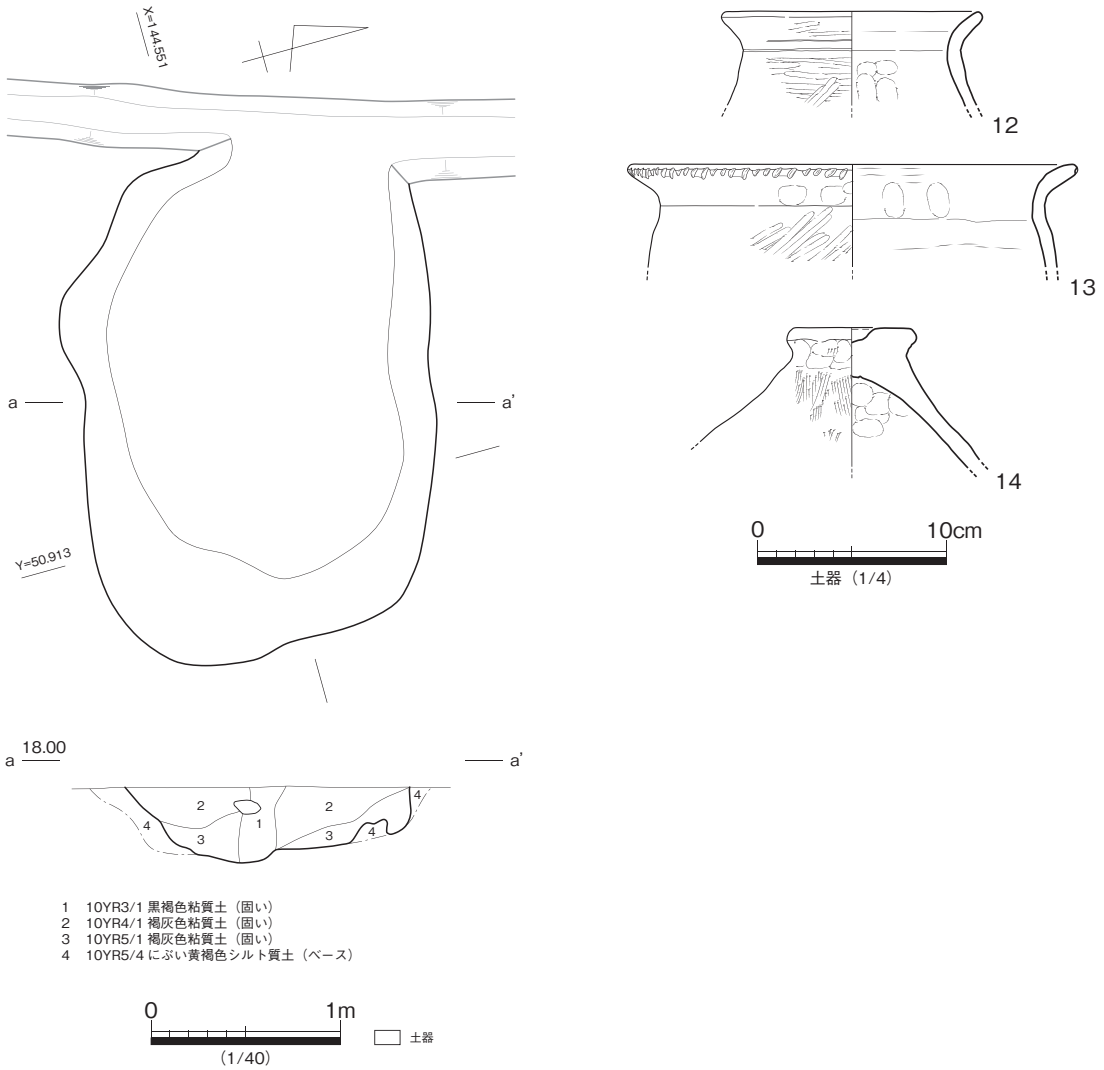
遺構の時期は出土遺物により弥生時代前期Ⅱａ期と考えられる。

**SK120( 第 18 図 )**

Ⅰ区南部で検出した土坑である。SD101（外環濠）と SD103（内環濠）の間、SK101 の西側で検出し




第 17 図　SK109　平・断面図、出土遺物




第 18 図 SK120 平・断面図、出土遺物

た。西端は攪乱により消失する。楕円形で長軸 2.94m、短軸 1.93m、深さ 40.4㎝、埋土はおおむね褐灰色粘質土である。埋土中からは弥生土器が出土した。

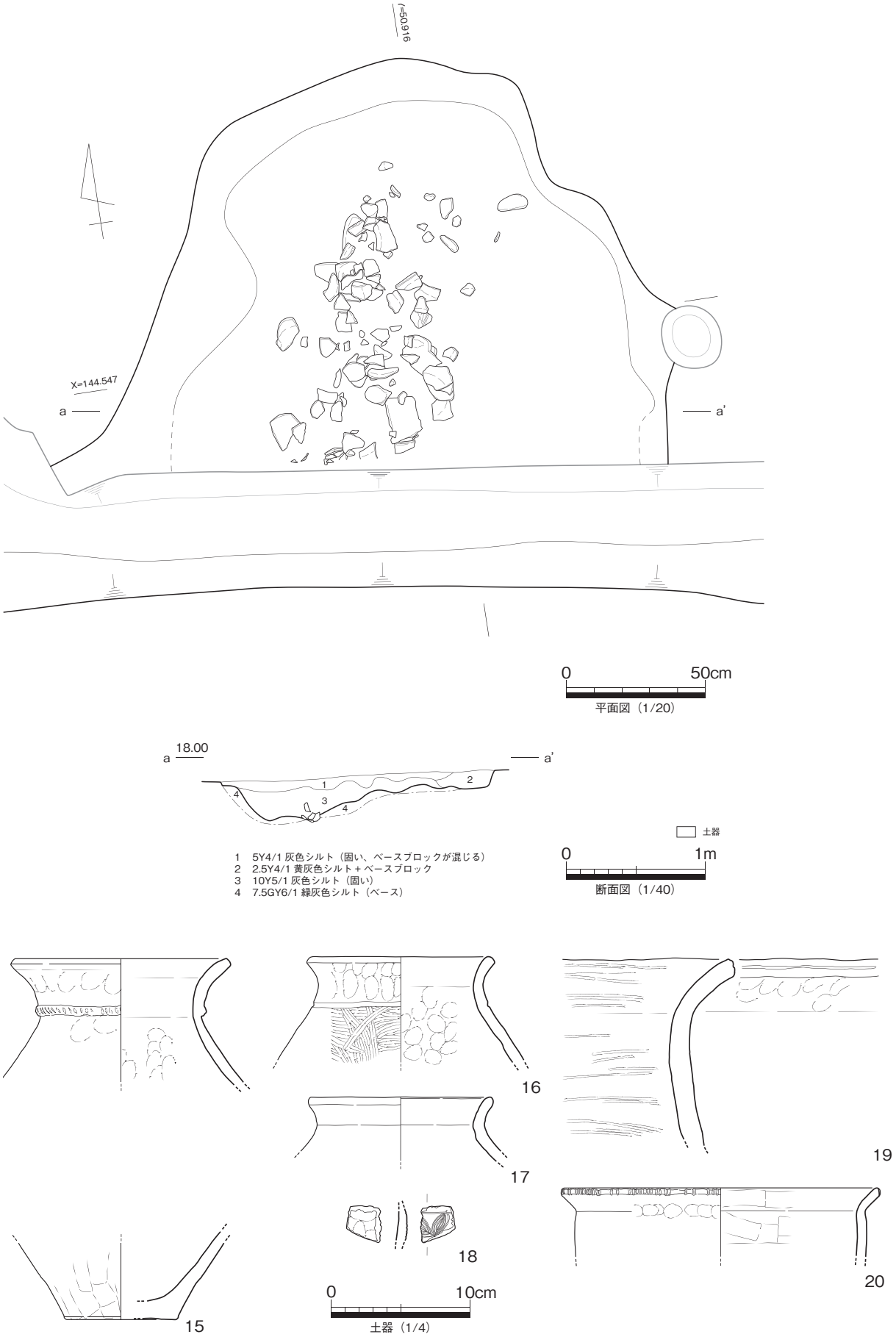
12 ～ 14 は弥生土器である。12 は壺。頸部に 2 条のヘラ描き沈線を巡らせ、屈曲部は段を有する。13 は甕。頸部は指押さえにより強く窪み、口縁端部外側に刻み目を施す。14 は甕の蓋。頂部はやや窪ませる。いずれも弥生時代前期Ⅰｃ期。

遺構の時期は出土遺物により弥生時代前期Ⅰｃ期と考えられる。

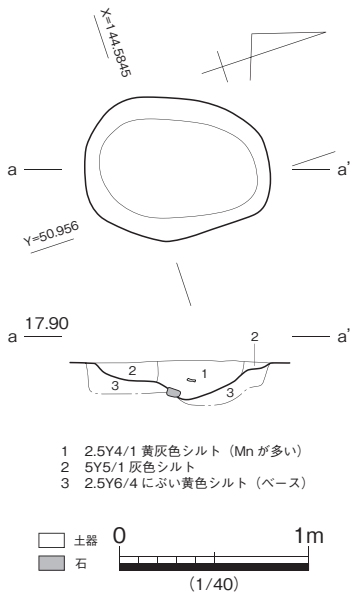
**SK121( 第 19 図 )**

Ⅰ区南端で検出した土坑である。南半は調査区外へ延びる。長軸 2.14 m以上、短軸 1.50m 以上、深さ 28.7㎝で埋土はおおね灰色シルトでよく締まる。SD101（外環濠）の攪乱を挟んだ延長部から検出した。SD103 の東端拡張部分に相対する位置関係でもある。土坑内からは弥生土器が底から若干の埋土を挟んで廃棄された状態で出土した。

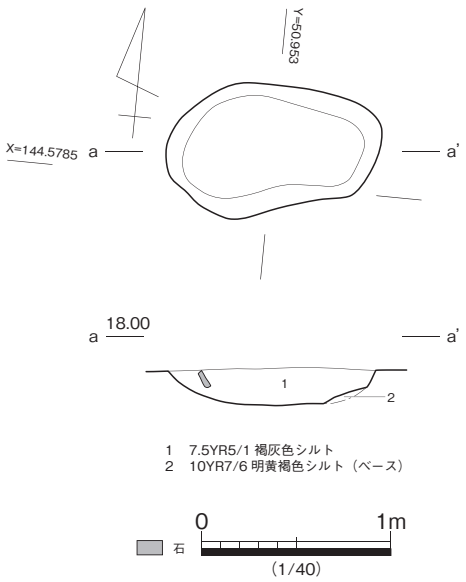
15 ～ 20 は弥生土器である。15 ～ 19 は壺。15 は頸部に 1 条の削出突帯を巡らせ、突帯上には刻み目を施す。底部は、直接接合はしないが、胎土や色調、法量から同一個体として図化した。16 は頸部か



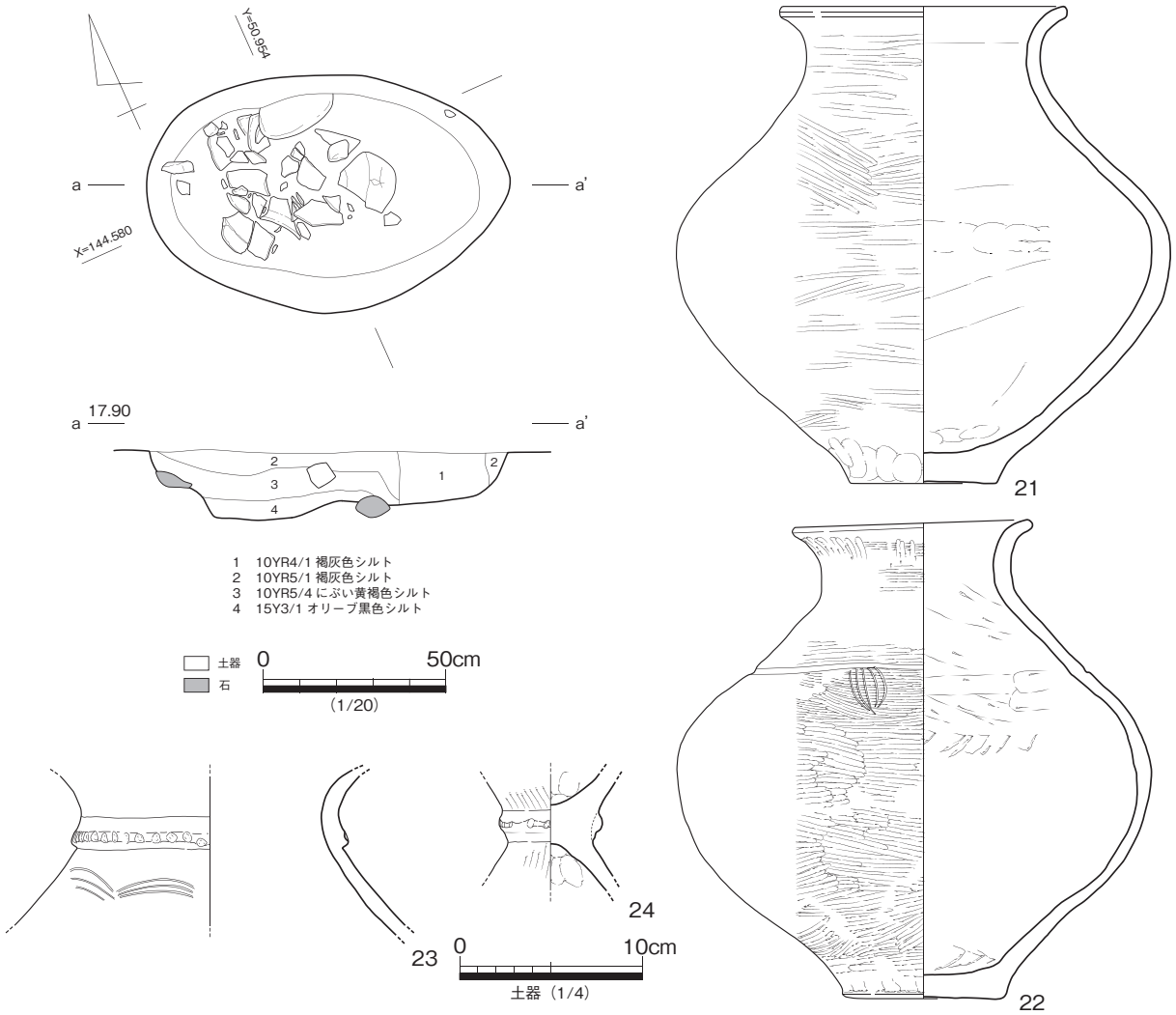

第 19 図　SK121　平・断面図、出土遺物




第 20 図 SK201 平・断面図




第 21 図 SK203 平・断面図




第 22 図 SK204 平・断面図、出土遺物

らやや下がった場所でヘラ描き沈線が１条巡る。ヘラ描き沈線の部分でわずかに段を有する。18 は壺小片。有軸木の葉文を描く。19 は大型壺口縁部。口縁端部にヘラ描き沈線を施す。20 は甕。如意状口縁を呈し、口縁端部外面に刻み目を施す。いずれも弥生時代前期Ⅰｃ期。

遺構の時期は出土遺物により弥生時代前期Ⅰｃ期と考えられる。

**SK201( 第 20 図 )**

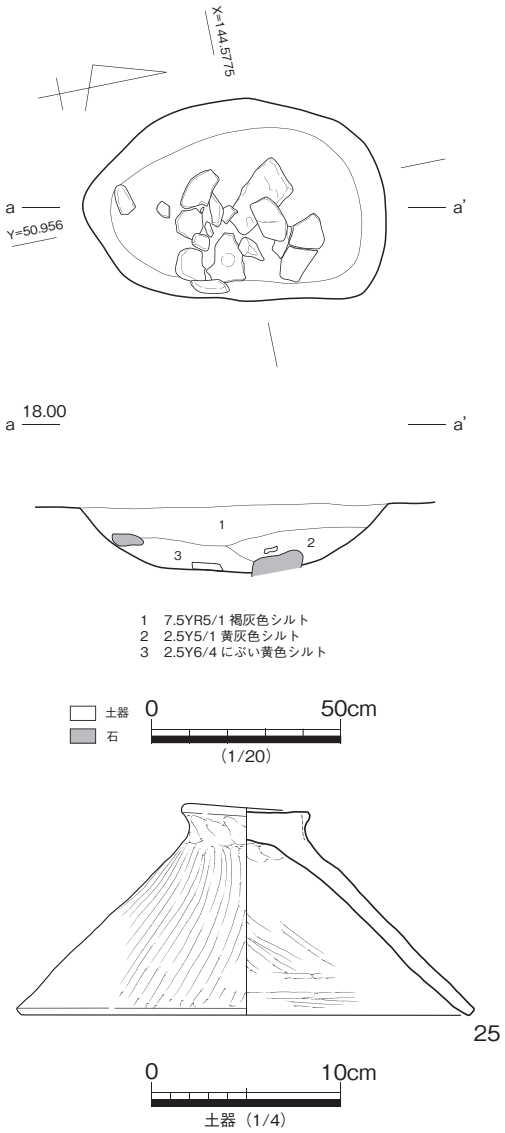
Ⅱ区北部で検出した土坑である。SK206 の約 0.5m 南側に位置する。楕円形で長軸 0.98m、短軸 0.75m、深さ 20㎝である。埋土中からは弥生時代前期と考えられる弥生土器甕底部小片が出土した。

遺構の時期は出土遺物により弥生時代前期と考えられる。

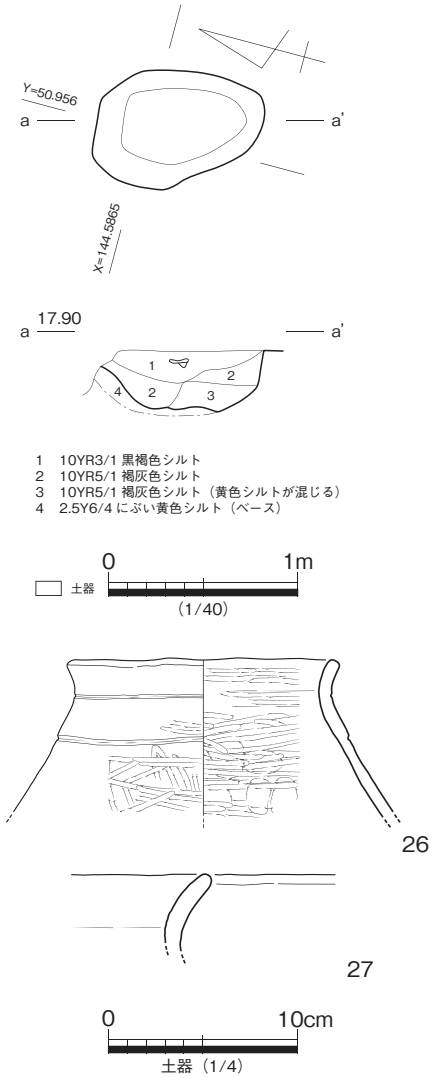
**SK203( 第 21 図 )**

Ⅱ区中央部付近で検出した土坑である。SK204 の南西約 0.8mの位置にある。楕円形で長軸 1.18m、短軸 0.7m、深さ 20㎝、埋土は褐灰色シルトである。埋土中からは、弥生時代前期と考えられる土器小片とサヌカイト剥片が出土した。

遺構の時期は出土遺物により弥生時代前期と考えられる。




第 23 図　SK205　平・断面図、出土遺物




第 24 図　SK206　平・断面図、出土遺物

**SK204( 第 22 図 )**

Ⅱ区中央付近で検出した土坑である。楕円形で長軸 1.03m、短軸 0.75m、深さ 18.7㎝である。土坑の上面付近からは弥生土器や礫が廃棄された状態で出土した他、サヌカイト片が出土した。

21 ～ 24 は弥生土器である。21 ～ 23 は壺。21 は頸部に緩い段を持つ。22 は体部上半に段状を呈するヘラ描き沈線を巡らせ、その下部 1 ヶ所に退化した有軸木の葉文を描く。ほぼ完形。23 は頸部に刻み目を持つ削出突帯を巡らせ、体部に連弧文を描く。摩滅が著しい。24 は高杯型土器。屈曲部に刻み目突帯を巡らせる。概ね弥生時代前期Ⅰｃ期の遺物と考えられる。

遺構の時期は出土遺物により弥生時代前期Ⅰｃ期と考えられる。

**SK205( 第 23 図 )**

Ⅱ区中央付近、SK203 の東 2.5m 付近で検出した土坑である。楕円形で長軸 0.85m、短軸 0.6 m、深さ 17.9㎝である。規模形状とも SK204 に似る。おもに埋土上部から弥生土器が廃棄された状態で出土した他、サヌカイト片が出土した。

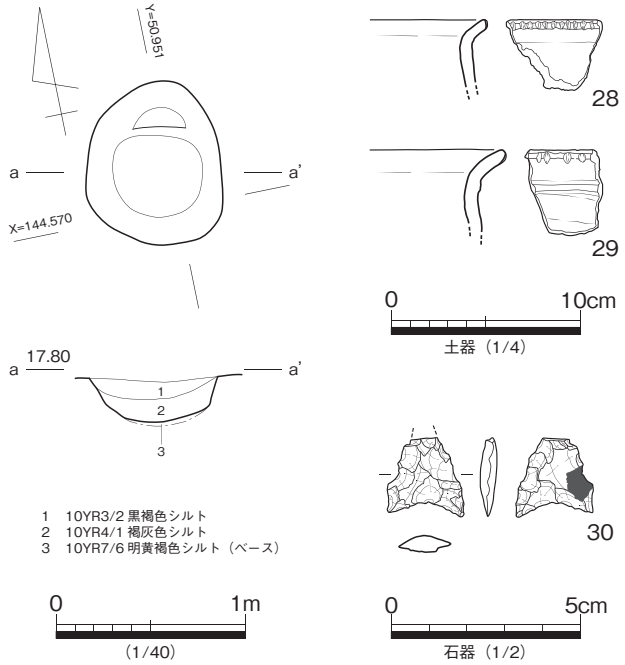
25 は弥生土器甕の蓋。頂部はほぼ平らである。内外面とも丁寧に磨く。弥生時代前期Ⅰｃ期の遺物と考えられる。

遺構の時期は出土遺物により弥生時代前期Ⅰｃ期と考えられる。

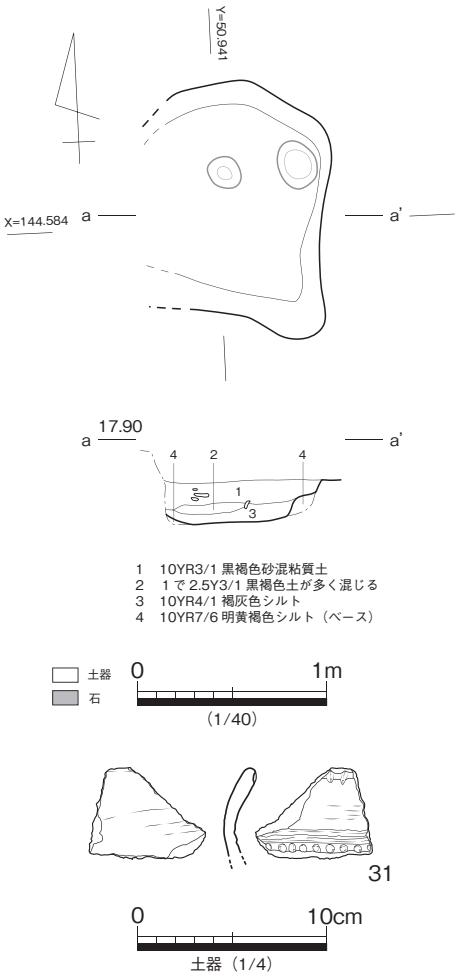
**SK206( 第 24 図 )**

Ⅱ区中央北部で検出した土坑である。楕円形で長軸 0.85m、短軸 0.63m、深さ 31.9㎝である。埋土は黒褐色シルト、褐灰色シルトである。埋土中からは弥生土器、サヌカイト片が出土した。

26･27 ともに弥生土器である。26 は壺。頸部にヘラ描き沈線、体部上半に段状を呈するヘラ描き沈線を巡らせる。27 は壺口縁部小片。摩滅が著しい。弥生時代前期Ⅰｃ期の遺物と考えられる。




第 25 図 SK213 平・断面図、出土遺物




第 26 図 SK214 平・断面図、出土遺物

遺構の時期は出土遺物により弥生時代前期Ⅰｃ期と考えられる。

**SK213( 第 25 図 )**

Ⅱ区中央南部で検出した土坑である。楕円形で長軸 0.86 m、短軸 0.7 m、深さ 21.7㎝である。北側が 1 段高い。埋土は上層が黒褐色シルト、下層は褐灰色シルトである。埋土中からは弥生土器小片が出土した。

28・29 は弥生土器甕。ともに如意状口縁で口縁端部外側に刻み目を持つ。29 は頸部付近に段を持つ。弥生時代前期Ⅰｃ期の遺物と考えられる。

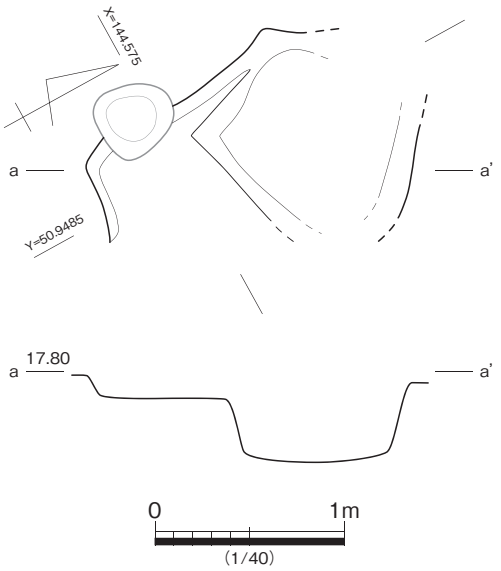
30 はサヌカイト製打製石鏃。

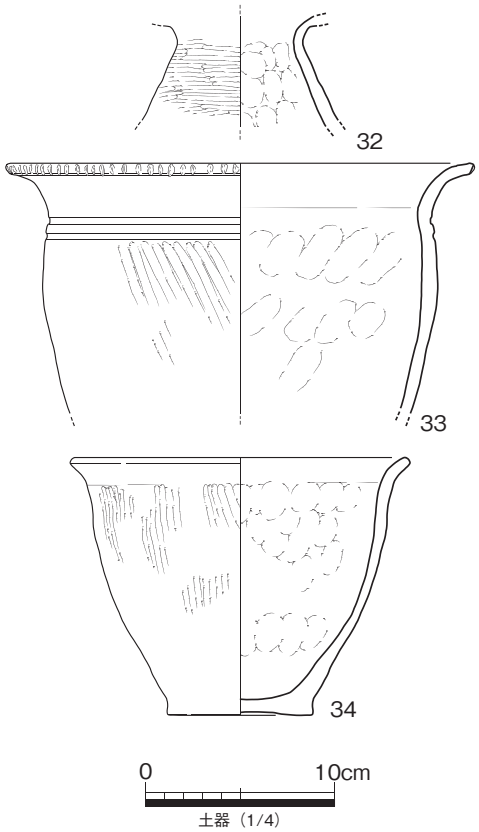
遺構の時期は出土遺物により弥生時代前期Ⅰｃ期と考えられる。

**SK214( 第 26 図 )**

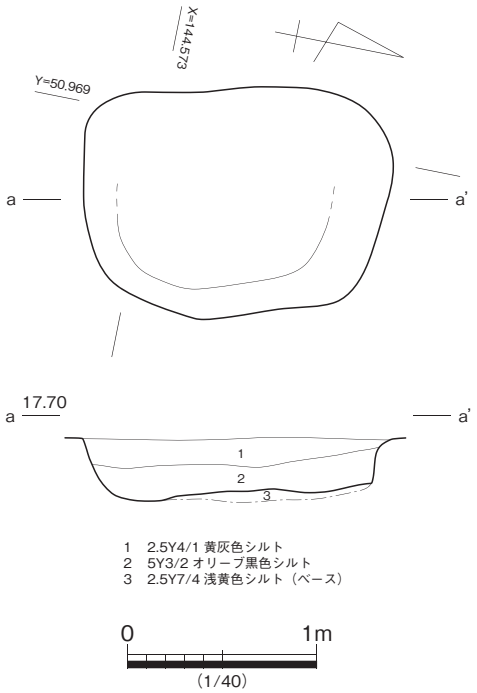
Ⅱ区西部で検出した土坑である。SD207 により一部が消失する。不整円形で長軸 1.45 m、短軸 1 m以上、深さ 22.1㎝である。埋土は上部が黒褐色砂混粘質土、下部が褐灰色シルトである。埋土中からは弥生土器、サヌカイト片が出土した。

31 は大型壺口縁部。口縁端部外側に刻み目を持つ。頸部にヘラ描き沈線を 2 条巡らせ、その下部に竹管文を施す。弥生時代前期Ⅱａ期。




第 27 図　SK215　平・断面図、出土遺物




第 28 図　SK311　平・断面図、出土遺物

遺構の時期は出土遺物により弥生時代前期Ⅱａ期と考えられる。

**SK215( 第 27 図 )**

Ⅱ区南部で検出した土坑である。北側一部はSD204により、南東部はSD206により消失する。方形に近い不整形で、南側はテラス状で浅く、土坑の本体は北側である。長軸1.7ｍ、短軸1.2ｍ、深さ46.0㎝、テラス状の浅い部分の深さは5㎝である。埋土中からは弥生土器とともにサヌカイト片がやや多く出土した。

32 ～ 34は弥生土器である。32は壺頸部。33は甕。如意状口縁で口縁端部外側に刻み目を施し、ヘラ描き沈線を2条巡らせる。34は鉢。底部にイネと考えられる圧痕が多数残る。いずれも弥生時代前期Ⅱａ期と考えられる。

遺構の時期は出土遺物により弥生時代前期Ⅱａ期と考えられる。

**SK311( 第 28 図 )**

Ⅲ区中央付近で検出した土坑である。隅丸方形で、長軸1.63m、短軸1.20m、深さ32.0㎝、埋土は上部が黄灰色シルト、下部がオリーブ黒色シルトである。埋土中からは弥生時代前期と考えられる土器小片、サヌカイト剥片が出土した。

遺構の時期は出土遺物により弥生時代前期と考えられる。

③性格不明遺構

**SX211･SX212( 第 29 図～第 34 図 )**

Ⅱ区西南部で検出した不整形の遺構である。別遺構として調査をしたが、SX212の中の遺物集中部分をSX211としたもので、土層断面からは両者は同じ遺構と考えられる。

SX211は楕円形の土器・礫集中部分である。楕円形の範囲で、長軸2m程度、短軸1.93m、深さ10㎝程度である。埋土中からは弥生土器、礫、サヌカイト片が集中して出土した。

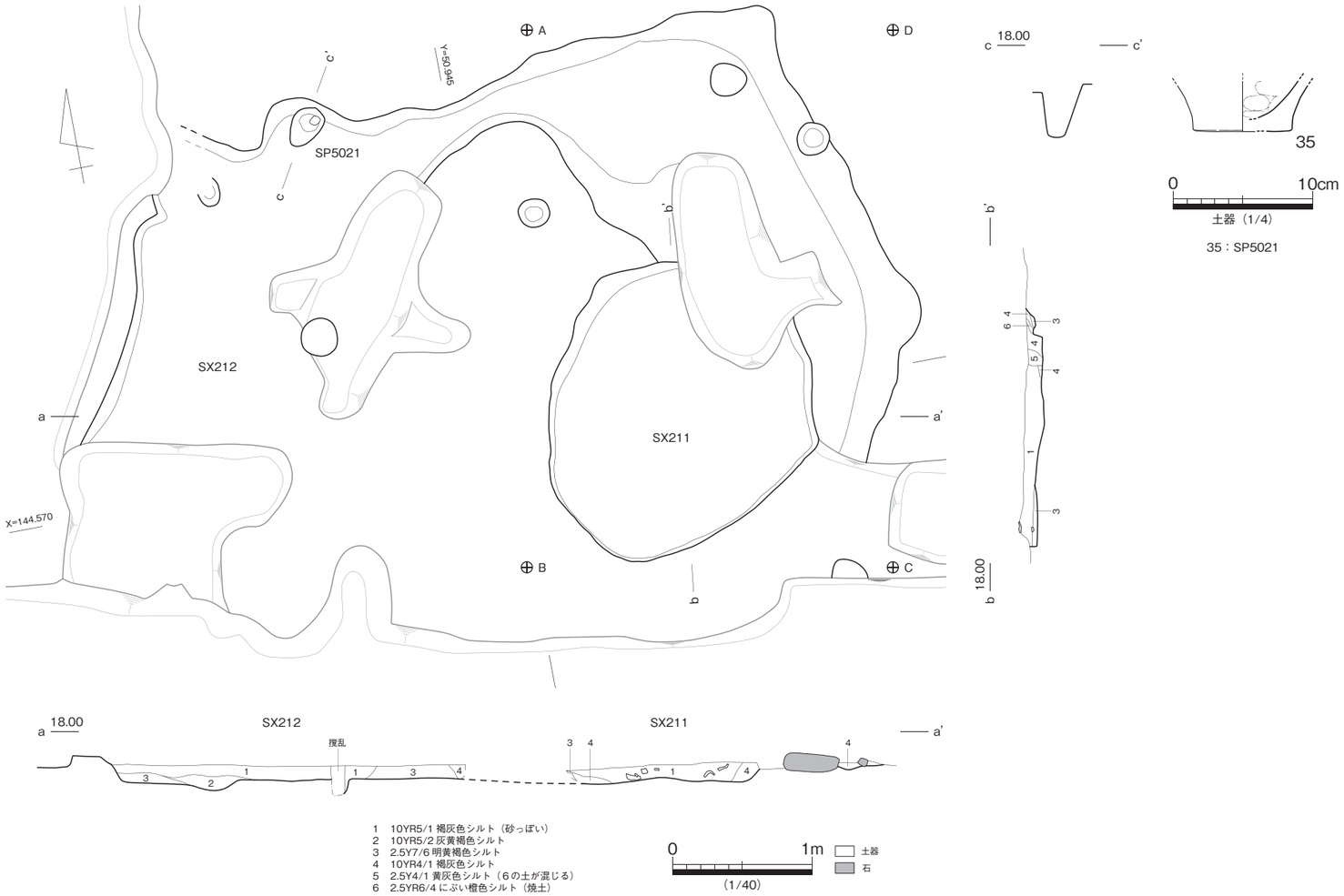
SX212はSX211を含む不整形の落ち込みである。南半部分は調査区外へ延びる。1辺5.5m程度で、北東側は溝状に落ち込む。溝状に落ち込む部分を中心に弥生土器、礫、サヌカイト片などが出土した。サヌカイト片は相当量出土しており、サヌカイトに関わる作業をしたことも想定されよう。

SP5021はSX212内で検出したピットである。楕円形で長軸30㎝、短軸21㎝、深さ32.0㎝である。埋土中からは弥生土器底部が出土した。SX212に伴うピットとも考えられる。

35はSP5021から出土した。弥生土器甕底部。弥生時代前期Ⅰｃ期。

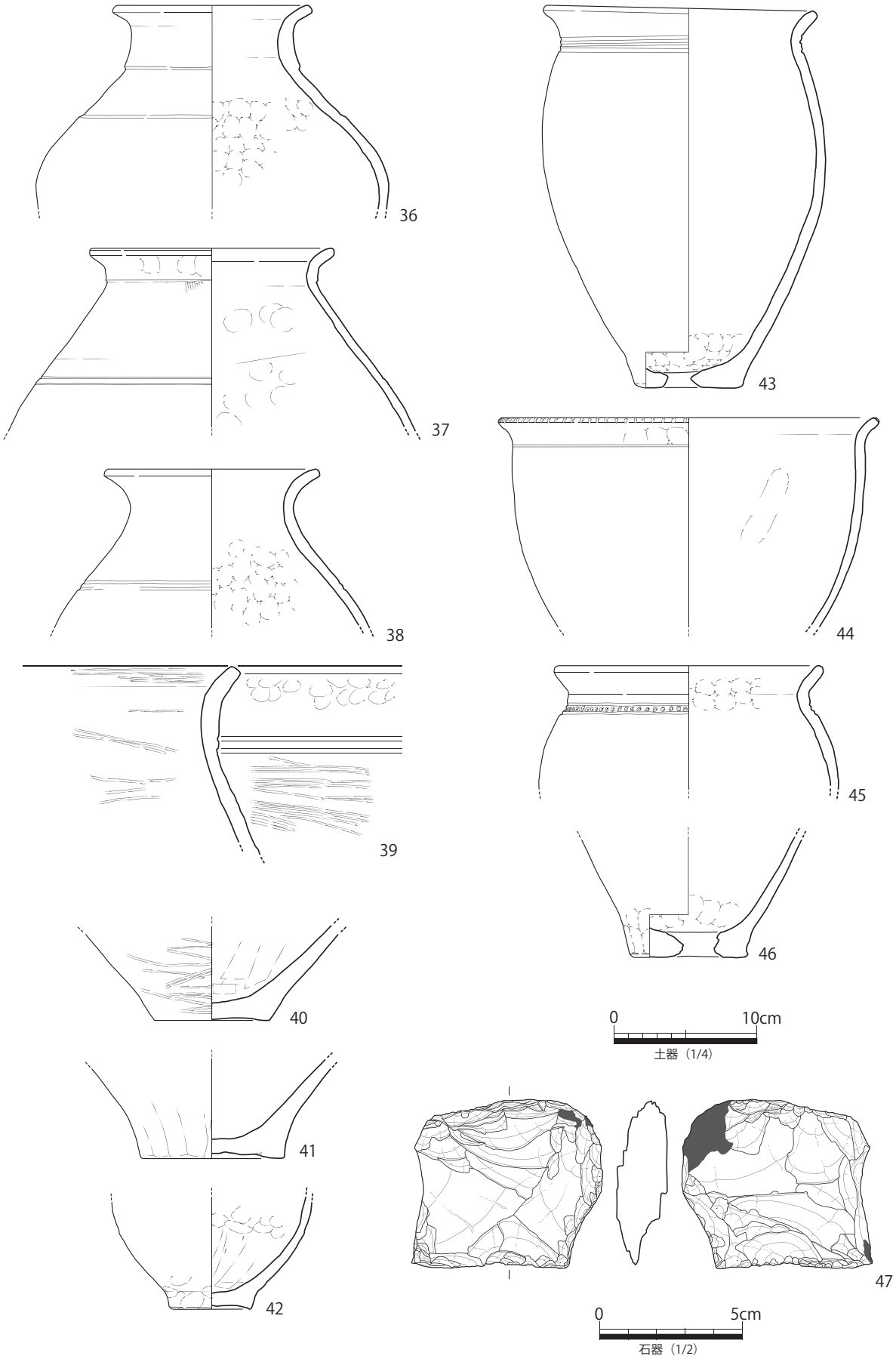
36 ～ 47・619･620は土器集中部分であるSX211部分で出土した遺物である。36 ～ 46は弥生土器。36 ～ 42は壺。36は頸部下端から体部上部にかけて削り出し、37は頸部下端を削り出すことにより段を持つ。37･38は体部上半部に2条のヘラ描き沈線を施す。39は大型壺。頸部に段を持ち、段の直上にも沈線を巡らせる。40 ～ 42は壺底部。40･42は底部外面に、41は体部下半に種子圧痕が残る。43 ～ 45は甕。43は屈曲する頸部で緩く開く如意状の口縁部を持ち、頸部に3条のヘラ描き沈線を施す。44は口縁部外側に刻み目を施し、頸部に沈線を1条巡らせる。45は頸部に2条のヘラ描き沈線を巡らせ、沈線の間に竹管文を巡らせる。下側の沈線は段状を呈する。46は甕底部。焼成後穿孔する。47はサヌカイト製打製スクレイパー。 619･620は台石である。619は4面に摩滅痕があり、全体に敲打痕を残す。特に表面は摩滅が著しい。表・裏面には幅1.5 ～ 2㎝、長さ5 ～ 20㎝程度の溝状の窪みが9ヶ所に残る。620は偏平な形状で、表・裏面の中央部付近に摩滅痕を残す。

出土遺物はおおむね弥生時代前期Ⅰｃ期のものであり、遺構の時期は弥生時代前期Ⅰｃ期と考えら

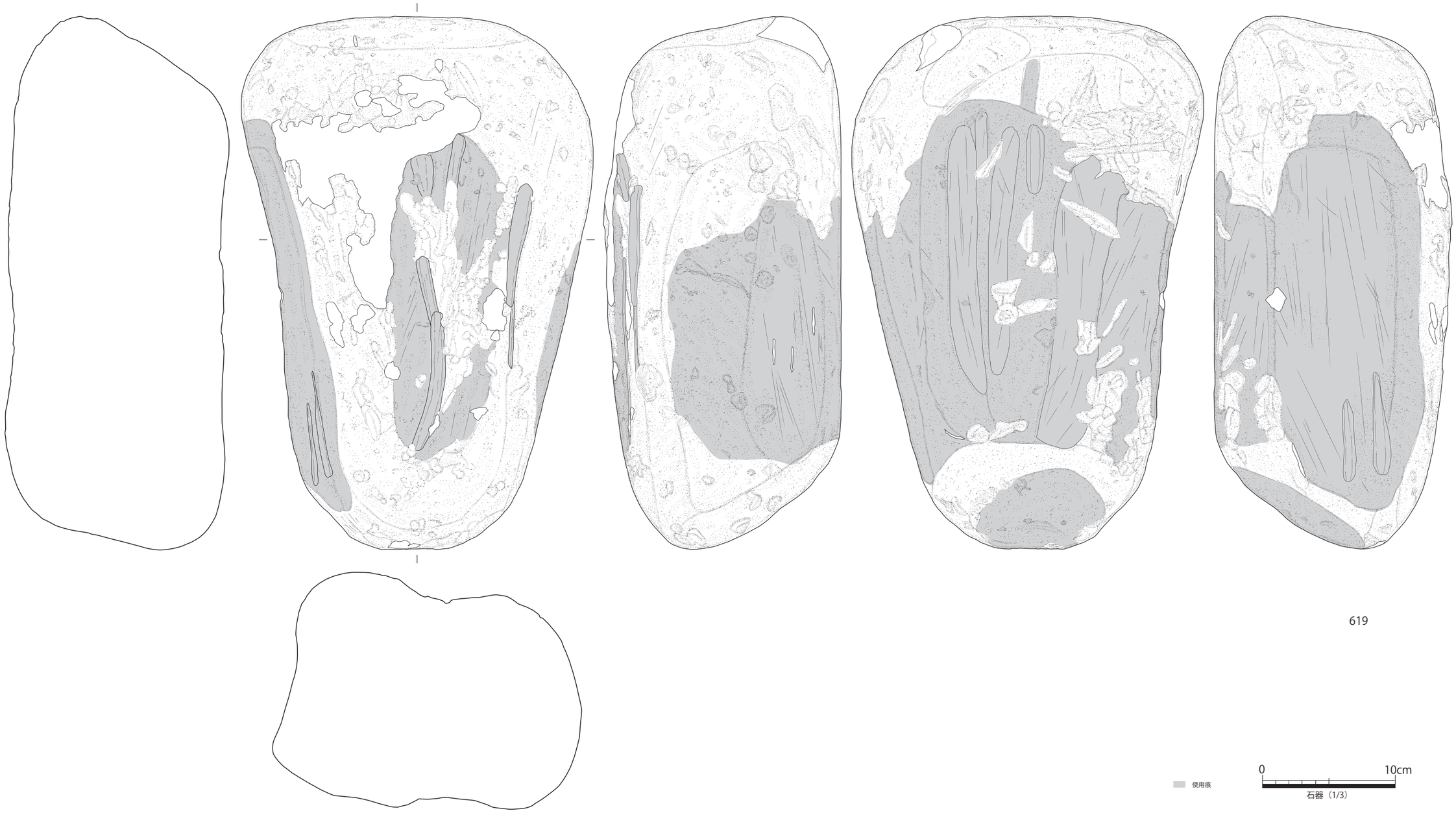



第 29 図　SX211・SX212　平・断面図、出土遺物

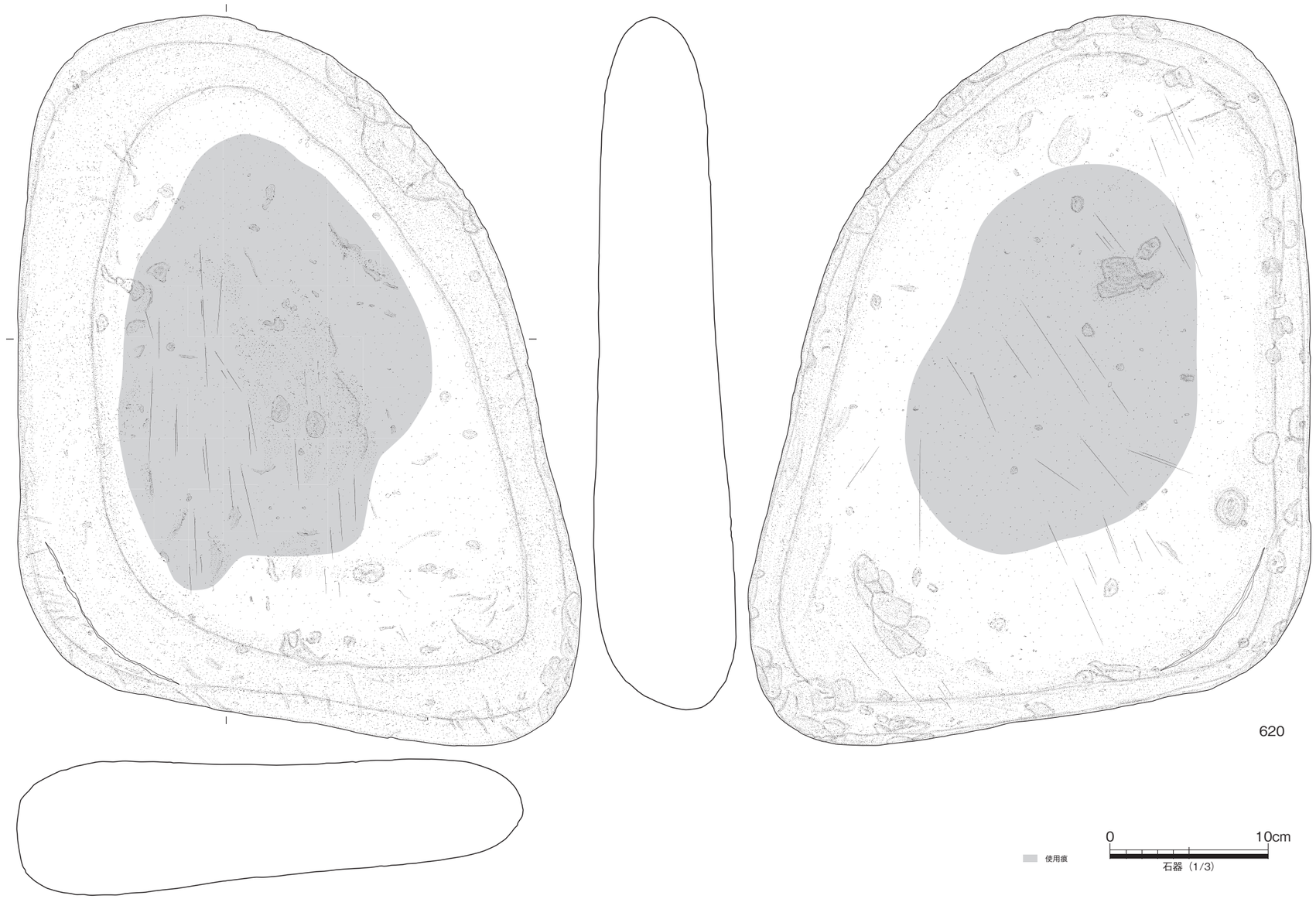
第 30 図　SX211　遺物出土状況



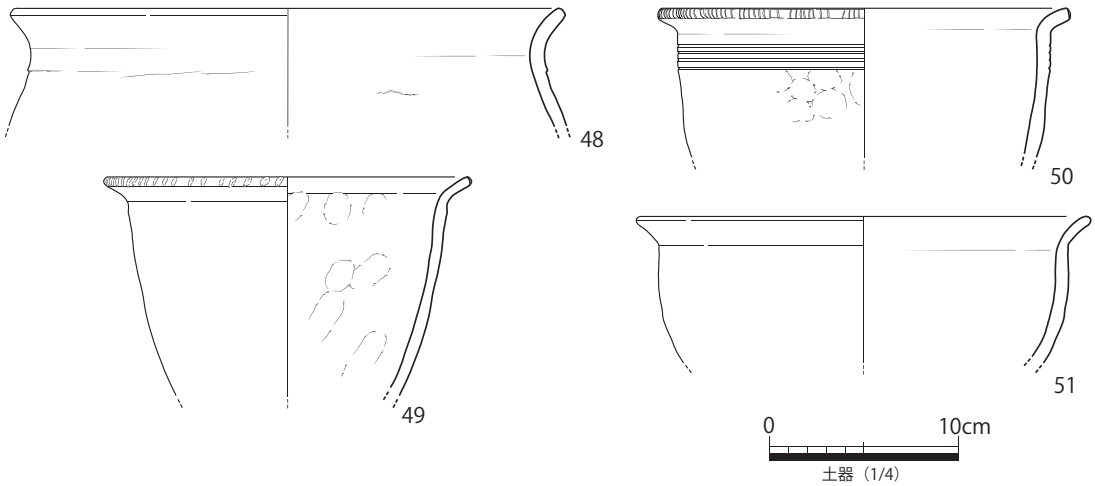

第 31 図　SX211　出土遺物 (1)




第 32 図　SX211　出土遺物 (2)




第 33 図　SX211　出土遺物 (3)




第 34 図　SX212　出土遺物

れる。

48 ～ 51 は SX212 から出土した弥生土器である。48 は壺。頸部に板状工具を押し付け段を作る。49・50 は甕。いずれも如意状口縁で、口縁端部に刻み目を施す。50 は体部に 4 条のヘラ描き沈線を施す。51 は鉢。

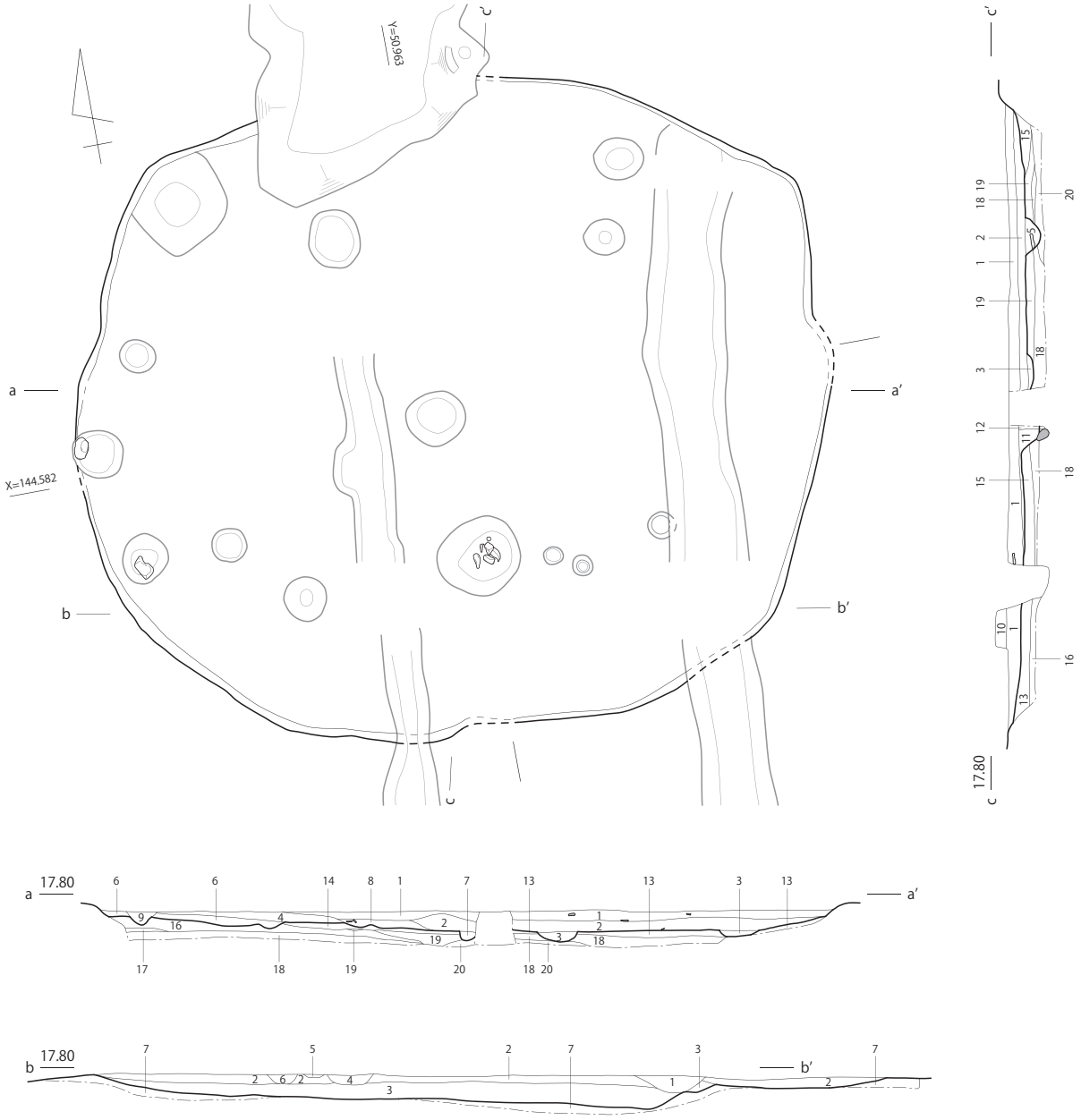
出土遺物はおおむね弥生時代前期Ⅰｃ期であり、遺構の時期は出土遺物により弥生時代前期Ⅰｃ期と考えられる。

**SX215( 第 35 図～第 37 図 )**

Ⅱ区北東部で検出した円形の遺構である。長軸 6.7m、短軸 5.7m、深さ 36cmである。規模・形状から竪穴建物の可能性もあると考えられるが、遺構内から複数の柱穴を検出したものの、主柱穴やその他竪穴建物に付属すると考えられれる遺構は検出できなかった。遺構内からは弥生土器とともにサヌカイト製打製石鏃・石錐やそれらの未成品、その他多量のサヌカイト片が出土した。遺構内で石鏃、石錐等のサヌカイト製品の製作に携わっていた可能性があろう。

52 ～ 70 は弥生土器。52 ～ 66 は壺。52・53・55 は頸部、体部に 2 条～ 3 条のヘラ描き沈線を、56 は削出突帯上に 3 条の沈線を施す。58 ～ 64 は大型壺。58･59 は直接接合せず頸部の屈曲の度合いもやや異なるため個別に図化したが、胎土や色調は類似し、同一個体の可能性が高い。口縁端部に沈線、頸部に 2 条の削出突帯を巡らせる。60 は頸部に刻み目のある削出突帯を巡らせる。62 は内面に貼付突帯を、外面には段を付ける。63 は頸部に、64 は頸部と体部の境に段を付ける。65･66 は壺底部。いずれも底部と体部の境の屈曲が強い。67 ～ 70 は甕。67 は頸部に 1 条のヘラ描き沈線、口縁端部に刻み目を施す。68 は頸部直下に 2 条のヘラガキ沈線を施す。70 は頸部下部に板状の工具を押し当てて段を作る。板の単位が観察できる。口縁端部には刻み目を施す。

71 ～ 80 はサヌカイト製打製石鏃。71 ～ 73、76、78、80 は凹基式、74、75 は平基式で長さは 1.65 ～ 2.75cmである。81 は三角形の形状で、縁部の半分程度に加工がある。石鏃または石錐の未製品と考えられる。82 ～ 85 は石錐である。82 は片側の側縁部、83 は上部と片側の側縁部が欠損する。84 は基部と片側の側縁部が欠損し、他の部分も加工が不十分である。86 は側縁部にわずかに加工痕がある。86 は結晶片岩製、他はサヌカイト製である。87 は石庖丁とした。一部に摩滅痕がある。安山岩製。88･89 は



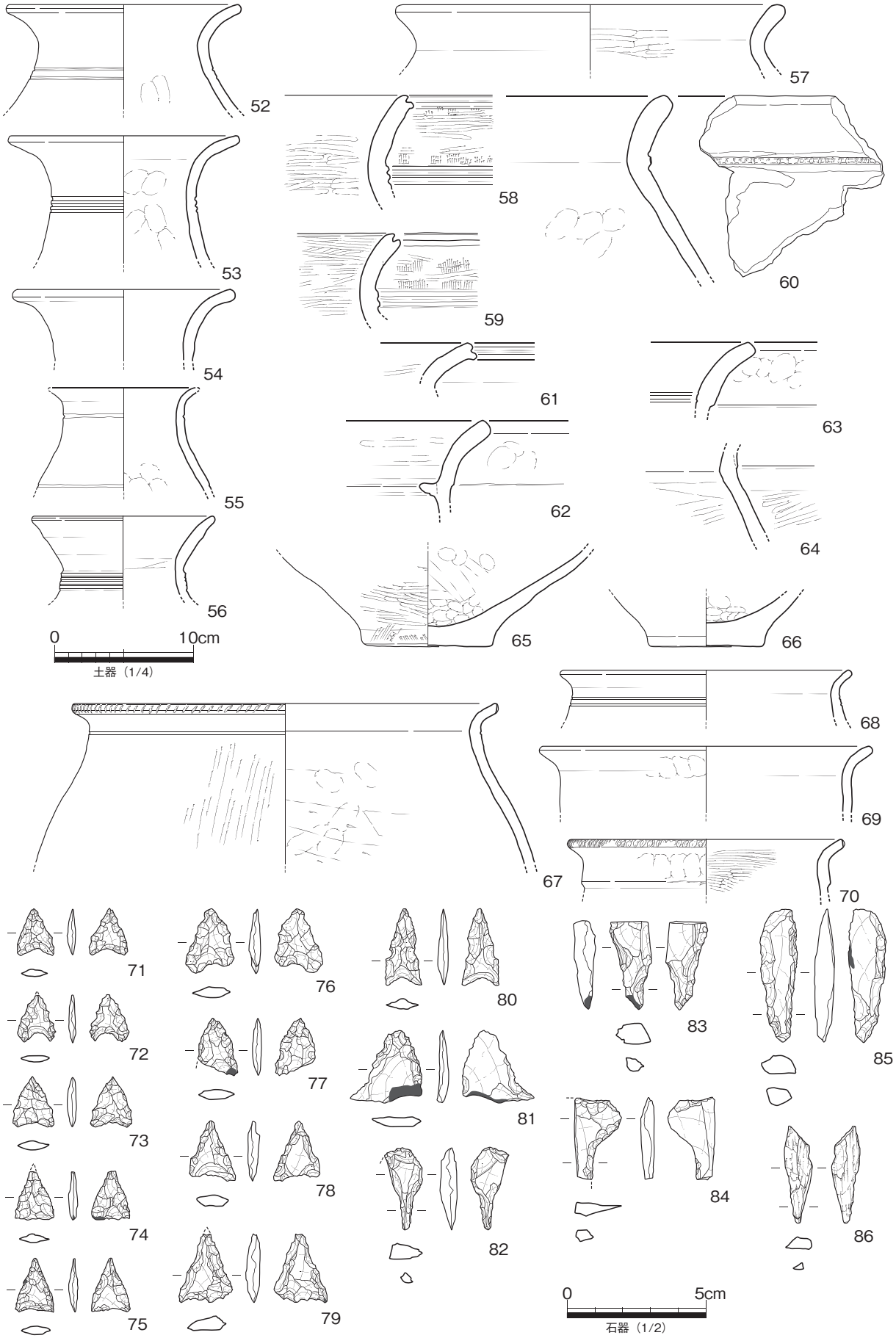

a-a′ c-c′
1　10YR3/3 暗褐色細砂質土
2　10YR4/2 灰黄褐色細砂質土（Mn を含む）
3　10YR5/1 褐灰色シルト（Mn を含む）
4　10YR6/2 灰黄褐色シルト（Mn を含む）
5　10YR7/3 にぶい黄橙色シルト
6　10YR5/1 褐灰色砂質土
7　N4/ 灰色シルト
8　5Y4/1 灰色砂質土
9　2.5Y5/1 黄灰色シルト（ピット）
10　2.5Y3/2 黒褐色細砂質土
11　10YR4/1 褐灰色シルト（Mn が多い）
12　10YR4/1 褐灰色シルト
13　10YR6/6 明黄褐色シルト（３の土が混じる、Mn が多い）
14　7.5Y5/1 灰色シルト
15　2.5Y7/2 灰黄色シルト（茶褐色 Mn が多い）
16　2.5Y7/4 浅黄色シルト
17　2.5Y6/2 灰黄色シルト（Mn が多い）
18　2.5Y5/1 黄灰色粘土（固い）
19　10YR4/3 にぶい黄褐色粘土
20　10YR6/8 明黄褐色粘土（とても固い）

b-b′
1　2.5Y4/1 黄灰色シルト
2　10YR4/1 褐灰色シルト
3　10YR5/2 灰黄褐色シルト
4　10YR5/1 褐灰色シルト
5　N6/ 灰色シルト
6　10YR4/2 灰黄褐色シルト
7　10YR7/6 明黄褐色シルト

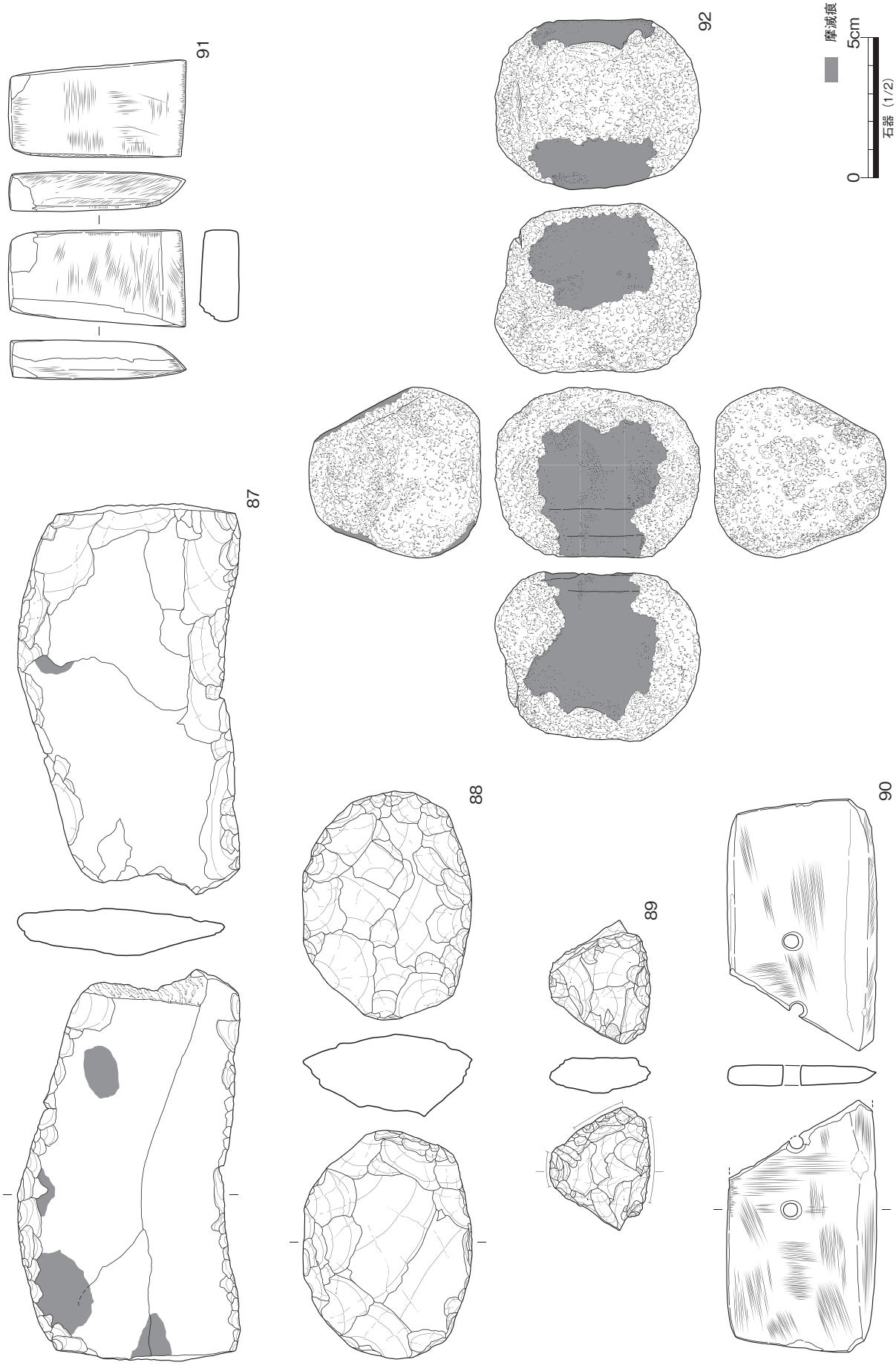
土器
石

0　2m
（1/60）

第 35 図　SX215　平・断面図




第 36 図　SX215　出土遺物 (1)




第 37 図　SX215　出土遺物 (2)

石核。サヌカイト製。89 は上・下部に潰れがみられる。90 は磨製石庖丁。91 は扁平片刃石斧。92 は叩き石。下部に敲打痕を残すほか側縁に帯状に摩滅痕が残る。砂岩製。

遺物の時期はおおむね弥生時代前期Ⅰｃ期と考えられるが、頸部に削出突帯を巡らせる 56・58・59 など弥生時代前期Ⅱａ期に下るものも含まれる。

遺構の時期は出土遺物により弥生時代前期Ⅰｃ期～Ⅱａ期と考えられる。

**SX216( 第 38 図・第 39 図 )**

Ⅱ区南東隅で検出した遺構である。SD308（内環濠）の約 0.8m 南側に位置する。南北 2.7 m以上、東西 4.1m 程度の不整形を呈し、浅い部分は深さ 8㎝程度であるが、SX216 の西から 1.3 ～ 2.2 m付近は溝状を呈し、深さ 45 ～ 50㎝を測る。SX216 北端には、西半部が攪乱により大きく消失するものの、長軸 1.82 m程度、短軸 1m 程度、深さ 30㎝程度の掘り込みがあり、北向きに横倒しの状態で壺が埋納されていた。

上記溝状を呈する部分と SD308（内環濠）の南端は向き合う位置にあり、この間の空閑地は内環濠の陸橋部分となる。内環濠が途切れた部分に壺を埋納したものと考えられる。土坑中からは弥生土器壺が攪乱により半分消失した状態で出土したほか、弥生土器片、サヌカイト片などが出土した。

93 ～ 97 は弥生土器。93 ～ 95 は壺。93 は頸部、体部上半、体部中央に 2 ～ 3 条の刻目突帯が巡る。胎土中に摩滅した黒色粒を多量に含む。形態・胎土から在地の土器ではなく南四国からの搬入品と考えられる。94 は頸部に 4 条のヘラ描き沈線を、95 は段状を呈する沈線を巡らせる。96･97 は甕。ともに口縁端部に刻目を施し、96 は 3 条のヘラ描き沈線を施す。98 は叩き石。サヌカイト製。敲打により丸く成形する。剥離面が明瞭に残る部分もある。側面にほぼ等間隔に 3 ヶ所摩滅痕が残る。

93・94 は弥生時代前期Ⅱａ期まで下るが、その他は弥生時代前期Ⅰｃ期と考えられる。

溝状を呈する部分は SD308（内環濠）の一部とすれば前期Ⅰｃ期である。埋納された壷（93）が SD308 の下限を示すものであれば、溝の廃絶に伴う行為の可能性もある。

④溝

**SD204( 第 40 図 )**

Ⅱ区中央付近で検出した溝である。SD205 付近から検出し、12mほどで途切れる。幅 35㎝、深さ 7㎝、埋土は黒褐色シルトである。SD204 の延長上に SD308（内環濠）の北から約 7.6m の位置でわずかに派生する西方向の延長約 3.2m の溝があり、同一遺構の可能性もあろう。埋土中からは弥生土器片、サヌカイト剥片などが出土した。

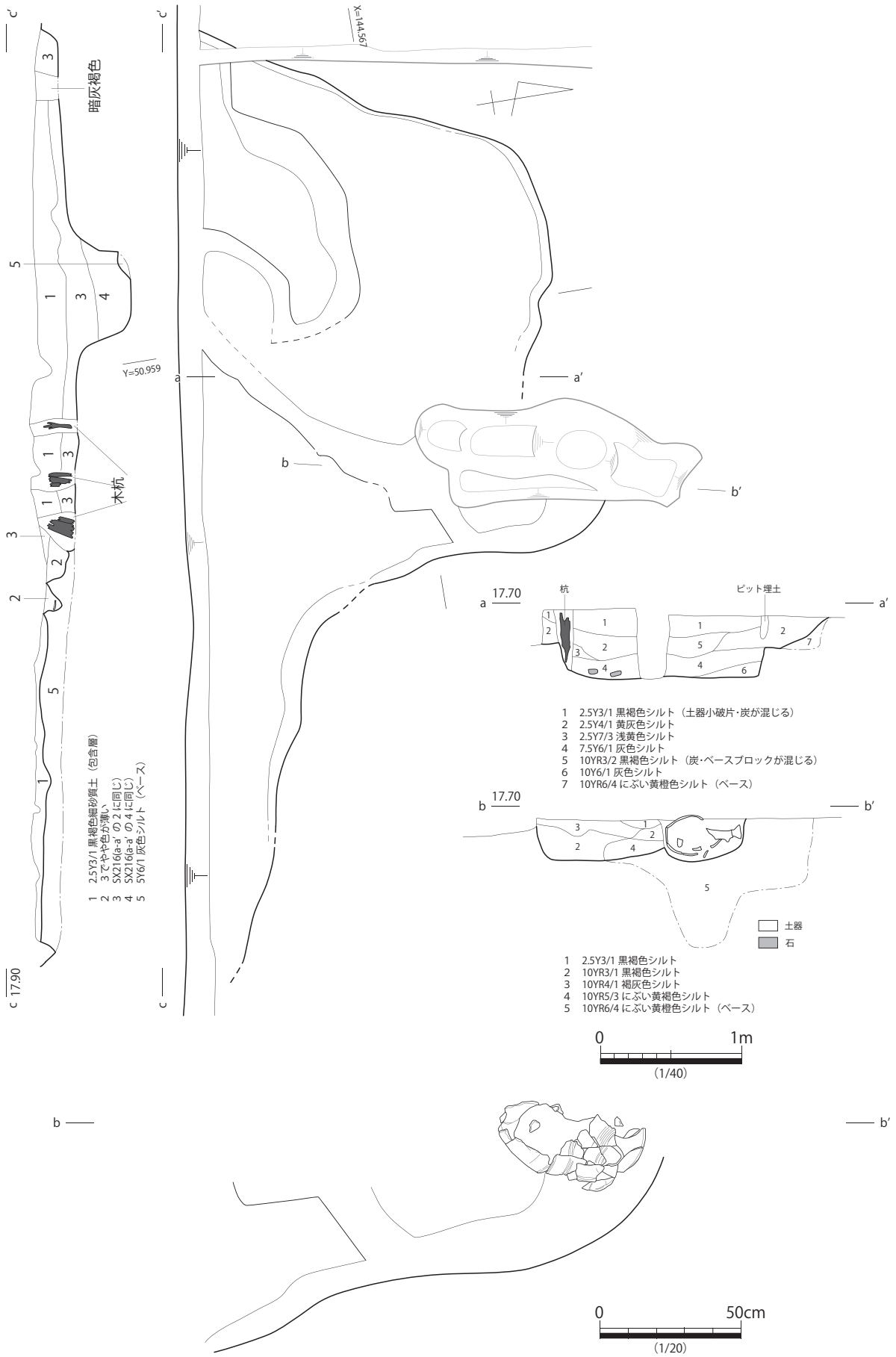
99 は弥生土器壺。頸部には段状を呈するヘラ描き沈線を 1 条巡らせる。弥生時代前期Ⅰｃ期と考えられる。100 は楔形石器。上部・下部の側縁部に敲打痕が認められる。サヌカイト製。

遺構の時期は出土遺物により弥生時代前期Ⅰｃ期と考えられる。

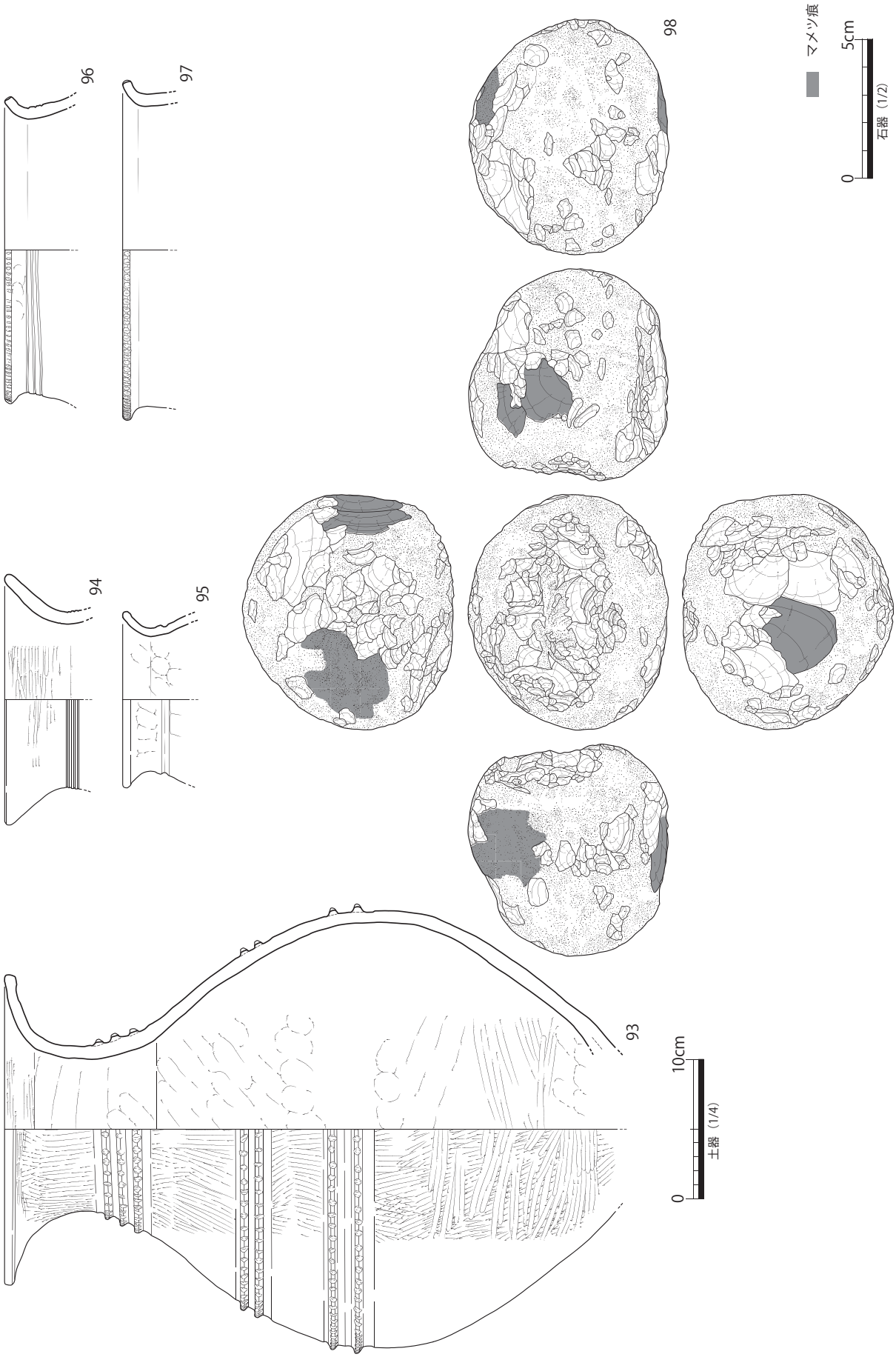
**SD208( 第 41 図 )**

Ⅱ区西端で検出した溝である。ほぼ直線的に延び、北端付近でやや広くなり、攪乱により消失する。攪乱より東では検出していない。検出長約 10m、幅 35 ～ 48㎝、深さ 12㎝、埋土はおおむね褐灰色シルトである。包含層である黒色粘土が上面に堆積する。埋土中からは弥生土器片やサヌカイト片が出土した。

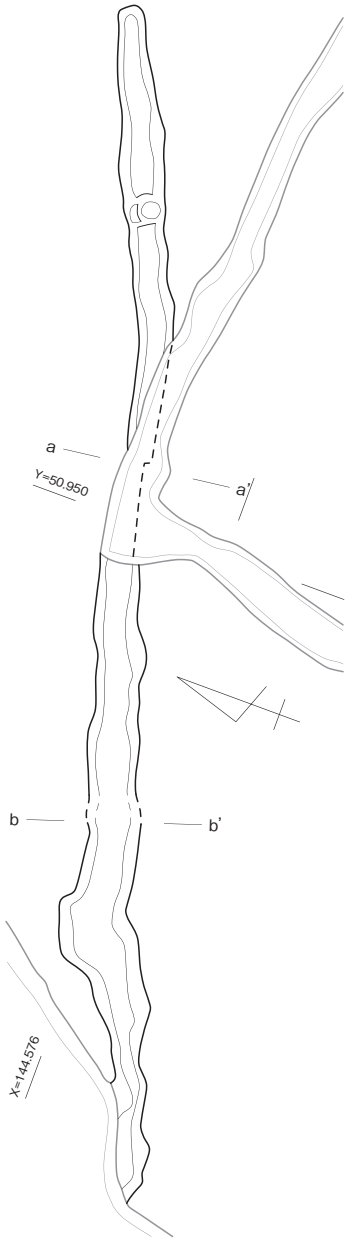
101 は弥生土器壺。頸部に 3 条のヘラ描き沈線を巡らせる。弥生時代前期Ⅰｃ期。102 ～ 105 はサヌ



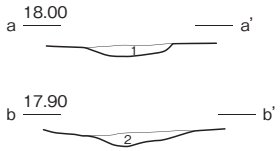

第 38 図　SX216　平・断面図




第 39 図　SX216　出土遺物



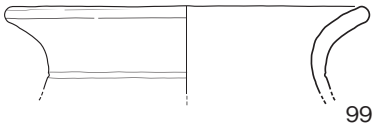

平面図（1/80）




1　7.5YR5/1 褐灰色シルト
2　10YR3/1 黒褐色シルト

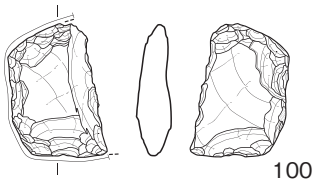
0　1m

断面図（1/40）




0　10cm

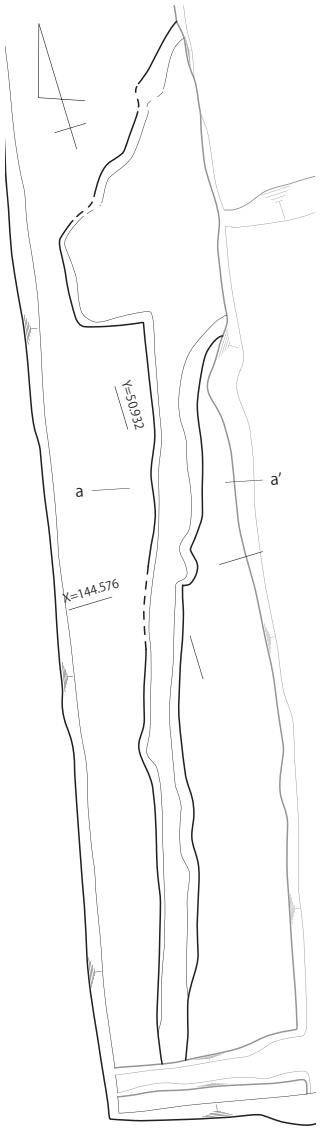
土器（1/4）



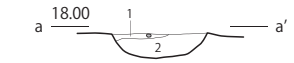

0　5cm

石器（1/2）

第 40 図　SD204　平・断面図、出土遺物



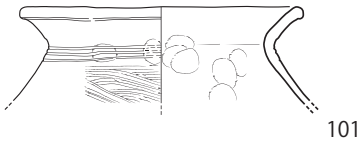

平面図（1/80）




1　2.5Y2/1 黒色粘土
2　10YR4/1 褐灰色シルト

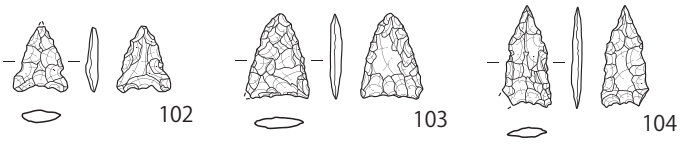
石　0　1m

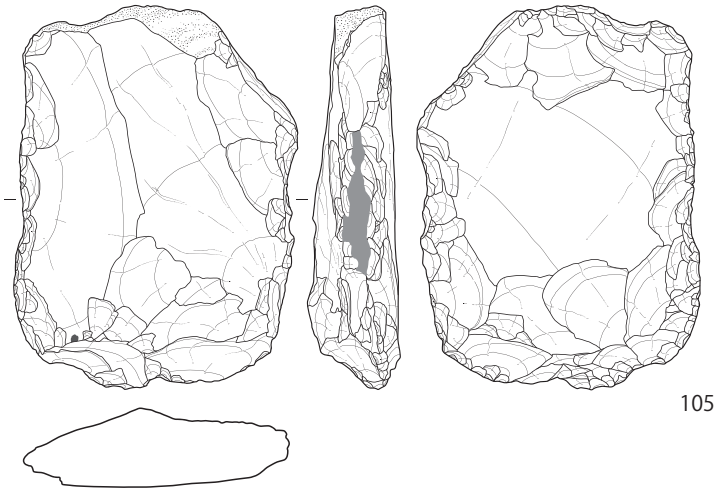
断面図（1/40）




0　10cm

土器（1/4）




0　5cm　磨滅

石器（1/2）

第 41 図　SD208　平・断面図、出土遺物

カイト製打製石器。102 ～ 104 は石鏃。102･104 は凹基式、103 は平基式である。105 は打製石斧。側縁の刃部には摩滅痕が残る。

遺構の時期は出土遺物により弥生時代前期Ⅰｃ期と考えられる。

**SD101・SD302（外環濠）( 第 42 図～第 47 図 )**

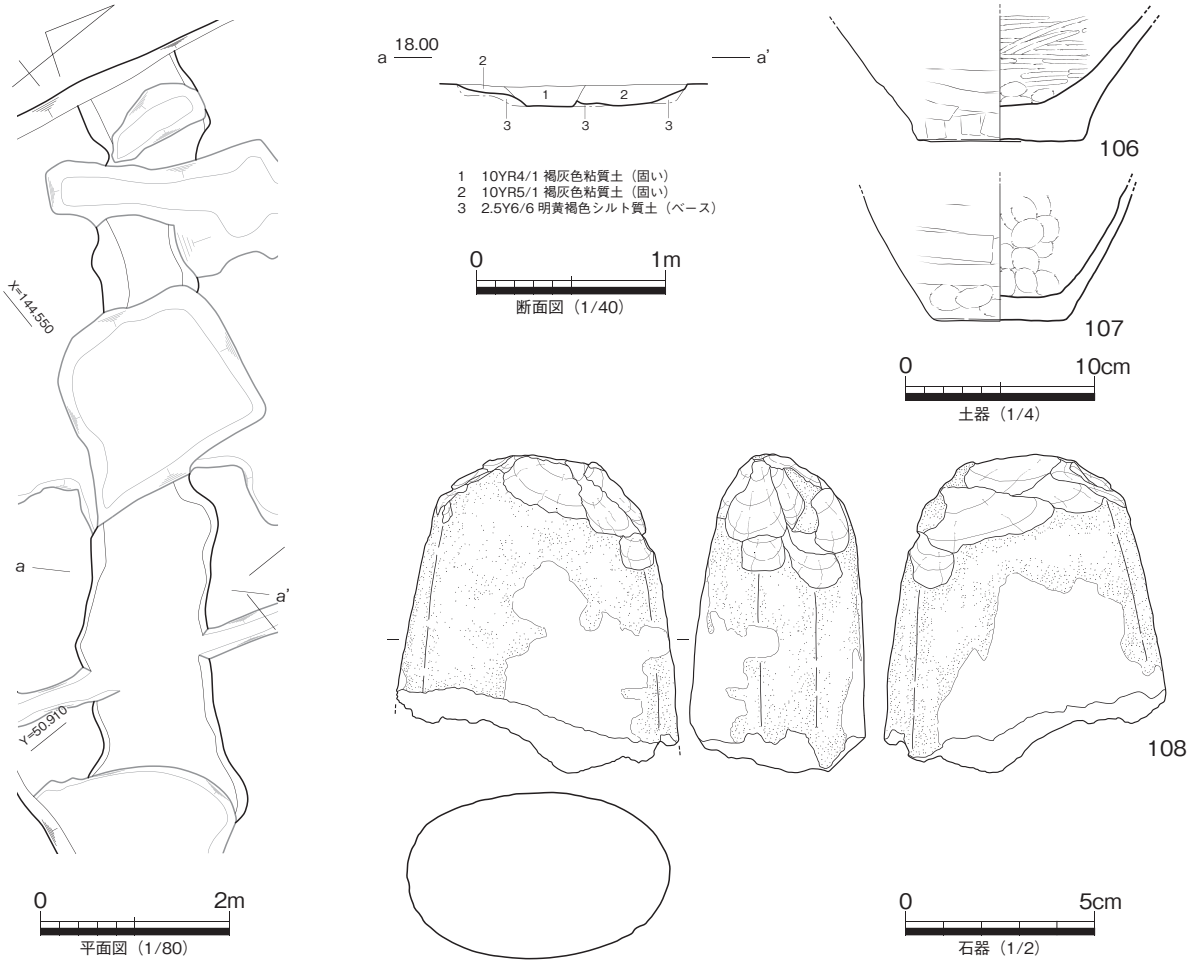
Ⅰ区南端で SD101 を、Ⅲ区西部で SD302 を検出した。両者は同一の溝と考えられる。

SD101 は、攪乱により断続的に消失しながら延長 7.3ｍを検出した。幅 115 ～ 125㎝、深さ 10.6㎝、埋土は褐灰色粘質土でよく締まる。

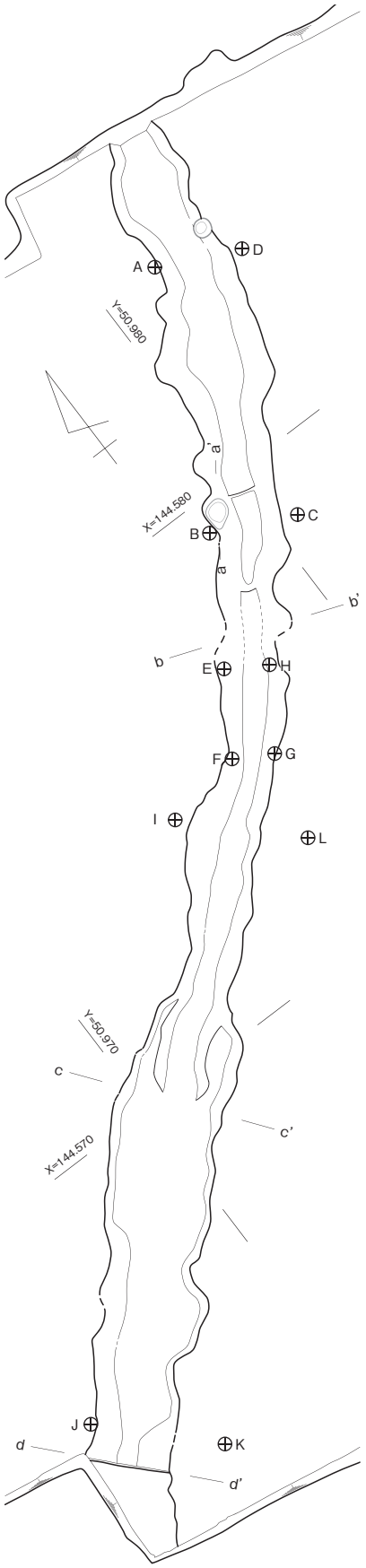
SD302 はⅢ区西部で検出した。検出長 6.25ｍ、幅 185 ～ 235㎝、深さ 25 ～ 45㎝で、埋土は上部が黒褐色シルト、下部が褐灰色シルトである。両者は二重環濠の外環濠の一部と考えられる。内環濠である SD103・SD308 の場合と同様、東部 SD302 からは多くの遺物が出土し、西南部 SD101 からの出土遺物は少なかった。溝底のレベルは南西側（SD101）が高く北東側 (SD302) が低い。

106 ～ 108 は SD101 から出土した遺物である。106・107 は弥生土器壺底部。106 は底部外面に穀類と考えられる種実圧痕が観察できる。108 は磨製石斧。下部は欠損する。砂岩。

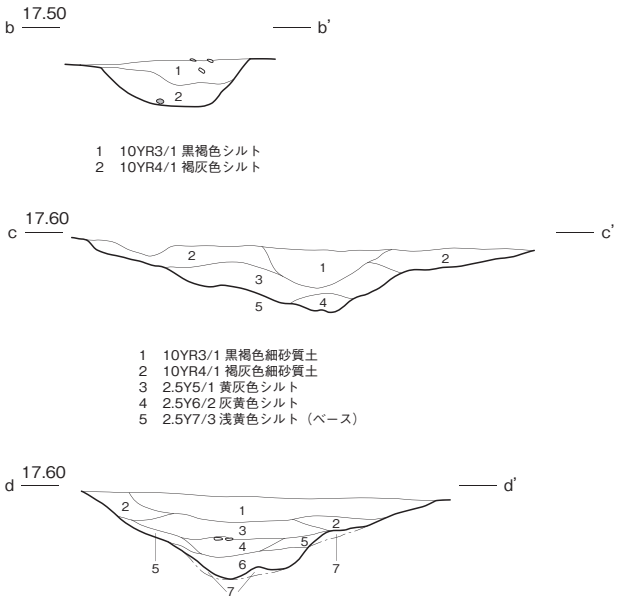
109 ～ 157 は SD302 から出土した遺物である。109 ～ 156 は弥生土器。109 ～ 124 は壺。111 は頸部直下に板状の工具を連続的に横方向に押し当てて段を作る。112･114･116･118 は頸部に 2 ～ 4 条のヘラ描き沈線を、113･115 は削出突帯を巡らせる。117 は頸部の削出突帯上にヘラ描き沈線を 2 条施す。119 は頸部下部を削り出し、段を作る。胴部に連弧文と直線文のヘラ描き文様を施す。121 は口縁端部に刻




第 42 図 SD101　平・断面図、出土遺物



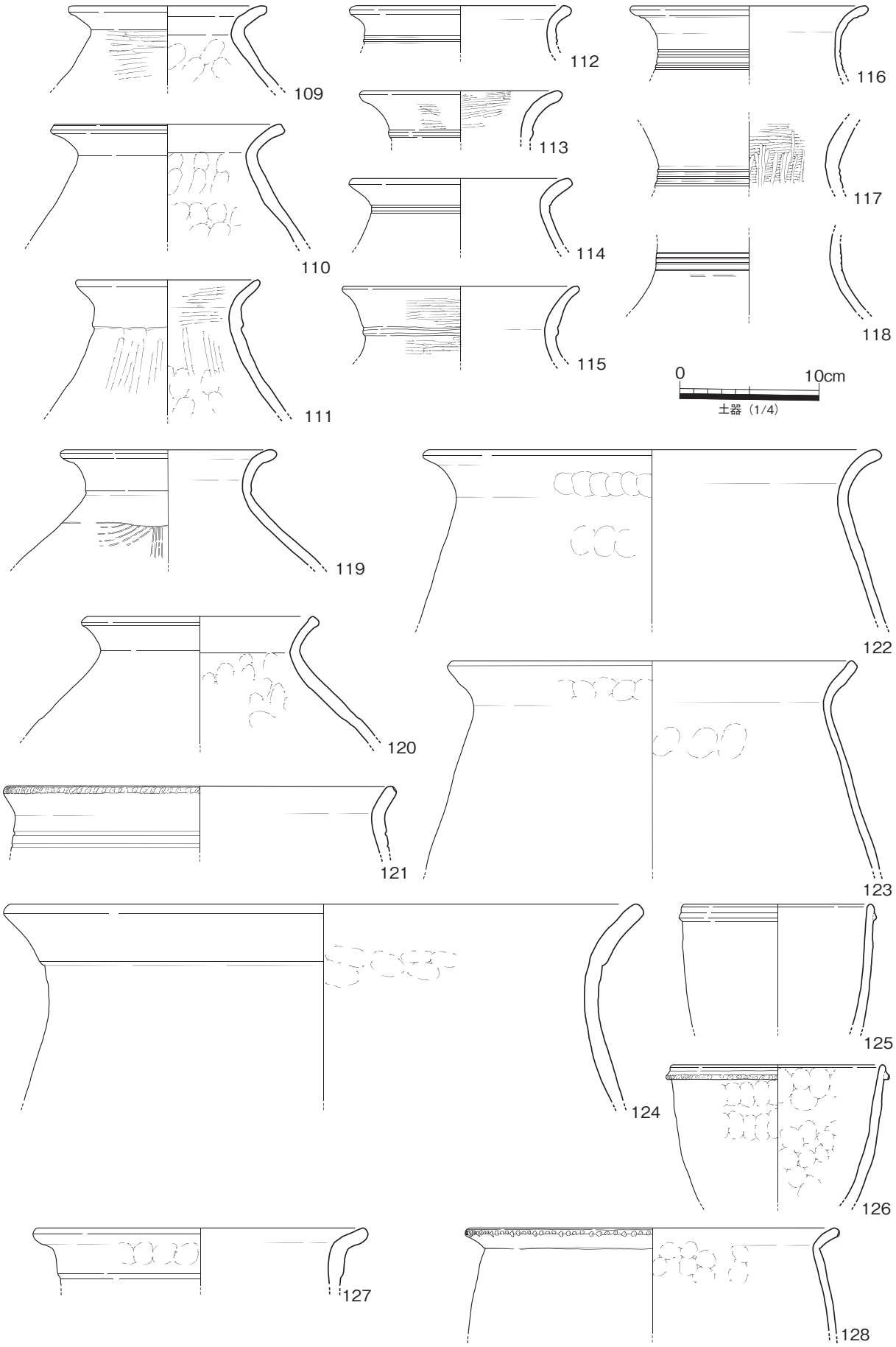

平面図（1/150）



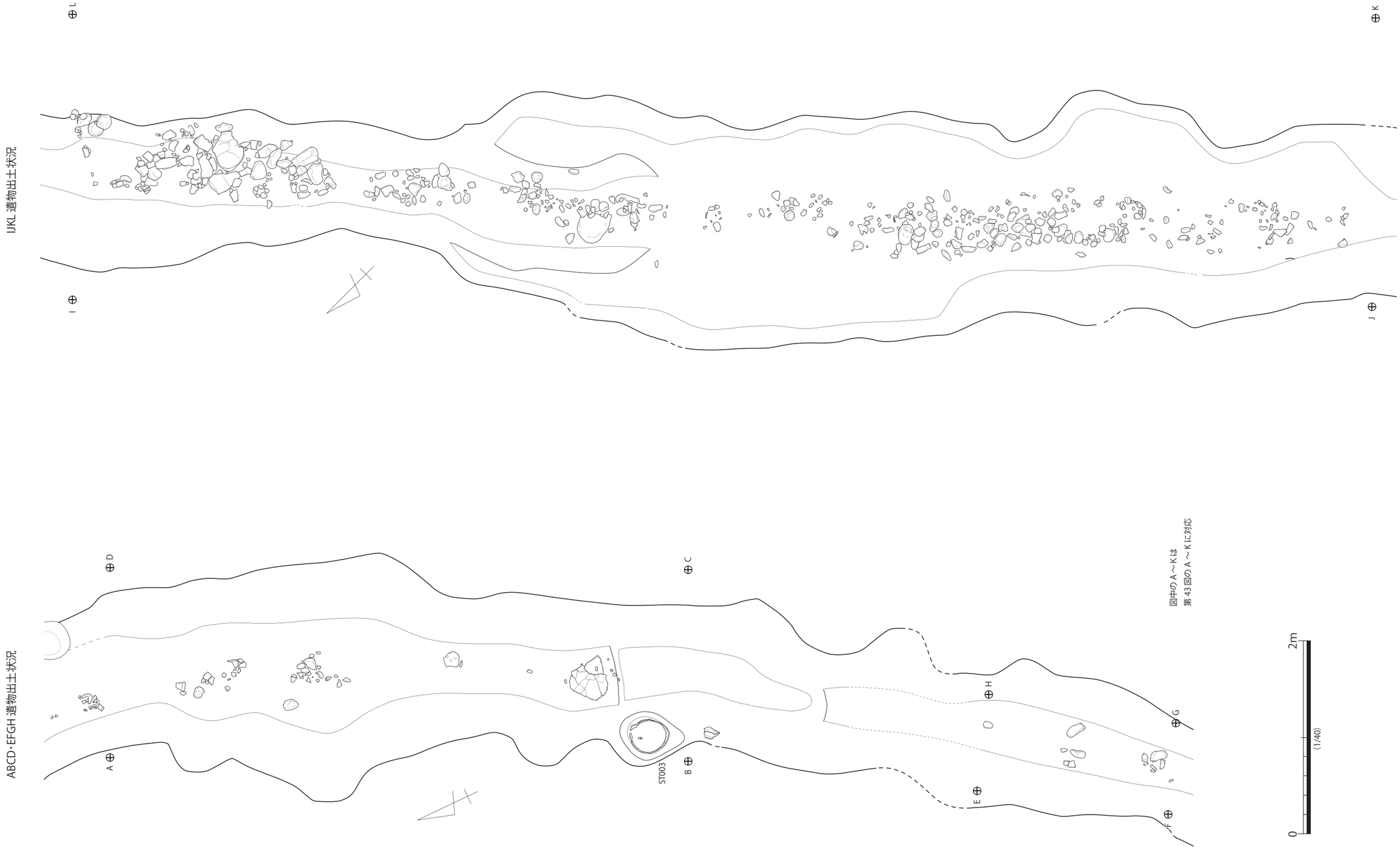

断面図（1/40）

図中のA～Kは
第45図A～Kに対応

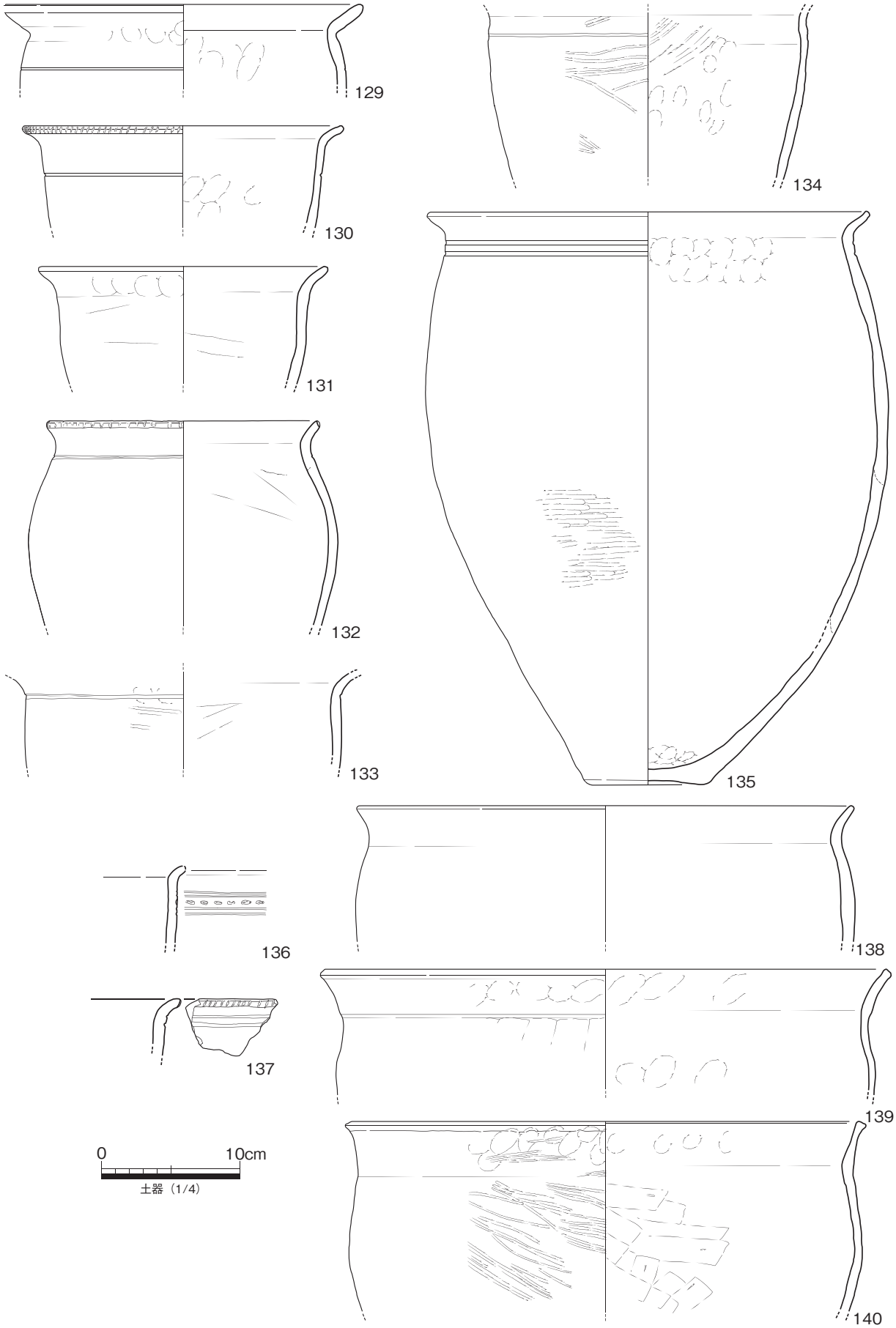
第43図　SD302　平・断面図



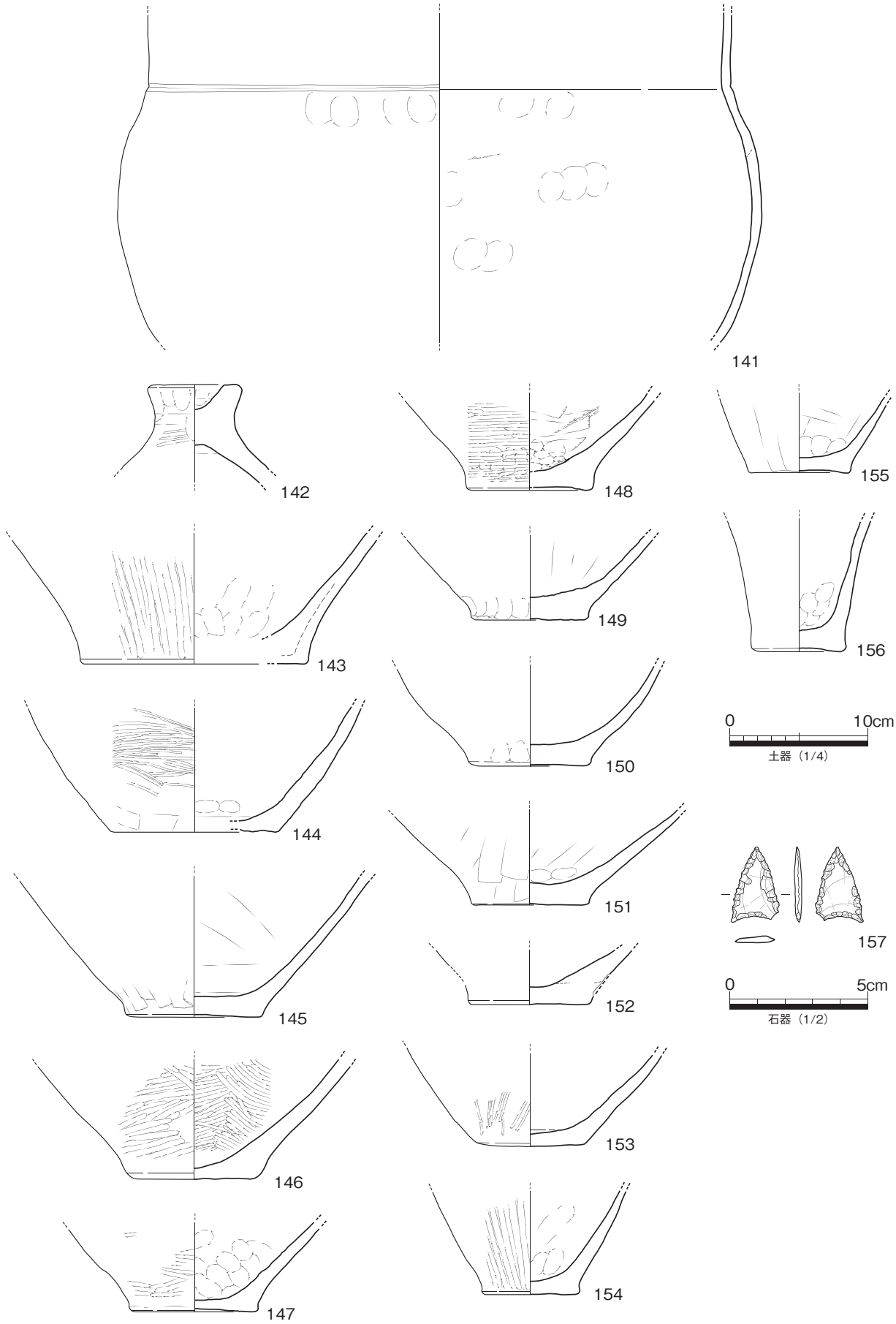

第 44 図　SD302　出土遺物 (1)



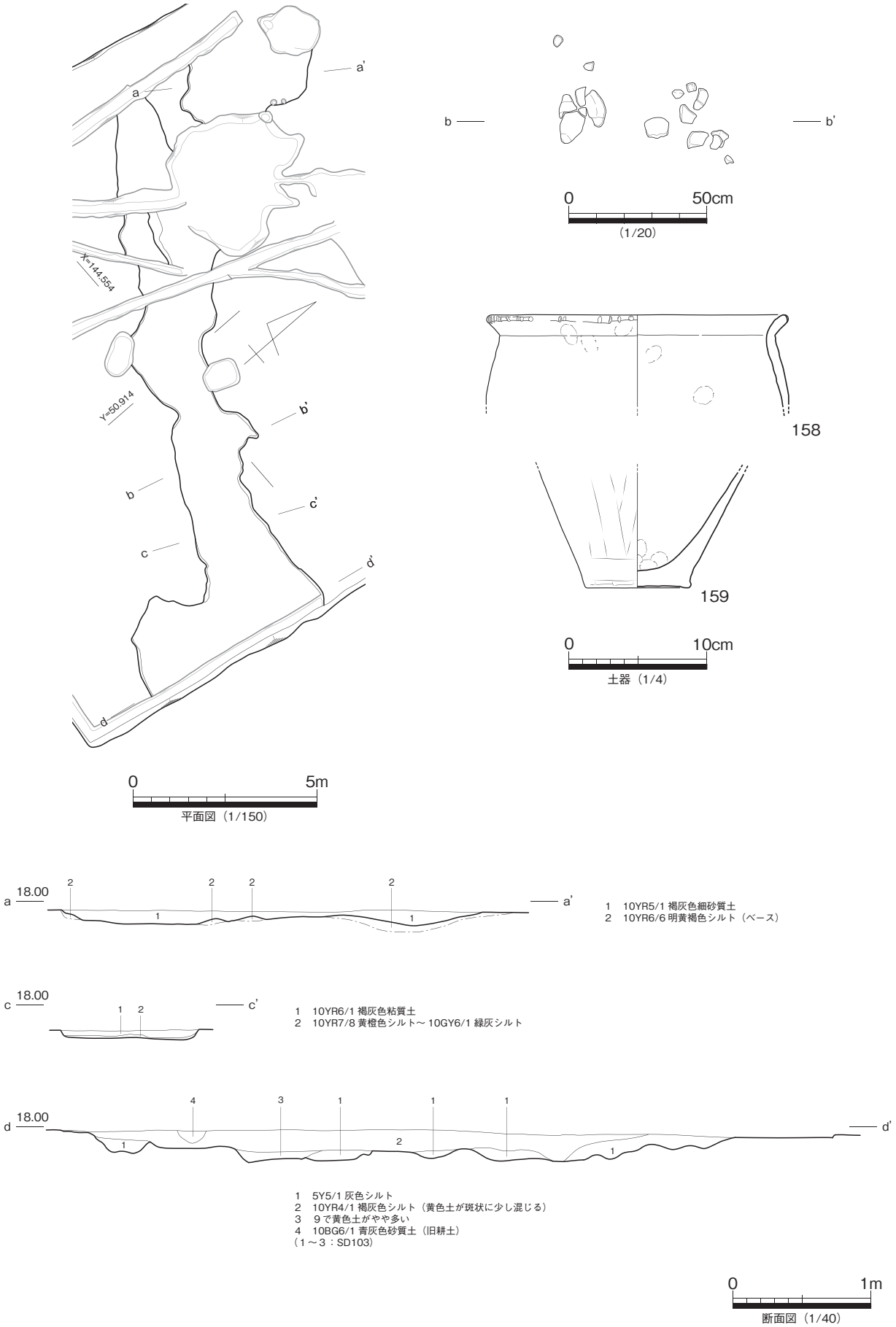

第 45 図　SD302　遺物出土状況



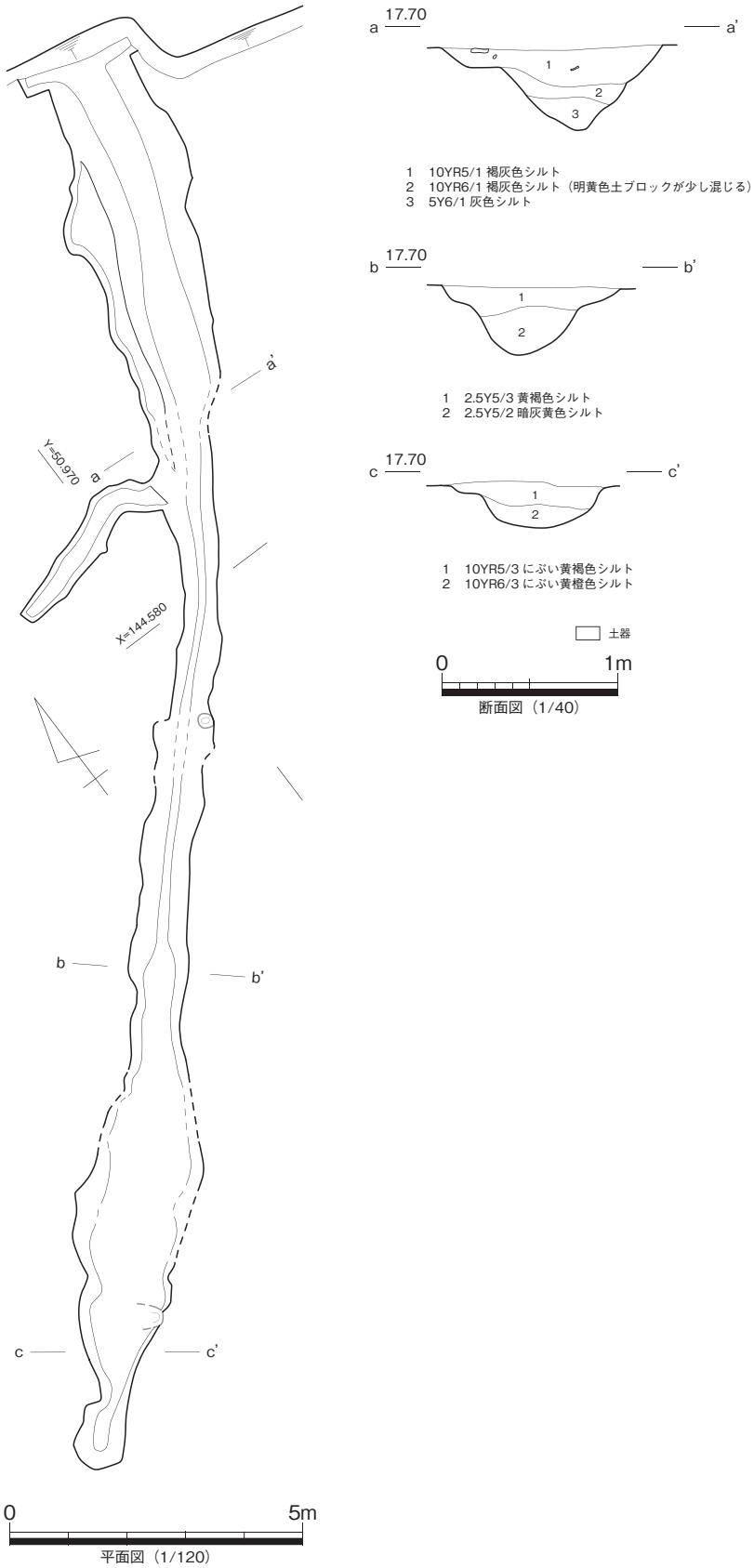

第 46 図　SD302　出土遺物 (2)




第 47 図　SD302　出土遺物 (3)




第 48 図　SD103　平・断面図、出土遺物




第 49 図 SD308 平・断面図

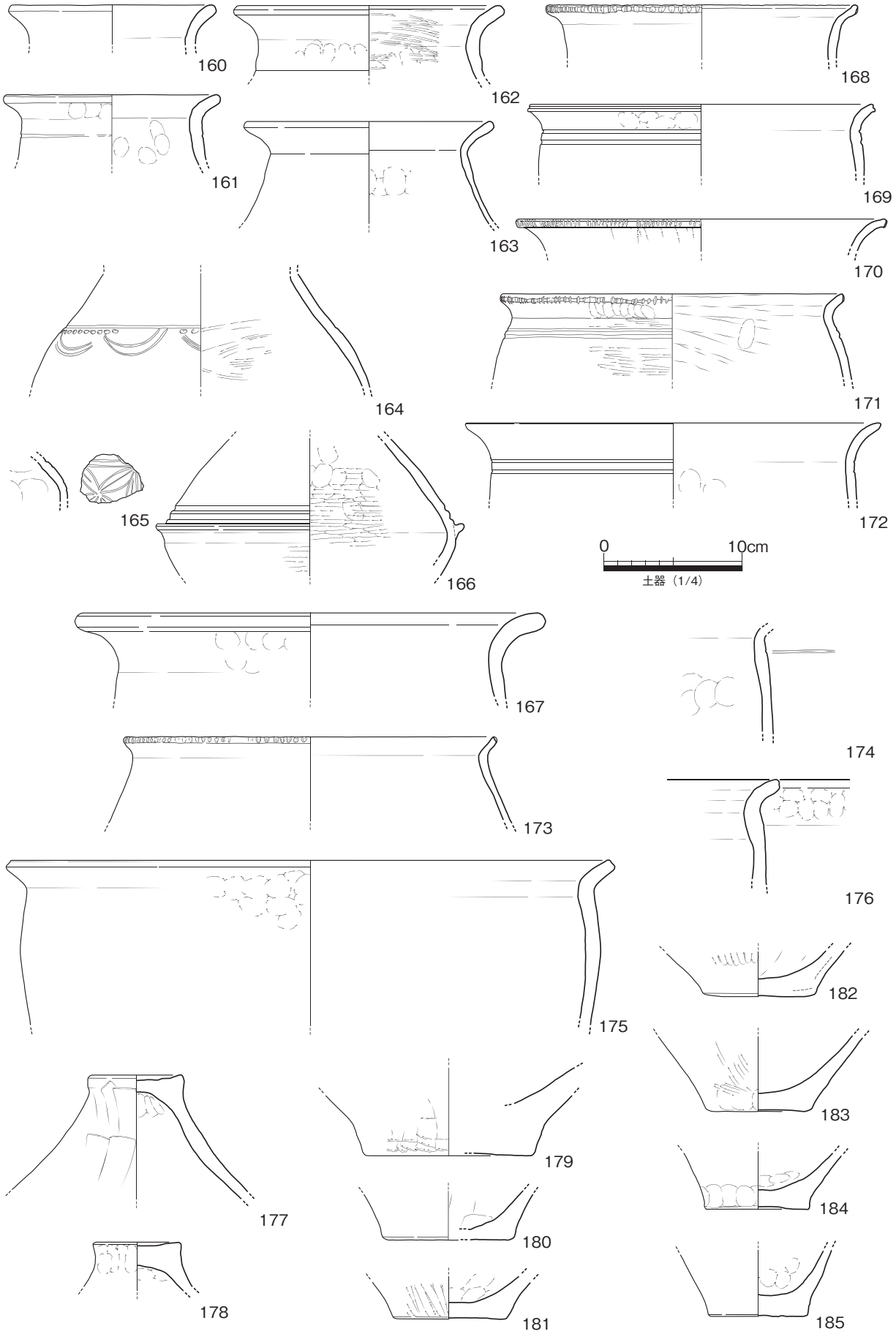
み目を付け、頸部の下部に 2 条のヘラ描き沈線を描く。122 ～ 124 は大型壺。122･123 は胎土・形態が類似する。124 は頸部に段を持つ。125 ～ 137 は甕。125･126 は口縁部直下に突帯を巡らせる。126 は突帯に刻み目を付ける。127 は体部上部に削り出しによる段を持つ。128･130 は口縁端部に刻み目を、129･130 は体部上部にヘラ描き沈線を巡らせる。132 は口縁端部に刻み目を施し、頸部直下をヘラ描き沈線により段を作る。136 はヘラ描き沈線 2 条＋円形刺突文＋ヘラ描き沈線 2 条を、137 は口縁端部に刻み目を、口縁部直下にヘラ描き沈線を 2 条巡らせる。138 ～ 141 は鉢。141 は摩滅が著しいが、体部の屈曲部に削り出しによる段を付ける。142 は甕の蓋。頂部に窪みを持つ。143 ～ 153 は壺底部。154 ～ 156 は甕底部。157 は石鏃。凹基式。縁辺部のみ加工する。サヌカイト製。

113･118･137･142 など一部弥生時代Ⅱａ期に下るものもあるが、概ね遺物は弥生時代Ⅰｃ期と考えられる。

遺構の時期は出土遺物により弥生時代前期Ⅰｃ期～Ⅱａ期と考えられる。

**SD103・SD308（内環濠）( 第 48 図～第 50 図 )**

Ⅰ区南部で SD103 を、Ⅲ区西部で SD308 を検出した。両者は同一の溝と考えられる。SD103 は検出長 15m、幅 195cm、深さ 6cm で浅




第 50 図　SD308　出土遺物

い。埋土は褐灰色細砂質土である。調査区西端部では消失する。調査区東端では溝の埋土中にベースと考えられる黄色土が多く混じり、溝のラインも不明瞭になる。東端ではSK121と向き合う位置で南側へ張り出す形状となる。

SD308は検出長24.3m、幅55～180cm、深さ22cm、埋土は褐灰色シルト、黄褐色シルトである。溝底のレベルは外環濠同様西南側（SD103）が高く北東側（SD308）が低い。環濠の規模は外環濠よりやや規模は小さいが、溝底のレベルの差は最大でも10cm程度でそれほど変わらない。SD308は調査区南端付近で一度途切れ、幅0.8m程度の陸橋部を作り、その南側に壺（93）を埋納する遺構を配し、SX216へと繋がる。

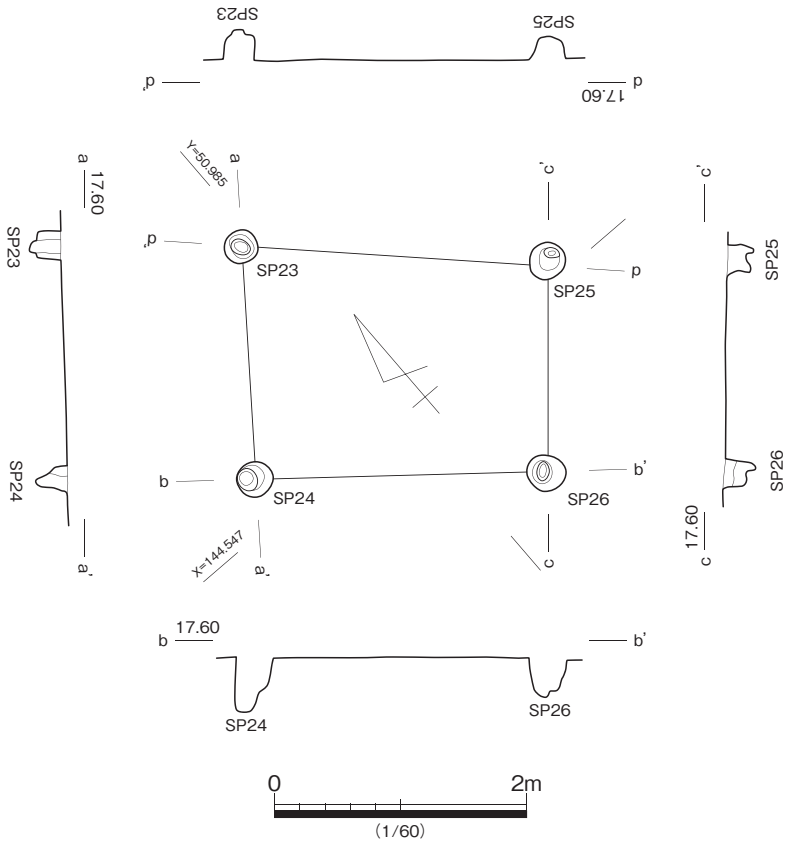
158･159はSD103から出土した弥生土器である。158は甕。口縁端部に刻み目を施す。159は甕底部。

160～185はSD308から出土した弥生土器である。160～167は壺。161は頸部上部にヘラ描き沈線1条、162は削り出しにより段を作る。164は壺体部。体部上半に段を持つ沈線を巡らせ、その下部に列点文、連弧文を施す。165は体部小片。有軸木の葉文を描く。166は壺体部。体部中位に突帯を、その上部に沈線を2条巡らせ、内外面とも丁寧に磨く。168～174は甕。168･170･171は口縁端部に刻み目を持つ。169は頸部にヘラ描き沈線を施す。上側のヘラ描き沈線は段状を呈する。175･176は鉢。177・178は甕の蓋。ともに頂部はわずかに窪む。179～183は壺底部。184･185は甕底部。

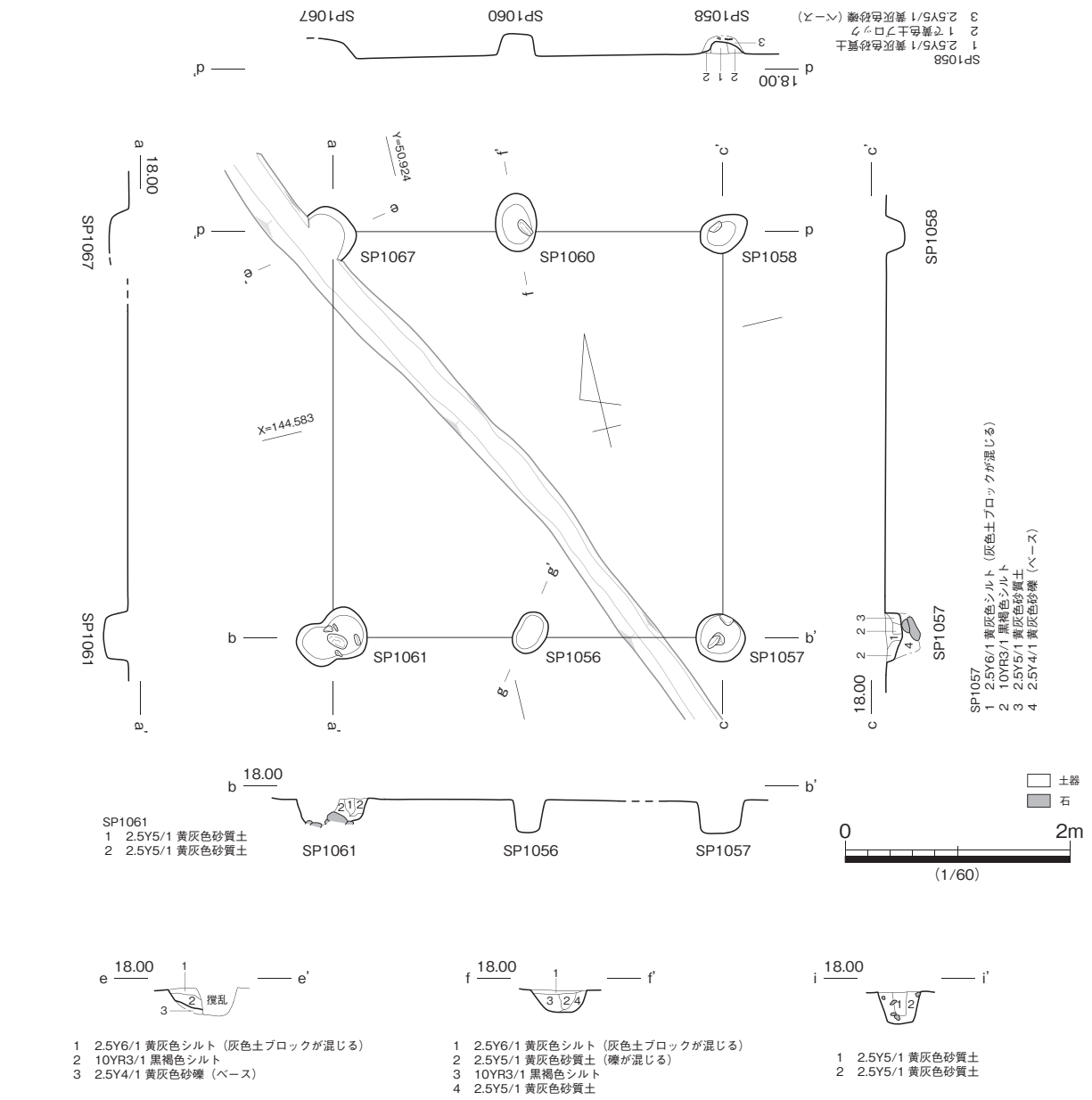
出土遺物は大半が弥生時代前期Ⅰｃ期で占められ、遺構の時期は弥生時代前期Ⅰｃ期と考えられる。

2. 弥生時代後期

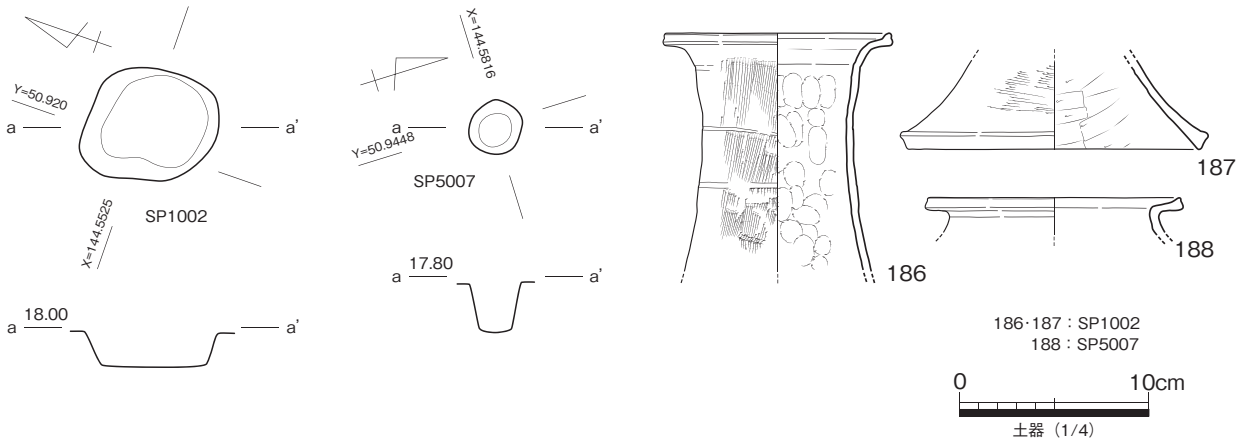
①竪穴建物




第51図 SH401 平・断面図




第 52 図　SB102　平・断面図




第 53 図　弥生時代後期ピット　平・断面図、出土遺物

**SH401( 第 51 図 )**

Ⅳ区中央付近で検出した。第 2 遺構面から検出した。短辺 1.75 ～ 1.85m、長辺 2.35 ～ 2.45mで主軸方位は N46.9゜W である。柱穴は概ね円形で、直径 30cm程度、深さ 20 ～ 40cm程度である。埋土中からは、胎土に角閃石を含む弥生時代後期の土器小片が出土した。柱穴の周囲に掘り込みは認められなかったが、柱構造が 1 間× 1 間であることから、竪穴建物の柱穴のみ残存したものである可能性が高い。

第 2 遺構面から検出したこと、出土遺物から遺構の時期は弥生時代後期と考えられる。

②掘立柱建物

**SB102( 第 52 図 )**

Ⅰ区北端で検出した掘立柱建物である。桁行 2 間（3.46m）、梁間 1 間（3.64m）、桁行の柱間は 1.72m～ 1.76mで、面積は 12.59㎡である。主軸方位はN 103.4° E である。柱穴は円形で直径 40cm程度、または楕円形で長軸 50cm・短軸 30cm、深さ 10 ～ 20cm程度の円形である。柱穴の埋土は柱痕跡が黄灰色砂質土、柱掘方は黒褐色シルトが多い。柱穴からは弥生時代後期の土器小片が出土しただけであった。

遺構の時期は決めがたいが、掘立柱建物の構造や出土遺物などから弥生時代後期と考えられる。

③ピット

**SP1002( 第 53 図 )**

Ⅰ区南端付近、SD103 上面で検出した。楕円形で長軸 65cm、短軸 57.5cm、深さ 19cmである。埋土中からは弥生土器が出土した。

186･187 は弥生土器である。186 は長頸壺。外面は緩い沈線を 3 条施し、内面は指頭圧痕を顕著に残す。187 は高杯脚部。いずれも香東川流域産土器である。弥生時代後期中葉に相当する。

遺構の時期は出土遺物により弥生時代後期中葉である。

**SP5007( 第 53 図 )**

Ⅱ区中央付近、SD205 の西側で検出した。円形で直径 30cm、深さ 26cmである。埋土中からは弥生土器甕が出土した。

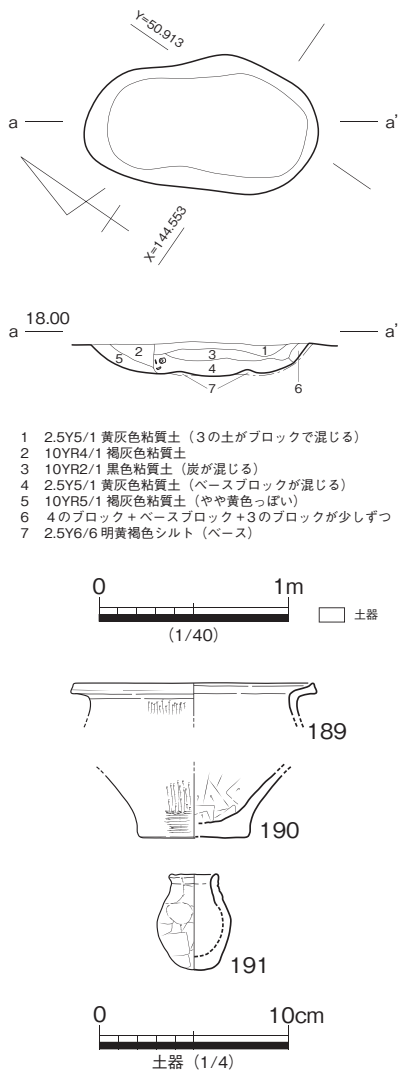
188 は甕小片。香東川流域産土器である。弥生時代後期中葉に相当する。

遺構の時期は出土遺物により弥生時代後期中葉である。

④土坑

**SK103( 第 54 図 )**

Ⅰ区南部、SD103 中央部付近で検出した土坑である。SD103 の上面で検出した。楕円形で長




第 54 図 SK103 平・断面図、出土遺物

軸 1.26m、短軸 0.62m、深さ 17.2cm、埋土にはベースブロックが多く含まれ、埋土中位には炭混りの黒色粘土が堆積する。埋土中からは弥生土器片が出土した。

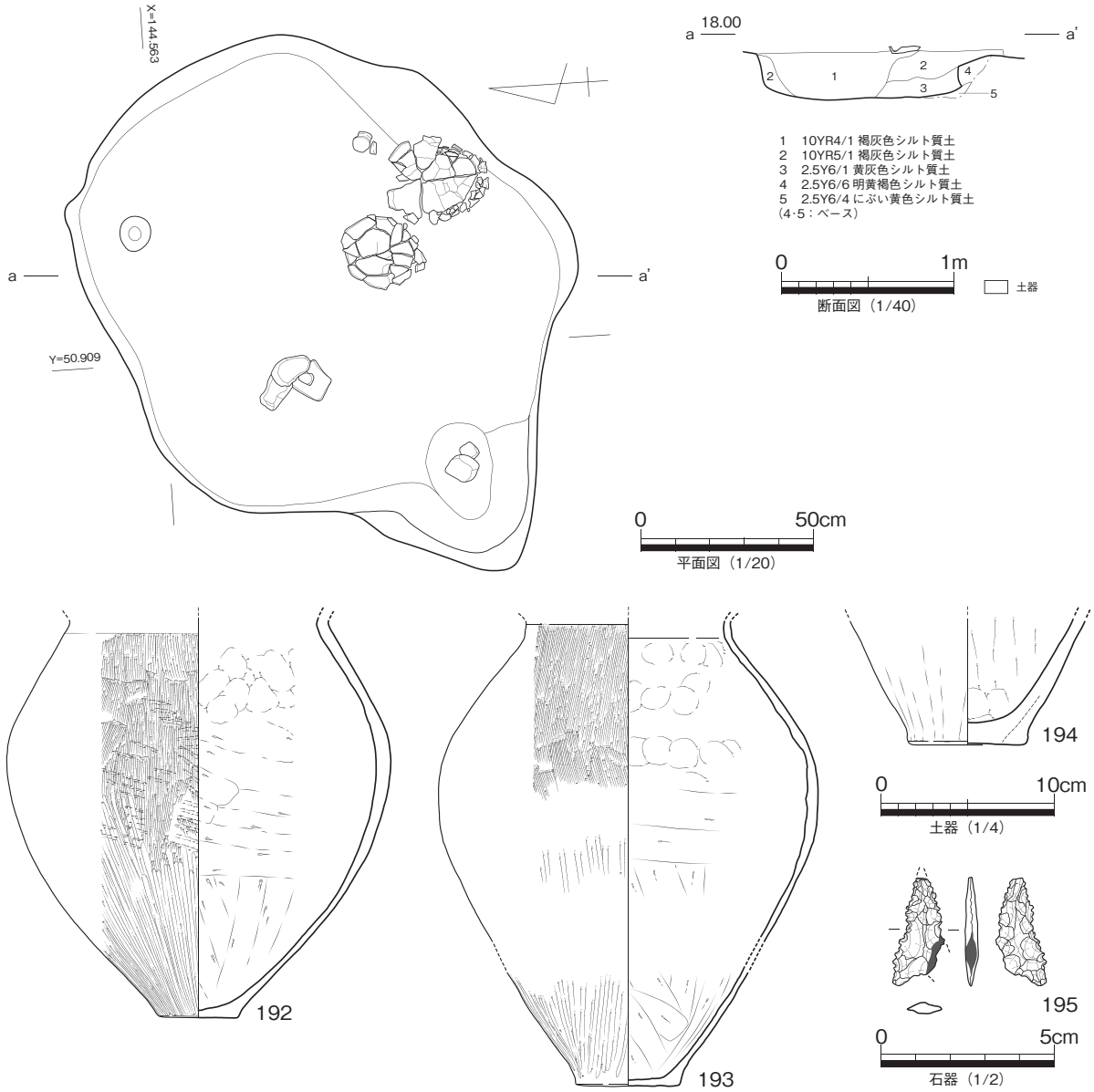
189 ～ 191 は弥生土器である。189 は甕。香東川流域産土器。190 は甕底部。191 はミニチュア土器壺。弥生時代後期中葉に相当する。

遺構の時期は出土遺物により弥生時代後期中葉である。

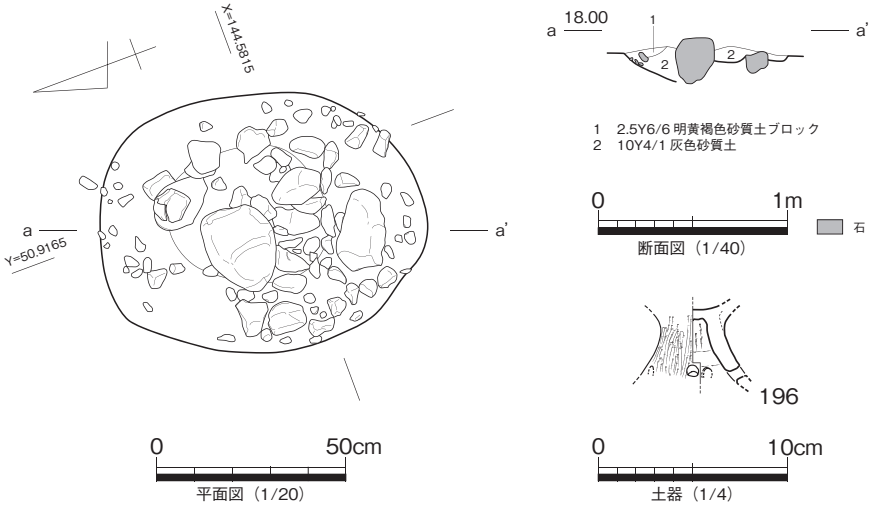
**SK108( 第 55 図 )**

Ⅰ区中央部西端付近で検出した。不整形の土坑で、南西部にやや張り出す深い部分がある。長軸 1.69m、短軸 1.25m、深さ 26.4cmで埋土はおもに褐灰色シルト質土である。

土坑の最上部付近で、北側へ口縁を向けた横向けの状態で甕が 2 個体出土した。削平により上部 1/2 強が欠けた状態で出土した。




第 55 図　SK108　平・断面図、出土遺物



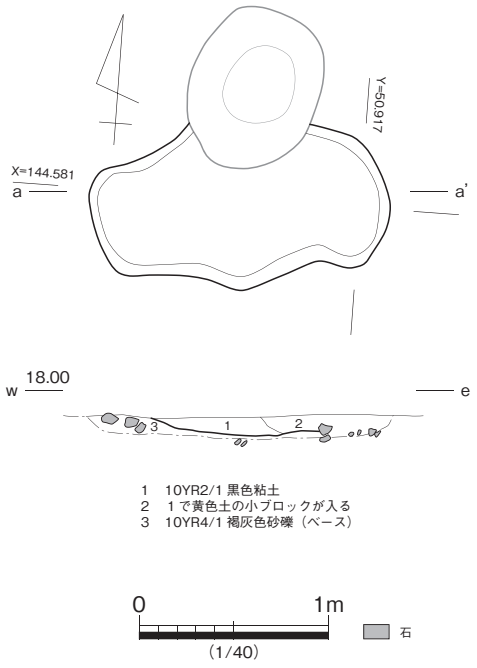

第 56 図　SK110　平・断面図、出土遺物

192 ～ 194 は弥生土器。192･193 は甕。ともに体部外面上半はハケ、下半はヘラミガキで調整し、内面中位から下部にかけてはヘラ削り、上部には指頭圧痕を顕著に残す。194 は甕底部。弥生時代前期Ⅰc 期のもので混入と考えられる。これ以外は弥生時代後期中葉に相当する。195 はサヌカイト製打製石鏃。凹基式。

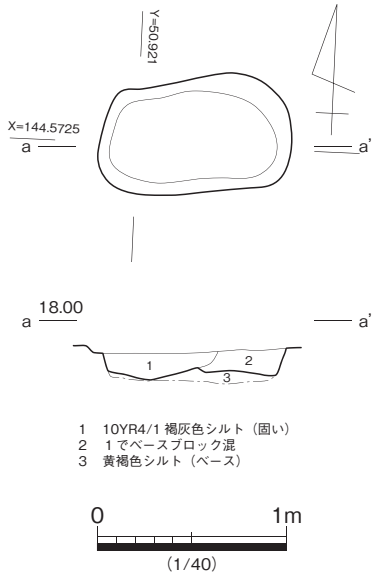
遺構の時期は出土遺物により、弥生時代後期中葉である。

**SK110( 第 56 図 )**

Ⅰ区北部で検出した土坑である。楕円形で長軸 0.85m、短軸 0.69m、深さ 18.1cmである。SK111 の上面から切り込む。土坑内には 5 ～ 20cm大の礫が投棄された状態で出土した。埋土中からは弥生土器甕・高杯・底部などの小片、サヌカイト片が出土した。




第 57 図　SK111　平・断面図




第 58 図　SK113　平・断面図